

# 学習要項

第2学年

2012



東京女子医科大学  
看護学部

# 目 次

東京女子医科大学建学の精神、大学の理念	1
看護学部の教育理念、教育目的、教育目標、第2学年教育目標	2
授業科目および単位数	3
臨地実習における個人情報保護に関する指針	7
<b>科目別到達目標、講義スケジュール</b>	
人間の本質を問う	
心理学	9
人間関係論	11
医療における倫理学	13
論理学	16
生活している人間の環境	
生体防御機構	19
感染看護	22
人間生活と経済	24
社会と人間	26
社会福祉学	29
健康障害と生活の調整	
薬理学	33
病態学・各論Ⅰ（内科系）	40
病態学・各論Ⅱ（外科系）	54
病態学・各論Ⅲ（小児）	75
病態学・各論Ⅳ（母性）	84
病態学・各論Ⅴ（老年）	89
病態学・各論Ⅵ（精神）	92
リハビリテーション	94
働きかけの基本 看護活動	
成人看護学・概論	97
成人看護学・各論Ⅰ（健康各期の看護）	99
成人看護学・各論Ⅱ（専門領域の探求）	103
成人看護学実習Ⅰ	107
老年看護学・概論	110
小児看護学・概論	113
精神看護学・概論	116
母性看護学・概論	118
フィジカルアセスメント	120
人間性を育む	
英語Ⅰ－2	123
英語Ⅳ	130

フランス語 I	136
ドイツ語 II	138
各専門領域への発展	
保健医療統計学	141
情報科学演習 II	143
キャリア発達論 II	145
養護教諭一種免許課程	
教職入門	149
教育学概論	151
教育心理学	153
教育課程論	155
日本国憲法	157
第 2 学年授業担当教員	161
カレンダー	

# 東京女子医科大学

## I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年（平成10年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

## II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

## 看護学部の教育理念

本学部は「女性の社会的地位の向上と経済的自立を目指すと共に、至誠と愛の精神に基づき医療を行う人材を育成する」という創立者吉岡彌生の趣旨を受けつぎ、これを教育の基本理念とする。

本学部における教育は学生が自ら学び成長しようとする向上心を側面から支援することであると考える。それは、学生一人一人の個性を尊重する教師と、自ら学ぼうとする学生との真剣な相互作用の過程において創られるものである。

## 看護学部の教育目的

本学部は、建学の精神に基づき、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成する。すなわち、いかなる状況下においても、医療倫理を遵守し、至誠と愛の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎を確立することを目的とするものである。さらに、本学部の教育は、看護の専門性を追求し、看護学の発展に寄与できるための基礎を養うものである。

## 看護学部の教育目標

看護はあらゆる健康のレベルにある人々を対象とし、それらの人々の健康レベルの向上を目指して援助を行うものであり、この援助活動は、人々の生活を尊重し、人間理解に根ざした関係を基盤として、継続的に行われるものである。看護は人間としてさけられない「生・老・病・死」とかかわりをもちながら、対象者との密接な人間関係を通して行われていくものである。したがって、看護者には豊かな人間性と科学的思考に支えられた創造的・主体的行動が求められる。

本学部は以下の教育目標を掲げる。

- 1) 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
- 2) 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
- 3) 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を養う。
- 4) 研究の基礎能力を養う。
- 5) 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる基盤を養う。
- 6) 國際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

## 第2学年教育目標

- 1) 人間の健康状態を包括的にとらえる基礎的な知識を学ぶ。
- 2) さまざまな発達段階や健康レベルに応じて、人々の生活を援助する理論および方法を理解する。
- 3) 自主性を發揮し、他者との関わりから学び、自己成長を目指す。
- 4) 看護の基礎的な理論および技術を習得し、疾病を持つ人への看護を実践する。

**看護学部の授業科目および単位数**

開講区分	授業科目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数		
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人間の本質を問う	心 理 学	1		15			1						1		
	生物としての人間	2		15	2								2		
	栄養代謝学*	2		23	1	1							2		
	人体の構造と機能*	4		60	2	2							4		
	人間発達論	1		8	1								1		
	人間関係論	1		15				1					1		
	生体の化学	1		8		1							1		
	人間援助論I	1		15	1								1		
	医療における倫理学	2		15			2						2		
	人間援助論II			1	8							1			
	哲学			1	8	1							3		
	女性論			1	8							1			
	論理学			1	8			1							
	計	15	4	206	8	4	4	1	0	0	2	0	18		
生活している人間の環境	生体防御機構*	1		15			1						1		
	感染看護	1		8			1						1		
	疫学*	1		15								1	1		
	医療行政・関係法規	2		30							1	1	2		
	社会福祉学	1		15			1						1		
	家族関係論	1		8					1				1		
	文化人類学			1	8							1			
	社会と人間			1	8		1								
	生活科学論			1	8	1									
	人間生活と法			1	15							1			
	人間生活と経済			1	8				1						
	史学			1	8	1									
	計	7	6	146	2	0	4	1	1	0	2	3	10		
健康障害と生活の調整	健康科学論*	1		15					1				1		
	薬理学*	2		23			1	1					2		
	病態学・概論	2		15		2							2		
	病態学・各論I(内科系)	4		60			2	2					4		
	病態学・各論II(外科系)	2		30			1	1					2		
	病態学・各論III(小児)	1		15				1					1		
	病態学・各論IV(母性)	1		15				1					1		
	病態学・各論V(老年)	1		8				1					1		
	病態学・各論VI(精神)	1		8				1					1		
	人間工学	1		8	1								1		
	保健医療行動科学	1		15								1	1		
	リハビリテーション	1		8				1					1		
	医学特論		1	8								1	0		
	計	18	1	228	1	2	4	9	1	0	0	2	18		

開講区分	授業科目			コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数		
		単位数			1年次		2年次		3年次		4年次				
		必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
働きかけの基本活動	看護学・概論	2		15	2								2		
	基礎看護学・各論Ⅰ* (生活援助論)	2		30	2								2		
	基礎看護学・各論Ⅱ* (診療に伴う援助論)	2		30		2							2		
	基礎看護学・各論Ⅲ* (看護過程論)	1		15		1							1		
	成人看護学・概論	1		8			1						1		
	成人看護学・各論Ⅰ (健康各期の看護)	2		23			2						2		
	成人看護学・各論Ⅱ* (専門領域の探求)	2		23				2					2		
	フィジカルアセスメント	1		15			1						1		
	老年看護学・概論	1		15				1					1		
	老年看護学・各論	2		23					2				2		
	小児看護学・概論*	1		8			1						1		
	小児看護学・各論*	2		30				2					2		
	母性看護学・概論*	1		8			1						1		
	母性看護学・各論*	2		30				2					2		
	地域看護学・概論	1		8				1					1		
	地域看護学・各論*	2		23				2					2		
	精神看護学・概論*	1		8			1						1		
	精神看護学・各論*	2		23				2					2		
	在宅看護論	2		15				2					2		
	基礎看護学実習Ⅰ	1		23	1								1		
	基礎看護学実習Ⅱ	2		45		2							2		
	成人看護学実習Ⅰ*	2		45				2					2		
	成人看護学実習Ⅱ*	4		90						4			4		
	老年看護学実習	2		45					2				2		
	小児看護学実習*	2		45					2				2		
	母性看護学実習	2		45					2				2		
	地域看護学実習Ⅰ	2		45					2				2		
	地域看護学実習Ⅱ★		4	180							4		0		
	精神看護学実習	2		45						2			2		
	統合実習Ⅰ	2		45						2			2		
	統合実習Ⅱ	2		45						2			2		
	健康教育学★★*		1	15						1			0		
	コミュニケーションの理論と実際*		1	15							1		0		
計		53	6	1078	5	5	4	8	13	13	11	0	53		

開講区分	授業科目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数
					1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人間性を育む	フィットネスの理論と実技*	2		30	1	1							2
	英語 I - 1 *	2		30	1	1							2
	英語 I - 2	2		30			1	1					2
	英語 II	2		30					1	1			2
	英語 III		2	30							1	1	
	英語 IV ☆		2	30			(2)		(2)		2		
	ドイツ語 I		2	30	1	1							
	ドイツ語 II		2	30			1	1					
	フランス語 I		2	30			1	1					
	フランス語 II		2	30					1	1			
	中国語		2	30					1	1			4
	日本語学		2	23	1	1							
	美術		2	30	1	1							
	音楽		2	30	1	1							
各専門領域への発展	パフォーマンス芸術論		1	15								1	
	国際関係論		1	8								1	3
	計	8	22	436	6	6	3	3	3	3	3	3	15
	保健医療統計学	1		15				1					1
	情報科学演習 I *	1		15	1								1
	情報科学演習 II *	1		15				1					1
	リエゾン精神看護	1		8							1	1	
	研究方法論	1		15					1				1
	キャリア発達論 I	1		15	1								1
	キャリア発達論 II	1		15			1						1
	キャリア発達論 III	1		15					1				1
	キャリア発達論 IV	1		15						1		1	
	卒業論文	1		15						1			1
	国際看護☆		2	30				(2)		2			0
	先端医療における看護		1	8							1		0
	計	10	3	181	2	0	1	2	2	0	4	2	10
	合計	111	42	2275	24	17	20	24	20	16	22	10	124

\* 印は養護教諭一種免許取得のための必修科目。

★ 印は保健師国家試験受験資格を得るための必修科目。

☆ 印については、海外研修参加年次に履修および単位の認定を行う。

(注) 英語IIIと英語IVの重複単位認定はできない。

### 卒業に要する単位数

開講区分	卒業に要する単位数		
	必修	選択	合計
人間の本質を問う	15	3	18
生活している人間の環境	7	3	10
健康障害と生活の調整	18	0	18
働きかけの基本・看護活動	53	0	53
人間性を育む	8	7	15
各専門領域への発展	10	0	10
計	111	13	124

### 前学期

4月 1日～ 10月 15日まで

### 後学期

10月 16日～ 翌年 3月 31日まで

(注) 「人間性を育む」の選択科目は、語学から4単位以上、その他の科目から3単位以上を履修しなければならない。(詳細は学生便覧を参照のこと)

**養護教諭一種免許課程に関する科目および単位数**

授業科目	単位数	コマ数	配当年次および単位数							
			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
公衆衛生学	2	15					2			
疫学△	1	15								1
健康科学論△	1	15					1			
学校保健	2	15						2		
学校保健管理論	1	8							1	
養護概説	2	15						2		
健康教育学	1	15						1		
コミュニケーションの理論と実際	1	15								1
栄養代謝学△	2	23	1	1						
人体の構造と機能△	4	60	2	2						
生体防御機構△	1	15			1					
薬理学△	2	23			1	1				
精神看護学・概論△	1	8				1				
精神看護学・各論△	2	23					2			
基礎看護学・各論I(生活援助論)△	2	30	2							
基礎看護学・各論II(診療に伴う援助論)△	2	30		2						
基礎看護学・各論III(看護過程論)△	1	15		1						
成人看護学・各論II(専門領域の探求)△	2	23				2				
成人看護学実習I△	2	45				2				
母性看護学・概論△	1	8				1				
母性看護学・各論△	2	30					2			
小児看護学・概論△	1	8				1				
小児看護学・各論△	2	30					2			
小児看護学実習△	2	45						2		
地域看護学・各論△	2	23					2			
教職入門	2	15				2				
教育学概論	2	15			2					
教育心理学	2	15				2				
教育課程論	2	15			2					
教育方法論	2	15						2		
生徒指導論	2	15						2		
教育相談	2	15						2		
教職実践演習(養護教諭)	2	15								2
養護実習	5	113								5
日本国憲法★	2	15			2		(2)		(2)	
フィットネスの理論と実技△	2	30	1	1						
英語I-1△	2	30	1	1						
情報科学演習I△	1	15	1							
情報科学演習II△	1	15					1			

★印については、2年次に履修しておくことが望ましい。

△印については、卒業に必要な必修科目。

# 東京女子医科大学看護学部

## 臨地実習における個人情報保護に関する指針

教務委員会

学則ならびに本学部の教育目的に基づき、学生はいかなる状況下においても医療倫理を遵守することが求められる。本学部学生が臨地実習を行う場合には、以下の学則ならびにガイドライン等に基づき、実習で受け持つ患者様等の個人情報を保護するものとする。

### (1) 学則 第11章 学生に関する規定

(学生に関する規定)

第36条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、学生生活で得られる個人情報は学習の目的のみに利用し、これを生涯守秘することを義務とする。なお、指示に応じてその都度所定の誓約書に署名するものとする。

2. 本学則の定めるもののほか、学生に関する規定を別に定める。

### (2) 東京女子医科大学における個人情報の保護に関するガイドライン

### (3) 東京女子医科大学における情報公開の指針

具体的には、以下の点に留意することとする。

- ①診療録・看護記録等の閲覧は施設内の決められた場所で行うこと。
- ②実習記録には個人が特定できる情報は記載しないこと。
- ③実習記録は厳重に保管し紛失しないこと。
- ④実習終了後は、実習記録を個人の責任のもとに断裁処分すること。



科目別到達目標

講義スケジュール

人間の本質を問う

## 〔心理学〕

科目責任者 松寄 英士

## 目的

複雑な人間行動を理解するためには、まず、人間行動の基本的な法則を理解し、さらに個々の人間の行動特性を考察して行くことが必要であると考えられます。この講義・演習では、行動とその背後に考えられる人間心理を理解することを目的として、心理学の多様な視点について解説していきます。

## 到達目標

心理学とはどのような学問なのかを理解できる。心の仕組みとその様々な働きについて心理学的視点から日常生活での具体例を取り上げ説明できる。動機が充足されない状況とそのもとでの反応・行動の特徴を説明できる。社会の中で生活する個人の行動特徴とその心理について説明できる。心理学的視点から精神的に健康なであるとはどのようなことか、また健康維持・促進のための心理学的援助について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 心理学とは	1. 人間理解への接近	1) 心理学の歴史 2) 研究を理解する（対象、領域、方法）
II. 心の仕組みと働き	1. 知覚 2. 学習 3. 思考	1) 環境を認識する心の働き 1) 学習の基本型と理論 1) 問題解決と思考 2) 推論とその誤り
III. 心の働きと行動の個人差	1. 感情と動機づけ  2. パーソナリティ	1) 感情とは、感情の表出と機能 2) 動機づけのメカニズム、欲求 3) フラストレーションとその解消 4) ストレス 1) パーソナリティの理解 2) 個人差のアセスメント
IV. 社会のなかの心	1. 人間関係 2. 集団	1) 対人認知と帰属理論 1) 集団の心理 2) 社会的影響
V. 精神的健康	1. メンタルヘルス	1) 健康なこころ 2) 心理療法とカウンセリング

成績評価の方法：演習への取り組み、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

## 教科書

二宮克美他 ベーシック心理学 医歯薬出版 2008

## 参考図書

松田隆夫他	心理学概説－心と行動の理解－	培風館	1997
無藤 隆他	心理学	有斐閣ブックス	2004
河合優年他	看護実践のための心理学	メディカ出版	2001
松井 洋他	心理学の探求 88	プレーン出版	1993

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.11	水	10:35~12:00	松嶋 英士	講義の進め方、心理学とは、その歴史と研究
2	4.11	水	13:00~14:25	松嶋 英士	環境を認識する心の働き
3	4.13	金	13:00~14:25	松嶋 英士	学習の基本型と理論
4	4.13	金	14:35~16:00	松嶋 英士	問題解決と思考
5	4.18	水	9:00~10:25	松嶋 英士	推論とその歪み（帰納的推論と演繹的推論、推論の歪み）
6	4.18	水	10:35~12:00	松嶋 英士	感情とは何か、感情の表出と機能
7	4.25	水	9:00~10:25	松嶋 英士	動機づけと欲求
8	4.25	水	10:35~12:00	松嶋 英士	フラストレーション、ストレス
9	5.9	水	10:35~12:00	松嶋 英士	パーソナリティ（理論と測定）
10	5.16	水	13:00~14:25	松嶋 英士	個人差のアセスメント（自己を知る）
11	5.29	火	13:00~14:25	松嶋 英士	対人認知と帰属理論
12	5.30	水	13:00~14:25	松嶋 英士	集団の心理、社会的影響
13	6.5	火	13:00~14:25	松嶋 英士	健康なこころ
14	6.22	金	9:00~10:25	松嶋 英士	心理療法とカウンセリング
15	7.4	水	10:35~12:00	松嶋 英士	試験

## 〔人間関係論〕

科目責任者 諏訪 茂樹

## 目的

高度な対人関係能力が、看護職には要求される。個人・コミュニケーション・人間関係という図式に基づき、人間関係への理解を深めると同時に、演習（体験学習）を通して対人関係能力の向上をはかる。

演習は徐々に高度となるために、継続的な参加が望まれる。

## 到達目標

1. 感情に基づく人間関係の問題に対処することができる。
2. 自分から見た自分、自分から見た他者、他者から見た自分などについて、理解することができる。
3. 言語、準言語、非言語により、メッセージを上手く共有することができる。
4. メッセージの影響について、説明することができる。
5. 各場面にふさわしい言葉遣いや言葉かけを実践することができる。
6. 各場面で必要な人間関係を築くことができる。

大項目	中項目	小項目
I. 個人	1. 対人感情 2. 対人認知	1) 好意と嫌悪 2) 大好きと大嫌い 1) 他者理解 2) 自己理解 3) 他己理解
II. コミュニケーション	1. コミュニケーション効果 2. コミュニケーション技法 3. ケーススタディ	1) 敬語 2) 嫌われる言葉と喜ばれる言葉 3) 言語と準言語と非言語 1) うなずきと相づち 2) 聞き手の姿勢 3) 要約と共感 1) 聞くと聴く 2) 対決と受容 3) 励ましと共感 4) ティーチングとコーチング
III. 人間関係	1. 状況対応モデル	1) 危機対処時 2) 会議時 3) 通常時

## 評価方法

筆記試験の結果から、欠席 1 回につき 5 点を差し引くことで、成績を評価する。演習を頻繁に取り入れることになるが、ただ教室にいるだけで演習に参加しなければ、欠席扱いとなる。

## 教科書

諏訪茂樹 対人援助とコミュニケーション 第2版 中央法規出版 2010

※教科書はワークブックとしても使用するために、未使用のものを必ず持参すること。

## 参考図書

授業時に紹介する。

## &lt;講義スケジュール&gt;

## A グループ

1	2013.2.4	月	10:35～12:00	諏訪 茂樹	対人感情（講義・演習）
2	2.4	月	13:00～14:25	諏訪 茂樹	対人認知（演習）
3	2.4	月	14:35～16:00	諏訪 茂樹	対人認知（講義・演習）
4	2.6	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果（講義・演習）
5	2.6	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果（講義・演習）
6	2.6	水	14:35～16:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果（講義・演習）
7	2.7	木	10:35～12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション技法（演習）
8	2.7	木	13:00～14:25	諏訪 茂樹	コミュニケーション技法（演習）
9	2.7	木	14:35～16:00	諏訪 茂樹	ケーススタディ（講義・演習）
10	2.8	金	10:35～12:00	諏訪 茂樹	状況対応モデル（演習）
11	2.8	金	13:00～14:25	諏訪 茂樹	状況対応モデル（演習）
12	2.8	金	14:35～16:00	諏訪 茂樹	状況対応モデル（演習）
13	2.12	火	10:35～12:00	諏訪 茂樹	対人認知（演習）
14	2.12	火	13:00～14:25	諏訪 茂樹	まとめ
15	2.12	火	14:35～16:00	諏訪 茂樹	試験

## B グループ

1	2013.1.8	火	10:35～12:00	諏訪 茂樹	対人感情（講義・演習）
2	1.8	火	13:00～14:25	諏訪 茂樹	対人認知（演習）
3	1.8	火	14:35～16:00	諏訪 茂樹	対人認知（講義・演習）
4	1.9	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果（講義・演習）
5	1.9	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果（講義・演習）
6	1.9	水	14:35～16:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果（講義・演習）
7	1.10	木	10:35～12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション技法（演習）
8	1.10	木	13:00～14:25	諏訪 茂樹	コミュニケーション技法（演習）
9	1.10	木	14:35～16:00	諏訪 茂樹	ケーススタディ（講義・演習）
10	1.11	金	10:35～12:00	諏訪 茂樹	状況対応モデル（演習）
11	1.11	金	13:00～14:25	諏訪 茂樹	状況対応モデル（演習）
12	1.11	金	14:35～16:00	諏訪 茂樹	状況対応モデル（演習）
13	1.15	火	10:35～12:00	諏訪 茂樹	対人認知（演習）
14	1.15	火	13:00～14:25	諏訪 茂樹	まとめ
15	1.15	火	14:35～16:00	諏訪 茂樹	試験

## 〔医療における倫理学〕

科目責任者 足立 智孝

## 目的

現代の医療をめぐる諸問題について、倫理的な観点から理解できるようになる。

## 到達目標

1. 代表的な倫理理論について説明できる。
2. 基本的な医療倫理原則について説明できる。
3. 伝統的「医の倫理」と現代の医療倫理の違いを説明できる。
4. 各種医療において生じる倫理問題を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 倫理理論	1. 功利主義 2. カント主義 3. 徳の倫理	中項目で挙げた各倫理理論の利点および欠点について
II. 医療倫理原則	1. 無危害の原則 2. 仁恵（恩恵）の原則 3. 自律尊重の原則 4. 正義の原則	1) 危害の概念 2) 治療の差し控えと中止 3) 二重効果の原則 4) 殺すことと死なせること 1) 仁恵の概念 2) 義務的仁恵と理想的仁恵 3) パターナリズム 4) 利益と危害の比較 1) 自律の概念および性質 2) 自律的な選択能力 3) インフォームドコンセント 4) 代理意思決定の基準 1) 正義の概念 2) 正義の理論 3) 公正の機会 4) ヘルスケア資源の配分
III. 医療倫理原則の適用	1. 個別的な事案の検討 2. 総括	個別的な倫理事案については以下の問題を取り上げる予定である。 1) 遺伝子医療 2) 生殖補助医療 3) 移植医療（脳死と臓器移植） 4) 終末期医療（真実告知、安楽死・尊厳死） 5) 緩和医療

## 医療における倫理学

成績評価の方法：講義への出席、講義課題への取り組み、レポートにより、総合的に評価する。

教科書：なし

### 参考図書

トム・ビーチャム、ジェイムズ・チルドレス『生命医学倫理 第5版』麗澤大学出版会 2009

丸山マサ美編『医療倫理学 第2版』中央法規出版、2009

その他については、講義の中で適宜指示する。

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.17	火	9:00~10:25	足立 智孝	イントロダクション（倫理と道徳との差違など）
2	4.24	火	9:00~10:25	足立 智孝	伝統的「医の倫理」と現代の医療倫理の比較1
3	5.8	火	9:00~10:25	足立 智孝	伝統的「医の倫理」と現代の医療倫理の比較2
4	5.15	火	9:00~10:25	足立 智孝	先端医療から生じる倫理的法的社会的問題
5	6.5	火	9:00~10:25	足立 智孝	倫理問題の考え方(1):直観から合理的思考へ
6	6.12	火	9:00~10:25	足立 智孝	倫理問題の考え方(2):倫理理論
7	6.19	火	9:00~10:25	足立 智孝	倫理問題の考え方(3):医療倫理原則
8	6.26	火	9:00~10:25	足立 智孝	個別的な事案の検討(1):遺伝子医療1
9	7.3	火	9:00~10:25	足立 智孝	個別的な事案の検討(2):遺伝子医療2
10	7.10	火	9:00~10:25	足立 智孝	個別的な事案の検討(3):生殖補助医療1
11	9.11	火	9:00~10:25	足立 智孝	個別的な事案の検討(4):生殖補助医療2
12	9.18	火	9:00~10:25	足立 智孝	個別的な事案の検討(5):移植医療技術1
13	9.25	火	9:00~10:25	足立 智孝	個別的な事案の検討(6):移植医療技術2
14	10.2	火	9:00~10:25	足立 智孝	個別的な事案の検討(7):終末期医療
15	10.9	火	9:00~10:25	足立 智孝	個別的な事案の検討(8):緩和医療

## 論理学

### 〔論理学〕（選択科目）

科目責任者 古田 知章

#### 目的

論理学を、言葉に対しての意識を高めるという観点から学ぶ。このなかでは、人間の生きることと論理との関係、言語や記号による表現とその意味の成立、主張の整合性などの論理についての基礎的知識を学び、日常的な思考やコミュニケーションといった実際の場面での論理のあり方を検討する。

#### 到達目標

1. 言葉を使うことが人間として生きることの本質にかかわることを実感する。
2. 言葉の意味がどのように成立するのかを知る。
3. 言葉や主張の意味が、その場の状況や対話相手との関係性によって変化することを学ぶ。
4. 正しい形式で言葉をつなぎ、状況に応じた言葉の選択や主張の形成ができるようになる。
5. 他者の主張の内容を把握し、その正しさの判断ができるようになる。

大項目	中項目	小項目
1. 人間と論理との関係	1. 人が生きることのなかでの論理	1) 生きることと論理 2) 出来事に対しての論理の立場
2. 意味の成立	1. 言語や記号による表現と主張との関係	1) 意味の成立と言葉の連関 2) 主張の含む内容と形式
3. 主張の論理性	1. 実際の場面での論理の役割	1) 主張の正しさとその根拠 2) 主張の真偽判断

成績評価の方法：試験によって評価する。

#### 教科書

特に指定せず、隨時必要な資料を配布する。

#### 参考図書

野矢茂樹 著	新版 論理トレーニング	産業図書	2009
近藤洋逸、好並英司 著	論理学入門	岩波書店	1979

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.5.23	水	9:00～10:25	古田 知章	ガイダンス 論理学的発想
2	5.23	水	10:35～12:00	古田 知章	人間の生きることと論理
3	5.28	月	9:00～10:25	古田 知章	出来事に対しての論理の立場
4	5.30	水	9:00～10:25	古田 知章	意味の成立と言葉の連関
5	5.30	水	10:35～12:00	古田 知章	主張の含む内容と形式
6	6.13	水	9:00～10:25	古田 知章	主張の真偽とその根拠
7	6.13	水	10:35～12:00	古田 知章	主張の真偽判断
8	6.20	水	9:00～10:25	古田 知章	試験



生活している人間の環境

## 〔生体防御機構〕

科目責任者 八木 淳二  
 科目担当者 八木 淳二、塙原 高広、今西 健一  
                   有村 裕、荒明美奈子、春田 郁子、  
                   加藤 秀人、ミヤケ深雪、柳沢 直子

## 目的

生体のまわりには様々な侵襲因子が存在し、生体に障害的に作用しようとしている。一方、生体側も種々の防御反応により生体を守ろうとしている。この「生体防御機構」では、主たる侵襲因子である病原微生物の基礎知識と感染症成立のメカニズム、免疫反応による生体の防御作用とその異常の基礎知識について学習する。

## 到達目標

微生物の種類と違いを説明できる。代表的な病原微生物の基本性状、病原性および疾患を概説できる。それらに抗する免疫システムの構成、機能、およびその破綻による生体異常反応を概説できる。

大項目	中項目	小項目
I . 微生物学 A. 一般特性	1. 微生物の一般的性状 2. 微生物の検査方法 3. 環境と微生物 4. 感染と発症 5. 微生物の取り扱いと規制	1) 分類と形態 2) 増殖のしかた 3) 病原因子 1) 細菌学的検査法 2) 血清学的検査法 3) 迅速診断 1) 身の回りに存在する微生物 2) 常在細菌叢 3) 食中毒 1) 感染の定義 2) 感染の経路 3) 発症の機構 4) 日和見感染・院内感染 1) 消毒と滅菌 2) 感染症法
B. 病原微生物	1. 病原性細菌	1) グラム陽性菌（黄色ブドウ球菌、化膿レンサ球菌、肺炎球菌） 2) グラム陰性菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、コレラ菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ菌、百日咳菌） 3) 嫌気性菌（破傷風菌、ボツリヌス菌） 4) 有芽胞菌（炭疽菌） 5) 抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌） 6) スピロヘータ 7) リケッチャ

## 生体防御機構

大項目	中項目	小項目
	2. 病原性真菌 3. 病原性ウイルス	8) クラミジア 9) マイコプラズマ  1) カンジダ 2) アスペルギルス 3) クリプトコッカス  1) DNA ウィルス (痘瘡ウイルス、単純ヘルペスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルス) 2) RNA ウィルス (ポリオウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス、麻疹ウイルス) 3) 肝炎ウイルス 4) レトロウイルス (ヒト免疫不全ウイルス)
II. 免疫学	1. 免疫応答 2. 免疫担当細胞 3. 抗原と抗体 4. ワクチンと予防接種 5. 免疫反応の異常	1) 自然免疫と獲得免疫 2) 液性免疫と細胞性免疫 3) 受動免疫と能動免疫  1) アレルギー疾患 2) 自己免疫疾患 3) 免疫不全症
III. 寄生虫学	1. 寄生虫感染症	1) 線虫症 (回虫症、アニサキス症、蟻虫症) 2) 吸虫症 (日本住血吸虫症、肝吸虫症) 3) 条虫症 (日本海裂頭条虫症、包虫症) 4) 原虫症 (赤痢アーベバ症、マラリア)

成績評価の方法：出席日数、筆記試験結果、実習レポート等により総合的に評価する。

### 教科書

南嶋洋一、吉田真一 著 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進[4] (第11版) 医学書院 2009

### 参考図書

吉田真一、柳 雄介 編 戸田新細菌学 第33版	南山堂	2007
矢野郁也 <sub>他</sub> 編 病原微生物学	東京化学同人	2002
矢田純一 著 医系免疫学 改訂第11版	中外医学社	2009
吉田幸雄、有薗直樹 図説人体寄生虫学 第7版	南山堂	2006

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012. 4. 26	木	10:35~12:00	八木 淳二	微生物学総論、免疫学総論
2	5. 7	月	13:00~14:25	荒明美奈子	グラム陰性菌、感染症法
3	5. 11	金	13:00~14:25	柳沢 直子	グラム陽性菌、有芽胞菌、嫌気性菌、抗酸菌
4	5. 14	月	13:00~14:25	今西 健一	DNAウイルス、RNAウイルス
5	5. 14	月	16:10~17:35	有村 裕	スピロヘータ、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ、真菌
6	5. 21	月	13:00~14:25	春田 郁子	肝炎ウイルス、レトロウイルス
7	5. 25	金	13:00~14:25	加藤 秀人	免疫応答、抗原と抗体、ワクチンと予防接種
8	5. 28	月	13:00~14:25	ミヤケ深雪	アレルギー、自己免疫、免疫不全
9	6. 11	月	9:00~10:25	八木 淳二	試験
10	9. 26	水	13:00~14:25	八木 淳二他	実習1 無菌操作の基本・環境に存在する菌・手洗い実験・供覧標本の観察
11	9. 26	水	14:35~16:00	八木 淳二他	実習1 無菌操作の基本・環境に存在する菌・手洗い実験・供覧標本の観察
12	9. 27	木	13:00~14:25	八木 淳二他	実習2 分離培養・菌の抵抗性・実習1の結果観察・供覧標本の観察
13	9. 27	木	14:35~16:00	八木 淳二他	実習2 分離培養・菌の抵抗性・実習1の結果観察・供覧標本の観察
14	9. 28	金	13:00~14:25	塙原 高広	寄生虫感染症
15	9. 28	金	14:35~16:00	八木 淳二他	実習3 実習2の結果観察・供覧標本の観察

※ 実習1～3は中央校舎7階700教室（医学部校舎）にて授業をおこないます。

なお、9月28日（金）3限目は看護学部校舎にて講義を行い、4限目は医学部中央校舎にて実習となりますので、ご注意下さい。

## 感染看護

### 〔感染看護〕

科目責任者 大友 陽子  
科目担当者 大友 陽子、富安 純子

#### 目的

感染の伝播様式を理解し、科学的根拠に基づく感染対策基礎知識と、臨床実践に必要な感染防止技術を学習する。

#### 到達目標

1. 感染対策の必要性と基本的な考え方を説明できる。
2. 処置別感染対策の知識と技術を学び、臨床実践の重要性を説明できる。
3. 臨床看護を通じて生じる職業感染のリスクを学び、その防止策について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I . 感染対策の基本	1.スタンダードプリコーション 2.感染経路別対策 3.器具器材の取り扱い	1) 接触感染対策 2) 飛沫感染対策 3) 空気感染対策 1) 洗浄 2) 消毒 3) 清潔
II . 処置別感染対策	1.カテーテル関連の感染防止 2.手術部位の感染防止 3.人工呼吸器使用中の感染防止	1) 尿道カテーテルの感染対策 2) 血管内カテーテルの感染対策
III . 職業感染対策	1.健康管理 2.曝露時の対応	

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

#### 教科書

なし

#### 参考図書

洪 愛子 編	感染対策の必須テクニック 117	メディカ出版	2010
インフェクションコントロール編集室 編	感染対策らくらく完全図解マニュアル	メディカ出版	2009
坂本史衣 編	感染対策 Nursing Note	メディカ出版	2008

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.9.11	火	10:35~12:00	大友陽子	スタンダードプリコーション
2	9.13	木	13:00~14:25	大友陽子	感染経路別対策
3	9.13	木	14:35~16:00	富安純子	器具器材の取り扱い
4	9.20	木	10:35~12:00	富安純子	カテーテル関連の感染防止
5	9.25	火	10:35~12:00	富安純子	手術部位の感染防止
6	10.5	金	10:35~12:00	富安純子	人工呼吸器使用中の感染防止
7	10.9	火	13:00~14:25	富安純子	健康管理と曝露時の対応
8	10.15	月	9:00~10:25	大友陽子	試験

[人間生活と経済] (選択科目)

科目責任者 山崎 康之

目的

経済学についての入門的な講義を行います。そこで使われる基礎的な概念とそれらを学ぶ際に身につけておくべき「経済学的な考え方」をできるだけわかりやすく説明したいと思っています。

到達目標

1. 実際に使える経済学の基礎を身につける。
2. 経済のニュースの内容が理解できるようになる。
3. 経済の動きを把握して将来の人生に生かせるようになる。
4. ビジネス上の問題を分析し、解決できる力を身につける。

大項目	中項目	小項目
I. 経済の世界	1. 経済とは何か 2. 経済学の考え方	1) 経済主体と財・サービス 2) 循環構造 1) 合理的な行動 2) 機会費用
II. ミクロ経済学	1. 需要・供給 2. 價格の決定	1) 消費者（家計）の行動 2) 生産者（企業）の行動 1) 均衡 2) 市場の効率性
III. マクロ経済学	1. 国民所得の諸概念 2. 国民所得水準の決定	1) GDP 2) 三面等価の原則 1) 45°線モデル 2) 財政政策と金融政策

成績評価の方法：試験結果、出席日数等により総合的に評価します。

教科書

飯田泰之 世界一シンプルな経済入門 エンターブレイン 2010  
経済は損得で理解しろ！  
日頃の疑問からデフレまで

参考図書

細野真宏 最新版 経済のニュースがよくわかる本〈日本経済編〉 小学館 2003  
細野真宏 経済のニュースがよくわかる本〈世界経済編〉 小学館 2003

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.10.23	火	13:00～14:25	山崎 康之	経済学ってなんですか？
2	10.23	火	14:35～16:00	山崎 康之	競争ってすばらしい？
3	11.6	火	13:00～14:25	山崎 康之	景気って何ですか？
4	11.6	火	14:35～16:00	山崎 康之	経済政策って何ですか？
5	11.20	火	13:00～14:25	山崎 康之	個人はどう生活すればいいですか？
6	11.20	火	14:35～16:00	山崎 康之	日本経済ってどうなんですか？
7	12.4	火	13:00～14:25	山崎 康之	政策、ニュースの正しい見方
8	12.4	火	14:35～16:00	山崎 康之	試験

〔社会と人間〕(選択科目)

科目責任者 諏訪 茂樹

目的

様々な社会現象を理解する手がかりの一つは、行為者にとっての主観的な意味であり、その背後には行為者の欲求や信念、社会の規範や制度などがある。本講義では、「なぜ?」という問い合わせを出発点として、社会学や社会心理学のキーワードを使いながら、様々な社会現象の意味を解明し、「社会と人間」というテーマへの理解を深めていく。

到達目標

1. 様々な社会現象の意味について考え、説明することができる。
2. 自分や他者や集団との関係で自分自身を理解し、説明することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 総論	1. 私と私 2. 私と他者 3. 私と集団 4. 私と社会	1) なぜ自分を探すの? 2) なぜ自分を嫌うの? 1) なぜ友人はいらないの? 2) なぜ一人だと嫌なの? 1) なぜイジメに加わるの? 2) なぜ反対意見を言えないの? 1) なぜ引きこもるの? 2) なぜ有名になりたいの? 1) なぜ結婚しないの? 2) なぜ子供を育てないの?
II. 各論	1. 家族 2. 地域 3. 教育 4. 産業 5. 福祉 6. 医療	1) なぜ都会で暮らすの? 2) なぜ田舎で暮らすの? 1) なぜ進学するの? 2) なぜ退学するの? 1) なぜ就職できないの? 2) なぜ転職するの? 1) なぜ老夫婦で暮らしているの? 2) なぜ施設に入らないの? 1) なぜ延命を拒否するの? 2) なぜ医療者を訴えるの?

評価方法

出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

特に指定しないが、次の参考図書の中から1冊を選び、講読することをすすめる。

参考図書

- 井上俊・船津衛編　自己と他者の社会学　有斐閣アルマ　2005  
池田勝徳 編著　社会学的アプローチ　社会の諸相を把握する　新泉社　2005  
見田宗介　社会学入門－人間と社会の未来　岩波新書　2006

稻葉振一郎　　社会学入門—“多元化する時代”をどう捉えるか　　NHKブックス　　2009  
池上知子・遠藤由美　　グラフィック社会心理学　　サイエンス社　　2009  
山田一成・結城雅樹・北村英哉　　よくわかる社会心理学　　ミネルヴァ書房　　2007  
藤村正之編　　いのちとライフコースの社会学　　弘文堂　2011

<講義スケジュール>

1	2012.4.12	木	13:00～14:25	諏訪 茂樹	私と私
2	4.12	木	14:35～16:00	諏訪 茂樹	私と他者
3	4.19	木	9:00～10:25	諏訪 茂樹	私と集団
4	4.19	木	10:35～12:00	諏訪 茂樹	私と社会
5	4.26	木	13:00～14:25	諏訪 茂樹	家庭と地域
6	4.26	木	14:35～16:00	諏訪 茂樹	教育と産業
7	5.10	木	13:00～14:25	諏訪 茂樹	医療と福祉
8	5.10	木	14:35～16:00	諏訪 茂樹	まとめ、試験

## 〔社会福祉学〕

科目責任者 柳田 正明

## 目的

社会保障の理念と基本的な制度の考え方について理解する。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解する。

## 到達目標

1. 社会保障、社会福祉の理念制度を把握し、特に保健医療の関連から、その重要性を認識する。
2. 生活上にあるリスクへの対応としての社会福祉の方法を看護との連携などを含めて理解する。

大項目	中項目	小項目
I. 社会保障の理念	1. 保健医療福祉活動の基本方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 概念、目的、機能、体系、内容</li> <li>b. 人権、日本国憲法 25 条</li> <li>c. 倫理</li> <li>d. ノーマライゼーション</li> <li>e. 情報公開、地方分権、参加</li> <li>f. 社会保障給付費</li> <li>g. 社会保障制度改革</li> </ul>
II. 社会保険制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保険の変遷</li> <li>2. 医療保険制度</li> <li>3. 介護保険制度</li> <li>4. 年金制度</li> <li>5. その他の社会保険制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 歴史、意義</li> <li>b. 国民皆保険・皆年金</li> <li>a. 健康保険、国民健康保険、高齢者の医療制度</li> <li>b. 保険給付と利用者負担</li> <li>c. 医療保険の財政</li> <li>d. 保険診療のしくみ</li> <li>e. 公費負担医療</li> <li>f. 国民医療費</li> <li>a. 制度の基本理念</li> <li>b. 保険者・被保険者</li> <li>c. 要介護・要支援の認定</li> <li>d. 保険給付と利用者負担</li> <li>e. ケアマネジメント</li> <li>f. 介護保険の財政</li> <li>g. 介護保険事業計画</li> <li>a. 制度の体系</li> <li>b. 給付と費用負担</li> <li>a. 雇用保険法</li> <li>b. 労働者災害保障保険法</li> </ul>
III. 社会福祉諸法の理念と施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の理念と変遷</li> <li>2. 生活保護法と施策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法</li> <li>b. 措置制度から選択、利用制度へ</li> <li>c. 利用者保護の制度</li> <li>a. 生活保護の基本原理と実施の原則</li> <li>b. 実施機関</li> <li>c. 扶助の種類と内容</li> </ul>

大項目	中項目	小項目
IV. 社会福祉行政	3. 障害者(児)の施策 4. 児童への施策 5. 老人への施策 6. その他の施策	a. 障害者基本法 b. 障害者自立支援法 c. 身体障害者福祉法 d. 知的障害者福祉法 e. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 a. 児童福祉法 b. 児童虐待の防止等に関する法律 c. 母子及び寡婦福祉法 d. 少子化対策 a. 老人福祉法 a. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する制度〈DV法〉

## 評価方法

出席状況（50%）、適宜のリアクション・ペーパー、試験（50%）で総合的に評価する。

## 教科書

特に定めないが、体系的なシリーズにあるテキストを通読すること

## 参考図書

厚生労働省 監	厚生労働白書	ぎょうせい	2011
厚生統計協会 編	国民の福祉の動向	厚生統計協会	2011
柳田正明 <sub>他</sub> 編	障害者福祉・支援論	第一法規	2009

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.27	金	9:00~10:25	柳田 正明	社会保障の理念 概念、目的、機能、体系、内容 人権、憲法25条、倫理、ノーマライゼーション 情報公開、地方分権、参加、 社会保障給付費、社会保障制度改革
2	4.27	金	10:35~12:00	柳田 正明	社会保険の変遷（歴史、意義、国民皆保険、皆年金） 健康保険、国民健康保険、高齢者医療制度、 保険給付と利用者負担、医療保険財政 保険診療のしくみ、公費負担医療、国民医療費
3	5.11	金	9:00~10:25	柳田 正明	介護保険制度 制度の基本理念、保険者・被保険者、 要介護・要支援の認定 保険給付と利用者負担、ケアマネジメント、 介護保険財政、介護保険事業計画
4	5.11	金	10:35~12:00	柳田 正明	年金制度とその他の社会保障制度 (年金制度の体系および給付と費用負担、 雇用保険法、労働災害保障保険法)
5	5.25	金	9:00~10:25	柳田 正明	社会福祉の理念と変遷
6	5.25	金	10:35~12:00	柳田 正明	障害者（児）福祉1
7	6.8	金	9:00~10:25	柳田 正明	障害者（児）福祉2
8	6.8	金	10:35~12:00	柳田 正明	児童福祉1
9	6.15	金	9:00~10:25	柳田 正明	児童福祉2
10	6.15	金	10:35~12:00	柳田 正明	生活保護1
11	6.29	金	9:00~10:25	柳田 正明	生活保護2
12	6.29	金	10:35~12:00	柳田 正明	高齢者福祉、老人保健福祉計画
13	7.6	金	9:00~10:25	柳田 正明	地域福祉
14	7.6	金	10:35~12:00	柳田 正明	社会福祉行政、民間活動、マンパワー、社会福祉行政
15	7.13	金	10:35~12:00	柳田 正明	試験



# 健康障害と生活の調整

## 〔薬理学〕

科目責任者 丸 義朗

科目担当者 平塚 佐千枝、塙原 富士子、富田 育、  
出口 敦子、家口 勝昭、瀧田 守親

## 目的

最適な薬物療法を行うための基礎的知識の修得を目的とする。薬物と生体の反応、特に薬物の作用と副作用、そして各種の薬物の特徴等について述べる。また病態がどのように正常化されるかを生体の機能との関連で追求し、薬物を正しく用いる基礎知識を理解する。

## 到達目標

主要な薬物の生体における作用点、作用機序を理解する。

薬物の生体における代謝を理解する。

薬物の重大な副反応を理解、記憶する。

病態や症状の緩和、治癒の為の適応すべき薬物を理解する。

大項目	中項目	小項目
I. 薬物と生体の相互作用	1. 生体と薬物概論 2. 薬物の作用機序 3. 用量と反応の関係 4. 薬効に影響する因子	1) 薬の概念 a) 薬の歴史 b) 薬の種類、薬局方 c) 薬と法律 2) 薬理作用 a) 薬理作用の基本形式（興奮、抑制等） b) 作用部位 c) 作用の選択性、特異性 d) 主作用、副作用、有害作用  1) 薬物受容体 2) 薬物の構造活性相関 3) 細胞内情報伝達系 4) 受容体を介さない作用 1) 治療量、致死量（ED <sub>50</sub> 、LD <sub>50</sub> ） 2) 毒薬、劇薬、普通薬 3) 用量—反応曲線 1) 用量、投与法 2) 年齢、性 3) プラセボ 4) 感受性 5) 薬物相互作用 6) 耐性・依存性

大項目	中項目	小項目
II. 薬物の作用と作用機序	5. 薬物の体内動態 1. 中枢神経作用薬 2. 末梢神経作用薬 3. 生理活性物質 4. 循環器系作用薬 5. 利尿薬 6. 子宮収縮薬 7. 消化器系作用薬 8. 呼吸器作用薬 9. ホルモン・ビタミン 10. 化学療法薬	1) 薬物血中濃度 2) 吸收 3) 体内分布 4) 薬物代謝 5) 排泄  1) 全身麻酔薬 2) 催眠薬、抗不安薬 3) 抗精神病薬、抗うつ薬 4) パーキンソン症候群治療薬 5) 抗てんかん薬 6) 麻薬性鎮痛薬 1) 交感神経作用薬 2) 副交感神経作用薬 3) 神経節作用薬 4) 筋弛緩薬 5) 局所麻酔薬 1) ヒスタミン 2) セロトニン 3) アンジオテンシン 4) エイコサノイド 1) 強心薬 2) 抗狭心症薬 3) 抗不整脈薬 4) 抗高血圧薬 1) 浸透圧利尿薬 2) 炭酸脱水酵素阻害薬 3) チアジド系利尿薬 4) ループ利尿薬 5) カリウム保持性利尿薬 1) オキシトシン 2) プロスタグランジン 3) 麦角アルカロイド 1) 消化薬 2) 消化性潰瘍治療薬 3) 下剤 4) 催吐薬、制吐薬 1) 呼吸興奮薬 2) 鎮咳薬、去痰薬 3) 気管支喘息治療薬 1) フィードバック機構 2) ホルモン作用と情報伝達 3) 下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、性ホルモン、膵臓ホルモン、カルシウム調節ホルモン、他 1) 抗感染症薬、消毒薬 2) 抗腫瘍薬

成績評価の方法：試験結果等により総合的に評価する。

教科書

中谷晴昭、大橋京一 薬とのかかわり、臨床薬理学（シリーズ看護の基礎科学、第7巻）  
日本看護協会出版会 2012

参考図書

鹿取 信 監 今井正、宮本英七 編	標準薬理学 第6版	医学書院	2005
田中千賀子、加藤隆一	NEW 薬理学 改訂第5版	南江堂	2011
遠藤 仁、橋本敬太郎、後藤勝年	医系薬理学 改訂2版	中外医学社	2005
柳沢輝行、谷内一彦	新薬理学入門 改訂3版	南山堂	2008
日本薬局方解説書編集委員会 編	日本薬局方解説書 第15改正	廣川書店	2006

## 薬理学

### [薬理学]

科目責任者 丸 義朗  
科目担当者 志賀 剛

#### 目的

医療は絶えず進歩しており、新しい作用機序の薬が次々と創り出されている。しかし、新薬に対して正しい評価を行うために、臨床試験が不可欠である。その倫理的側面と科学的側面を学ぶ。また、Research Nurse といった臨床試験における看護師の役割にも触れる。

#### 到達目標

- ヘルシンキ宣言の骨子を理解する。
- 臨床研究と日常診療の違いを理解する。
- 治験の目的を説明できる。

大項目	中項目	小項目
薬物と生体の相互作用	生体と薬物概論	医薬品の開発と臨床試験

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出により総合的に評価する。

#### 教科書

講義資料を配布します。

#### 参考図書

シリーズ 看護の基礎科学 7 薬とのかかわり 臨床薬理学（中谷晴昭、大橋京一編）  
日本看護協会出版会, 2001

## 〔薬理学〕

科目責任者 丸 義朗  
科目担当者 木村 利美

## 目的

医薬品の特性から、取り扱いが法的に規制されている医薬品の正しい知識を修得する。また、病院内での具体的な管理方法についても理解する。また、薬害問題について学び、その原因、重大性、防止対策に関して習得する。

## 到達目標

1. 薬品の法的区分を理解して、薬品の管理・取り扱い方法について説明ができる
2. 有害事象発現時における患者補償制度について説明できる
3. 重大な副作用について、防止のための患者指導ができる

大項目	中項目	小項目
I. 医薬品と法	1. 薬事法による規制  2. 麻薬および向精神薬取締法による規制  3. 覚せい剤取締法による規制	1) 毒薬、劇薬、普通薬の区別と管理 2) 処方せん医薬品、習慣性医薬品、生物由来製品、特定生物由来製品の区分と管理  1) 麻薬の特性と種類 2) 麻薬施用者免許と麻薬処方せん 3) 麻薬の管理 4) 向精神薬の特性と種類 5) 向精神薬の管理  1) 覚せい剤の特性と種類 2) 覚せい剤の管理
II. 薬害問題	1. 薬の副作用と薬害  2. 薬害の歴史  3. 薬害防止対策	1) 総論 2) 薬の有効性と安全性情報  1) 事例研究  1) 医療倫理と薬害 2) 再発等防止システム 3) 重篤副作用疾患別対応

成績評価の方法：出席日数、試験結果などにより総合的に評価する。

教科書  
なし

## 薬理学

### 〔薬理学〕

科目責任者 丸 義朗  
科目担当者 下平 唯子

#### 目的

薬害被害とともに生きる当事者の体験から看護を考える。

#### 到達目標

1. 薬害とともに生きてきた被害者の体験を理解できる。
2. 薬害被害者とその家族にとって、もたらされた心理や健康被害について概説できる。
3. 薬害被害に対する医療者としての課題を記述できる。

大項目	中項目	小項目
薬害被害とは何か	薬害が被害者および家族にもたらすもの	薬害被害者の心理 薬害被害遺族の心理および健康被害 薬害被害者に対する偏見と差別 社会的支援について 薬害被害者および家族への支援

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出により総合的に評価する。

#### 教科書

講演資料の配布

#### 参考図書

特に指定なし

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.16	月	10:35~12:00	塚原 富士子	総論1 薬とは、薬理作用
2	4.23	月	10:35~12:00	塚原 富士子	総論2 薬物の体内動態、相互作用
3	5.7	月	9:00~10:25	志賀 剛	医薬品臨床試験とC R Cの役割
4	5.7	月	10:35~12:00	富田 穎	末梢神経作用薬1 (神経伝達、交感神経系)
5	5.14	月	10:35~12:00	富田 穎	末梢神経作用薬2 (副交感神経系)
6	5.16	水	9:00~10:25	木村 利美	医薬品の規制区分と取り扱い (医薬品と法)
7	5.16	水	10:35~12:00	木村 利美	薬害問題と防止対策 (薬害問題)
8	5.21	月	10:35~12:00	富田 穎	中枢神経作用薬1 麻薬鎮痛薬、局所麻酔薬
9	5.28	月	10:35~12:00	塚原 富士子	中枢神経作用薬2
10	6.4	月	10:35~12:00	出口 敦子	循環器系作用薬
11	6.11	月	10:35~12:00	出口 敦子	血液系作用薬、利尿薬
12	6.18	月	10:35~12:00	平塚 佐千枝	中間試験
13	9.10	月	10:35~12:00	家口 勝昭	ホルモンと薬1
14	9.24	月	10:35~12:00	家口 勝昭	ホルモンと薬2 子宮収縮薬
15	10.1	月	10:35~12:00	出口 敦子	消化器作用薬
16	10.15	月	10:35~12:00	瀧田 守親	呼吸器作用薬
17	10.22	月	10:35~12:00	瀧田 守親	免疫と薬、オーチコイド (プロスタグランディン、ヒスタミン、セロトニン)
18	10.29	月	10:35~12:00	家口 勝昭	炎症と薬
19	11.5	月	10:35~12:00	瀧田 守親	感染症と薬
20	11.12	月	10:35~12:00	平塚 佐千枝	悪性腫瘍と薬、消毒薬
21	11.19	月	10:35~12:00	平塚 佐千枝	試験
22	12.3	月	10:35~12:00	下平 唯子	講演会(薬害被害者の体験)
23	12.3	月	13:00~14:25	下平 唯子	講演会を踏まえての学習

[病態学・各論 I] (内科系)

科目責任者 荒井純子

目的

第1学年で学んだ解剖、生理、生化学、薬理学、病態学総論などに引き続き、病態学各論（症候論）では看護実習や卒後臨床看護に必要な内科疾患の基礎的事項を習得する。

各疾患の症状、検査、診断、治療の基本を理解した上で医学的背景を包括した統合的な考えを展開させ実践できる臨床看護師の育成を目的とする。（解剖学実習については別ページ参照）

到達目標

1. 人体を構成する各器官の構造、配置や走行を観察し説明できる。
2. 各器官の正常の形態と機能を理解し、それぞれの基本的機能を述べることができる。
3. 健康と病気の違いについて考える事ができる。
4. 各疾患の主な症状とその病態について説明できる。
5. 各疾患の診断と主な治療について説明できる。
6. 臨床検査の必要性、方法、注意点について説明できる。
7. 各疾患の基本を理解した上で看護上の重要な点について考え展開させることができる。
8. 薬物の基本的作用と副作用、使用上の注意点について述べることができる。

評価方法

試験結果、レポート、出席状況により評価を行う

## [病態学・各論 I (内科系)]

[血液・造血器疾患]

科目責任者 荒井 純子

大項目	中項目	小項目
I 血液・造血器疾患総論	1.血液・造血器の形態と機能 2.主要症候と診察所見 3.検査と診断 4.治療	1.骨髓・胸腺・リンパ節・脾臓の形態と機能 2.血球の产生・崩壊と調節 1)幹細胞 2)サイトカイン 3.血液の成分 1)赤血球 2)白血球 3)血小板 4)血漿成分 4..凝固と線溶・止血の機序 1.自覚症状 2.他覚症状 1)発熱 2)貧血の有無 3)出血の有無(皮下出血・消化管出血) 4)リンパ節腫脹(頭頸部、腋窩、鼠径部) 5)肝・脾腫 1.血算 2.血液生化学検査 3.出血・凝固の検査 4.血液型・輸血関連検査 5.骨髓穿刺・細胞診 6.染色体検査・遺伝子検査 7.画像検査 1)薬物療法 2)輸血療法 3)造血幹細胞移植・骨髄移植 4)放射線治療 1)鉄欠乏性貧血 2)急性出血性貧血 3)再生不良性貧血 4)溶血性貧血 5)巨赤芽球性貧血 6)二次性(続発性)貧血 7)多血症 1)急性白血病 2)急性骨髓性白血病 3)慢性骨髓性白血病 4)慢性リンパ性白血病 5)成人T細胞性白血病 6)無顆粒球症 7)伝染性单核球症
II.血液疾患の種類と診断・治療	1.赤血球の疾患 2.白血球の疾患	

	3.骨髓異形成症候群 4.リンパ増殖性疾患と 異常タンパク血症 5.出血性疾患と血栓形成	1)悪性リンパ腫（ホジキン病・非ホジキン病） 2)多発性骨髓腫 3)全身性アミロイドーシス 1)血小板の異常（減少症、增多症、機能異常） 2)播種性血管内凝固症候群（DIC） 3)血友病 4)アレルギー性紫斑病
--	-------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

溝口秀昭編 新体系看護学全書 17巻 血液・造血器疾患 メディカルフレンド社 2010

参考図書

飯野京子他 系統看護学講座 専門分野II, 成人看護学4 血液・造血器疾患 12版 医学書院 2010

## [病態学・各論 I (内科系)]

科目責任者 荒井 純子

## [呼吸器疾患]

大項目	中項目	小項目
I . 呼吸器疾患概論	1.呼吸器系の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査と診断 4.治療	1) 鼻腔、副鼻腔 2) 咽頭、喉頭 3) 気管、気管支 4) 呼吸部 (細気管支、肺胞) 5) 血管、リンパ管 6) 胸郭 7) 呼吸のメカニズム 8) ガス交換 9) 酸塩基調節 1) 自覚症状 2) 他覚症状 1) 血液・尿検査 2) 画像検査 (肺エックス線、CT,MRI,核医学検査) 3) スパイロメトリー (閉塞性障害、拘束性障害) 4) ガス分析 5) 酸素飽和度 6) 内視鏡検査、気管支鏡 7) 細胞診、組織診断 (肺生検) 1) 内科的治療 2) 外科的治療 3) 呼吸法、リハビリテーション 4) 人工呼吸器
II. 呼吸器疾患の種類と診断・治療	1.感染性肺疾患 2.閉塞性肺疾患 3.拘束性肺疾患 4.呼吸不全 5.肺腫瘍 6.肺梗塞、肺血栓 7.胸膜、縦隔、横隔膜 8.呼吸調節異常	1) 肺炎、肺結核、肺膿瘍 2) 慢性閉塞性肺疾患 3) 気道疾患・気管支喘息 4) 肺気腫 5) 慢性気管支炎 1) 間質性肺炎 2) 過敏性肺炎、じん肺、無気肺

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

## 教科書

工藤翔二、青木きよ子 新体系看護学全書 15、成人看護学 呼吸器 メディカルフレンド 2010

## 参考図書

北村 聖編 臨床病態学 vol 1. ヌーヴエルヒロカワ 2010  
山下香枝子他 統看護学講座 12 版 専門 II. 呼吸器:成人看護学 2 医学書院 2010

## 〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

## 〔循環器疾患〕

大項目	中項目	小項目
I . 循環器疾患総論	1.心臓・血管の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査と診断	1) 心臓・大血管・末梢血管・リンパ管 2) 心臓の刺激伝導系 3) 心機能 4) 冠循環 5) 血圧 6) 静脈環流・循環血液量の調節 1) 胸痛 2) 動悸 3) 呼吸困難 4) 浮腫 5) チアノーゼ 6) 失神 7) 四肢の疼痛 8) 血圧異常、ショック 1) 胸部レントゲン 2) 心電図 3) 心音図 4) 心エコー 5) 画像診断 6) 心カテーテル検査 (治療を含む) 1) 心筋梗塞・狭心症 2) 慢性心不全・急性心不全 3) 高血圧症・低血圧症
II . 循環器疾患の種類と診断・治療	1. 虚血性心疾患 2. 心不全 3. 血圧の異常 4. 不整脈 5. 弁膜疾患 6. 心膜炎・心筋疾患 7. 肺性心 8. 先天性心疾患 9. 動脈硬化症 10. 動脈系疾患 (大動脈瘤, 末梢動脈閉塞症など) 11. 静脈系疾患 (血栓性静脈炎、静脈血栓症など)	

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

## 教科書

吉田俊子他 系統看護学講座 12 版 専門分野 II . 循環器 : 成人看護学 3 医学書院 2010

## 参考図書

北村 聖編 臨床病態学 vol 1. ヌーヴエルヒロカワ 2010  
井村裕夫他 わかりやすい内科学 (第 3 版) 文光堂 2008

## [病態学・各論 I (内科系)]

科目責任者 荒井 純子

## [消化器疾患]

大項目	中項目	小項目
I. 消化器疾患総論	1. 消化器の形態と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と診断	1) 口腔、舌、唾液腺、咽頭 2) 食道 3) 胃、十二指腸 4) 小腸 5) 結腸、直腸 6) 肛門 7) 肝臓 8) 胆嚢 9) 膵臓 10) 腹壁、腹膜、横隔膜 1) 自覚症状 2) 他覚症状 1) 検体検査 (血液、採尿) 2) エックス線検査 (単純撮影、造影検査) 3) 超音波検査 4) CT、MRI, PET 検査 5) 核医学検査 6) 内視鏡検査 (食道、胃、腸) 7) 組織診断、腹水穿刺 8) 消化管機能検査
II. 消化器疾患の種類と診断・治療	1. 上部消化管 2. 下部消化管 3. 肝・胆・脾疾患 4. 横隔膜疾患 5. 腹膜・腹腔疾患	1) 食道疾患 (食道癌、食道静脈瘤) 2) 胃 (急性胃炎、慢性胃炎、胃潰瘍、胃癌) 3) 胃食道逆流症 4) 十二指腸潰瘍・憩室 1) 腸疾患 (感染性腸炎、急性下痢症、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸癌、イレウス) 2) 肛門疾患 1) 肝疾患 (肝炎、肝硬変、肝癌) 2) 胆嚢疾患 (胆石、胆のう炎、胆嚢癌) 3) 脾疾患 (脾炎、脾臓癌)

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書：松田明子他 系統看護学講座 12 版 専門 II 消化器：成人看護学 5 医学書院 2010

## 参考図書

- 北村 聖編 臨床病態学 vol 1. ヌーヴエルヒロカワ 2010  
 井廻道夫、菅原スミ 新体系看護学全書 18、成人看護学 消化器 メヂカルフレンド 2010  
 後藤昌義、瀧下修一 新しい臨床栄養学 南江堂 2010

## [病態学・各論 I (内科系)]

科目責任者 荒井純子

[腎・尿路系疾患、水・電解質異常、高血圧]

大項目	中項目	小項目
I.腎尿路系疾患総論	1.腎・尿路系の形態と機能 2.症候とその病態生理 3.検査と診断 4.治療	1)腎の形態と位置 2)糸球体の構造と機能 3)尿細管・間質の構造と機能 4)尿の生成 5)水分の調節 6)老廃物の排泄 7)電解質の調節 8)血圧の調節 9)酸塩基の調節 10)赤血球系の産生 1)自覚症状 2)他覚症状 尿量の異常,尿の性状,浮腫,脱水,高血圧 1) 尿検査 (蛋白尿、血尿、細菌尿) 2) 一般血液検査 (血算) 3) 血液生化学検査 4) 腎機能検査 5) 免疫学的検査 6) 微生物学的検査 細菌尿 7) 血液ガス分析・動脈血採血 8) 画像検査 9) 病理組織検査 1) 一般療法・食事療法 2) 薬物療法 3) 透析療法 4) 腎移植 1) 慢性腎臓病 (chronic kidney disease:CKD) 1) 原発性糸球体腎炎 2) 二発性糸球体腎炎 1) 尿細管間質性腎炎、尿細管機能異常 1) 原発性ネフローゼ症候群 2) 繰発性ネフローゼ症候群 1) 急性腎不全 2) 慢性腎不全・尿毒症
IV.腎疾患の種類と診断・治療	1.慢性腎臓病 2.糸球体疾患 3.尿細管・間質疾患 4.ネフローゼ症候群 5.腎不全 6.全身疾患と腎病変	

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

## 〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井純子  
 科目担当者 中神朋子、尾形真規子

## 〔代謝疾患〕

大項目	中項目	小項目
I .糖代謝の異常と 疾患・治療	1.糖尿病  II.脂質代謝の異常と 疾患・治療	1) 糖代謝の調節機構 血糖の調節機構 (インスリン、グルカゴン) 2) 糖尿病の診断と病態 3) 糖尿病の分類 a) 1型糖尿病 b) 2型糖尿病 c) その他の糖尿病 4) 糖尿病の検査所見 5) 糖尿病の合併症 a) 急性合併症 b) 慢性合併症 糖尿病性網膜症 糖尿病性腎症 糖尿病性神経障害など 6) 糖尿病の治療 a) 生活指導 b) 食事療法 c) 薬物療法 d) インスリン治療の基礎と実際 7) 糖尿病と妊娠 8) 糖尿病患者のセルフケアー  1) 診断と治療
	2.低血糖症 1.脂質異常症(高脂血症) 2.メタボリック症候群 3.肥満	

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

## 教科書

吉岡成人他 紙看護講座 12版 専門 II : 内分泌・代謝 : 成人看護学 6 医学書院 2010

## 参考図書

溝口秀昭他	新体系看護学 21 : 成人看護学 8、内分泌・栄養・代謝	メディカルカルフレンド社	2007
井村裕夫	わかりやすい内科学(第3版)	文光堂	2008
北村 聖編	臨床病態学 vol 2.	ヌーヴェルヒロカワ	2010

## [病態学・各論 I (内科系)]

科目責任者 荒井純子

## [内分泌疾患]

大項目	中項目	小項目
I.内分泌疾患総論	1.内分泌系の役割 2.主要徴候と所見 3.検査と診断・ 4.治療	1) ホルモンの種類 2) ホルモンの作用機序 3) ホルモン分泌の調節機構 1) 成長の異常 2) 体重の異常：肥満とやせ 3) 甲状腺腫 4) 無月経・性腺分泌異常 5) 多飲・多尿 6) 高血圧・水、電解質異常など 1) ホルモン検査（基礎値、負荷試験） 2) 内分泌機能検査 3) 画像検査 1) ホルモン補充療法 2) ホルモン分泌過剰症（外科的、内科的、放射線治療） 1) 下垂体前葉機能異常 末端肥大症・Cushing病・シーハン症候群など 3) 下垂体後葉機能異常 尿崩症・SIADH
II.内分泌疾患	1.視床下部・下垂体疾患 2.甲状腺疾患 3.副甲状腺疾患、カルシウム代謝異常 4.副腎疾患 5.性腺疾患 6)その他	1) 甲状腺機能亢進症（Basedow病など） 2) 甲状腺機能低下症（慢性甲状腺炎、橋本病） 3) 甲状腺腫瘍（良性、悪性腫瘍） 1) 副甲状腺機能亢進症（原発性・続発性） 2) 副甲状腺機能低下症 3) 高カルシウム血症 1) 副腎皮質機能亢進症 Cushing症候群・原発性アルドステロン症など 2) 副腎皮質機能低下症（急性副腎不全・アジソン病など） 3) 副腎髓質疾患（褐色細胞腫） 4) 交感神経疾患（交感神経腫瘍） 1) 性腺分泌異常（Turner症候群など） 2) 性早熟症 3) 内分泌異常を伴う卵巣腫瘍など 1) 異所性ホルモン産生腫瘍・インスリノーマなど 2) 神経性食思不振症

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

北村 聖編 臨床病態学 vol 2

ヌーヴエルヒロカワ 2010

参考図書

吉岡成人他 系統看護講座 12版 専門II：成人看護学6、内分泌・代謝 医学書院

2009

## 〔病態学・各論 I〕(内科系)

科目責任者 荒井純子  
 科目担当者 飯嶋 瞳、清水優子

大項目	中項目	小項目
I.脳・神経系疾患総論	1.脳・神経系の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査と診断	1) 中枢神経系の構造と機能 2) 末梢神経系の構造と機能 *3) 髄膜と頭蓋骨、血管系、脳脊髄液 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害・認知症 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害 *5) 頭蓋内圧亢進と脳嵌入(脳ヘルニア) 6) 髄膜刺激症状 7) 頭痛 1) 診察と診断の流れ 2) 検査 3) 治療 1) 脳出血 2) くも膜下出血 3) 脳梗塞 1) アルツハイマー病 2) パーキンソン病 3) 脊髄小脳変性症 4) 運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症) 1) 多発性硬化症 1) 髄膜炎 2) 脳炎 1) 重症筋無力症 2) ギラン・バレー症候群 3) 内科疾患に伴う末梢神経障害
II.脳・神経疾患の種類と診断・治療	1.脳血管障害 2.神経変性疾患 3.脱髓性疾患 4.脳・神経系の感染症 5.末梢神経・筋疾患	

\*は主に脳神経外科が担当

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

## 教科書

竹村信彦他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ、脳・神経、成人看護学 7 医学書院 2010

## 参考図書

- |         |                               |                |
|---------|-------------------------------|----------------|
| 田村綾子他   | ナーシンググラフィカ 13 脳神経・感覚機能障害      | メディカ出版 2005    |
| 日野原重明総監 | ナーシングマニュアル重要疾患編 2 脳・神経疾患マニュアル | 学研 2004        |
| 岩田誠他 監  | エクセルナース 4 脳神経編                | メディカルビュース 2004 |
| 内山真一郎 監 | 脳卒中の治療とケア                     | 医学芸術社 2003     |
| 北村 聖編   | 臨床病態学 vol 1.                  | ヌーヴェルヒロカワ 2010 |

## [病態学・各論 I (内科系)]

科目責任者 荒井純子

科目担当者 谷口敦夫、中島亜矢子、南家由紀

## [痛風、関節リウマチ・膠原病]

大項目	中項目	小項目
I.免疫	1.免疫系の構造と機能	1)免疫系の臓器 2)リンパ球 (T細胞、B細胞) 3)サイトカイン 4)アレルギー反応とその調節
II.尿酸代謝異常	1.痛風	1)高尿酸血症と痛風 2)痛風の診断 3)痛風の治療 a)生活指導 b)食事療法 c)薬物療法 4)痛風の合併症
III.膠原病と類縁疾患	1.関節リウマチ 2 全身性エリテマトーデス 3.膠原病と類似疾患 シェーグレン症候群 強皮症、皮膚筋炎、 血管炎など	1) 診断と病態生理 2) 臨床症状・検査所見 3) 治療 a)日常生活指導 b)薬物療法 c)手術療法 d)リハビリテーション 4) 合併症 1) 診断と病態生理 2) 臨床症状・検査所見 3) 治療 4) 合併症 1) 診断 2) 臨床症状 3) 主な検査所見と治療
IV.アレルギー性疾患	1.アレルギー性疾患の種類	1)アレルギー性疾患の種類と特徴
V.免疫不全症	2.後天性免疫不全症	1) AIDS など

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

## 教科書

味澤 篤他 系統看護学講座 12版 専門II：成人看護学 11、アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 2010

## 参考図書

溝口秀昭他	新体系看護学 22：成人看護学 9 感染症、アレルギー・免疫、膠原病	メディカルフレンド社 2007
北村 聖編	臨床病態学 vol 2	ヌーヴェルヒロカワ 2010
山本一彦編	看護のための最新医学講座第2版 免疫・アレルギー疾患	中山書店 2009

## 〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子  
 科目担当者 神山 暢夫

## 目的

解剖学実習は、第1学年で学習した人体を構成する各器官の構造、配置や走行などを本物の人体標本を用いて自分の目で観察することにより、より実質的な知識として確立することにある。

また、画像診断やフィジカルアセスメントがどのように実物を反映するかを把握し、看護活動に活かすことを目的とする。

## 到達目標

(前掲済)

## 〔解剖実習〕

大項目	中項目	小項目
I. 人体の構造	1. 胸部 2. 腹部 3. 骨盤腔 4. 頭部 5. 全身	1) 胸部臓器の配置 2) 心臓の構造 3) 肺の構造 4) 胸壁の構造 1) 腹部臓器の配置 2) 上腹部臓器の構造 胃・十二指腸・肝臓 脾臓・脾臓 3) 腸の分布と構造 4) 腎臓の構造 5) 腹壁の構造 1) 骨盤臓器の配置 2) 泌尿器の構造 3) 生殖器の構造 男性生殖器 女性生殖器 4) 骨盤壁の構造 1) 各脳の配置 2) 脳の外部構造 3) 脳の内部構造 4) 脊髄の構造 5) 眼球の構造 6) 内耳の構造 1) 筋の分布 上肢・下肢・体幹 2) 血管系の分布 3) 末梢神経の分布 4) 関節・韌帯の構造

成績評価の方法：出席日数、課題提出等により総合的に評価する。

教科書  
なし

## [講義スケジュール]

1	2012.4.17	火	14:35~16:00	荒井 純子	病態学・各論 I 概要・講義スケジュール
2	4.19	木	13:00~14:25	荒井 純子	呼吸器疾患患者の症候と診察
3	4.19	木	14:35~16:00	荒井 純子	呼吸器疾患患者の病態と検査・介助
4	4.20	金	14:35~16:00	荒井 純子	呼吸器疾患の診断と治療 1)
5	4.20	金	16:10~17:35	荒井 純子	呼吸器疾患の診断と治療 2)
6	4.24	火	13:00~14:25	荒井 純子	血液・造血器疾患：血液の形態と機能
7	4.24	火	14:35~16:00	荒井 純子	血液疾患の症状と病態生理、診断と検査
8	4.26	木	9:00~10:25	荒井 純子	血液疾患：赤血球系疾患の診断と治療
9	4.27	金	13:00~14:25	荒井 純子	血液疾患：白血球系およびリンパ系疾患と治療、出血性疾患
10	4.27	金	14:35~16:00	荒井 純子	症例検討・発表・グループワーク・
11	5.7	月	14:35~16:00	吉永健太郎	血液疾患：血液疾患の治療：造血幹細胞移植（骨髄移植）
12	5.10	木	9:00~10:25	荒井 純子	腎疾患患者の症候と病態生理、検査
13	5.10	木	10:35~12:00	谷口 敦夫	膠原病・リウマチ・痛風：痛風の診断と治療
14	5.11	金	14:35~16:00	荒井 純子	腎疾患の診断と治療 1)
15	5.11	金	16:10~17:35	荒井 純子	腎疾患の診断と治療 2)
16	5.14	月	14:35~16:00	南家 由紀	膠原病・リウマチ・痛風：関節リウマチ
17	5.15	火	13:00~14:25	中島 亜矢子	膠原病・リウマチ・痛風：膠原病
18	5.17	木	13:00~14:25	秋葉 隆	腎疾患の治療：血液浄化療法(透析療法)、腎移植
19	5.17	木	14:35~16:00	荒井 純子	全身疾患と腎
20	5.17	木	16:10~17:35	荒井 純子	症例検討・発表・グループワーク
21	5.18	金	16:10~17:35	荒井 純子	アレルギー疾患 1)
22	5.21	月	14:35~16:00	中神 朋子	糖尿病 1 )
23	5.24	木	13:00~14:25	荒井 純子	アレルギー疾患 2)
24	5.24	木	14:35~16:00	荒井 純子	高血圧患者の診断と治療
25	5.25	金	14:35~16:00	荒井 純子	高血圧の合併症、動脈硬化症
26	5.25	金	16:10~17:35	荒井 純子	症例検討・発表・グループワーク
27	5.28	月	14:35~16:00	中神 朋子	糖尿病 2 )
28	5.29	火	16:10~17:35	中神 朋子	糖尿病3 )、脂質異常症（高脂血症）
29	6.4	月	16:10~17:35	尾形真規子	糖尿病 4 )
30	6.7	木	16:10~17:35	荒井 純子	循環器疾患患者の症候と診察
31	6.8	金	14:35~16:00	荒井 純子	循環器疾患の検査
32	6.8	金	16:10~17:35	尾形真規子	糖尿病 5 )
33	6.14	木	13:00~14:25	荒井 純子	循環器疾患の診断と治療 1) 不整脈
34	6.14	木	14:35~16:00	荒井 純子	循環器疾患の診断と治療 2 ) 虚血性心疾患
35	6.15	金	13:00~14:25	荒井 純子	循環器疾患の診断と治療 3) 心不全
36	6.29	金	13:00~14:25	荒井 純子	循環器疾患の診断と治療 4) 弁膜疾患、心筋症など
37	7.5	木	10:35~12:00	荒井 純子	症例検討・グループワーク・発表
38	7.11	水	10:35~12:00	荒井 純子	中間試験
39	7.12	木	13:00~14:25	神山 暢夫	解剖学実習：内臓系
40	7.12	木	14:35~16:00	神山 暢夫	解剖学実習：内臓系
41	7.12	木	16:10~17:35	神山 暢夫	解剖学実習：内臓系
42	7.13	金	13:00~14:25	神山 暢夫	解剖学実習：神経、筋、血管系
43	7.13	金	14:35~16:00	神山 暢夫	解剖学実習：神経、筋、血管系
44	7.13	金	16:10~17:35	神山 暢夫	解剖学実習：神経、筋、血管系

## 〔講義スケジュール〕

45	9.24	月	14:35～16:00	飯嶋 瞳	脳神経系の構造と機能、症候学
46	10.1	月	14:35～16:00	飯嶋 瞳	神経変性疾患、認知症
47	10.19	金	9:00～10:25	清水 優子	脳血管障害、脱髄性疾患
48	10.19	金	14:35～16:00	荒井 純子	内分泌臓器の構造と機能
49	10.19	金	16:10～17:35	荒井 純子	内分泌疾患の診断と治療 1)
50	11.1	木	16:10～17:35	荒井 純子	症例検討・グループワーク・発表
51	11.2	金	9:00～10:25	清水 優子	髄膜炎、脳炎、末梢神経疾患、筋疾患
52	11.2	金	10:35～12:00	荒井 純子	内分泌疾患の診断と治療 2)
53	11.8	木	9:00～10:25	荒井 純子	症例検討・グループワーク・発表
54	11.16	金	14:35～16:00	荒井 純子	消化器疾患の主要症候と病態、検査と介助
55	11.16	金	16:10～17:35	荒井 純子	上部消化管疾患
56	11.30	金	10:35～12:00	荒井 純子	下部消化管疾患
57	11.30	金	13:00～14:25	荒井 純子	肝疾患の診断と治療
58	12.7	金	9:00～10:25	荒井 純子	胆、脾臓疾患の診断と治療
59	12.7	金	10:35～12:00	荒井 純子	症例検討・グループワーク・発表
60	12.13	木	10:35～12:00	荒井 純子	試験

## 〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子

（外科系）消化器、眼科、耳鼻咽喉科、乳腺、呼吸器外科、心臓血管外科、泌尿器、脳外科、婦人科、整形外科、麻酔科

## 目的：

疾患の発生、病態、診断、治療、予後について、外科的治療、周術期管理を中心に学習する。

## 到達目標：

1. 外科総論 外科学の基礎と臨床、外科的侵襲と生体反応について理解する。
2. 視覚を維持するために備わっている構造と機能を学び、眼疾患の診断および治療の特殊性を理解する。
3. 頭頸部の感覚系（聴覚、平衡覚、臭覚、味覚）、呼吸器系（鼻副鼻腔、喉頭、気管）、消化器系（口腔、咽頭、食道、唾液腺）について、生命維持のための基本的な機能を理解する。
4. 乳腺の診察および検査、乳腺疾患とその治療について理解する。
5. 呼吸器外科における診断、治療、管理について理解する。
6. 心臓血管の解剖、生理を学び、症状、診断、治療、管理について理解する。
7. 腎・尿路の解剖と生理を熟知し、病態生理、症状、診断、治療、予防法について理解する。
8. 脳の正常構造（解剖と機能、血管支配）を学び、疾患について理解する。
9. 女性のライフスタイルの特徴を学び、婦人科疾患について理解する。
10. 整形外科（四肢・体幹を構成する骨・関節・筋肉・神経などの運動器官の疾患を扱う）の基礎知識を学び、疾患について理解する。
11. 手術侵襲に伴う疼痛やストレスを除去するための麻酔について、痛みのメカニズム、麻酔の循環・呼吸・代謝に及ぼす影響について理解する。

## 〔麻酔〕

科目担当者 尾崎 恭子

大項目	中項目	小項目
I. 総論	1. 麻酔科学の歴史 2. 麻酔の機序 3. 麻酔と自律神経	1) 全身麻酔の機序 2) 局所麻酔の機序 3) 痛みの生理 1) 麻酔時の自律神経機能変化
II. 各論		
A. 全身麻酔	1. 吸入麻酔 2. 静脈麻酔	1) 気道 2) 吸入麻酔法 3) 循環式麻酔器 4) 麻酔深度と MAC 5) 吸入麻酔薬の吸収と排泄 1) 静脈麻酔法 2) 呼吸管理 3) 循環管理 4) バランス麻酔

大項目	中項目	小項目
B.神経筋遮断	1. 筋弛緩薬	1) 神経筋遮断の種類 2) 筋弛緩の機序 3) 筋弛緩薬の適応
C.局所麻酔	1. 浸潤麻酔 2. 脊髄クモ膜下麻酔 3. 硬膜外麻酔 4. 伝達麻酔	1) 局所麻酔の種類 2) 局所麻酔の適応 1) 脊髄クモ膜下麻酔の解剖、麻酔域 2) 適応 3) 合併症 1) 硬膜外麻酔の解剖 2) 麻酔効果に影響する因子 3) 適応 4) 合併症 1) 神経ブロック
D.周術期全身管理	1. 麻酔のリスクと安全な管理 2.PACU、ICU 3. 術後疼痛管理 4. 麻酔と危機管理	1) 術前評価 2) ASA分類 3) 前投薬 4) 麻酔法の選択  1) 痛みの評価 2) PCA  1) 静脈血栓塞栓症 2) アナフィラキシーショック 3) 局所麻酔薬中毒

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

#### 教科書

青木照明<sub>他</sub>編 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 医学書院 ※  
※最終版を用意すること。

#### 参考図書

武田 純三	麻酔看護のポイント360	メディカ出版	2009
並木 昭義	すぐに役立つ痛みの看護マニュアルー札幌医科大学医学部麻酔学講座	真興交易医書出版部	2004

## 〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子  
科目担当者 須納瀬 弘

耳鼻咽喉科は頭頸部を含めた領域である。聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚の感覚系を主とし、さらに呼吸器系として鼻副鼻腔、喉頭、気管、消化器系として口腔、咽頭、食道、さらに唾液腺も含まれる。このように感覚器、呼吸器、消化器としての生命維持のための基本的な機能を担っている。

## 〔耳鼻咽喉科学〕

大項目	中項目	小項目
I. 正常構造と機能	1. 解剖と生理	1) 外耳・中耳・内耳 2) 鼻・副鼻腔 3) 口腔・咽頭 4) 喉頭・気管 5) 食道 6) 頸部
II. 症候と病態生理	1. 耳痛・耳漏・耳鳴・耳閉感 2. 難聴、めまい 3. 鼻漏、鼻閉、くしゃみ、 鼻出血、鼻声、嗅覚障害 4. 咽頭痛、味覚障害、咽 喉頭異常感 5. 嘎声、呼吸困難 6. 噫下障害 7. 頸部腫脹	1) 伝音難聴、感音難聴 2) 末梢性めまい、中枢性めまい
III. 診断と介助	1. 外来診療 2. 手術と治療	1) 器材・器具 2) 耳の診療 3) 鼻の診療 4) 咽喉頭の診療 5) 気管・食道の診療 6) 頸部の診療 1) 耳の手術と介助 2) 鼻の手術と介助 3) 扁桃の手術と介助 4) 喉頭の手術と介助
IV. 検査と介助	1. 聴力検査 2. 平衡機能検査 3. 鼻副鼻腔検査	1) 純音オージオメトリ 2) その他のオージオメトリ 1) ENG 検査 2) その他の平衡機能検査 1) 鼻腔通気度検査 2) 嗅覚検査 3) ポリソムノグラフィー

大項目	中項目	小項目
	4. 口腔、咽頭検査 5. 喉頭検査 6. X線検査 7. 特殊撮影 8. 核医学検査 9. 超音波検査 10. 硬性内視鏡検査 11. 可撓性内視鏡 (ファイバースコピ一)	1) 味覚検査 2) 唾液腺機能検査 1) ストロボスコピ一 1) 単純写真、断層写真、造影写真 2) CT 1) MRI 1) 食道鏡 2) 喉頭鏡 3) 気管支鏡 1) 鼻咽腔、喉頭、食道
V. 診断と介助	1. 外来診療	1) 器材・器具 2) 耳の診療 3) 鼻の診療 4) 咽喉頭の診療 5) 気管・食道の診療 6) 頸部の診療
VI. 疾患の理解		
1. 耳疾患		
A. 外耳疾患	1. 外耳奇形 2. 先天性耳漏孔 3. 外耳道炎 4. 外耳道湿疹 5. 耳垢栓塞 6. 外耳道異物 7. 耳真菌症	原因、症候、検査、診断、治療
B. 中耳疾患	1. 鼓膜損傷 2. 急性中耳炎 3. 渗出性中耳炎 4. 慢性中耳炎 5. 真珠腫性中耳炎 6. 急性乳様突起炎 7. 耳性頭蓋内合併症 8. 耳硬化症 9. 中耳奇形	合併症
C. 内耳疾患	1. 内耳炎 2. 音響外傷 3. 騒音難聴 4. 耳中毒 5. 老人性難聴 6. 乳幼児難聴 7. 聾	予防、社会医学的事項 後遺症 社会医学的事項

大項目	中項目	小項目
D. 肿瘍	8. 突発性難聴 9. ウィルスによる難聴 10. メニエール病 11. 良性発作性頭位眩暈症 12. 前庭神経炎 13. 外リンパ瘻 14. 内耳奇形 1. 外耳・中耳 2. 聽神経腫瘍	
E. 神経疾患	1. 顔面神経麻痺	合併症 合併症、後遺症
2. 鼻・副鼻腔疾患		
A. 外鼻疾患	1. 外傷 2. 鼻前庭湿疹 3. 鼻嚙	
B. 鼻腔疾患	1. 鼻中隔彎曲症 2. 鼻出血 3. 急性鼻炎 4. 慢性鼻炎 5. 肥厚性鼻炎 6. 萎縮性鼻炎 7. 鼻アレルギー 8. ウェジェナー肉芽腫症	
C. 副鼻腔疾患	1. 急性副鼻腔炎 2. 慢性副鼻腔炎 3. 副鼻腔粘液囊胞 4. 上頸癌	合併症 合併症
3. 咽喉頭疾患	1. 咽頭疾患 1) 咽頭炎 2) 急性扁桃炎 3) 慢性扁桃炎 4) 扁桃周囲膿瘍 5) 咽後膿瘍 6) 扁桃肥大・アデノイド 7) 上咽頭癌 8) 下咽頭癌 2. 喉頭疾患 1) 急性喉頭炎 2) 慢性喉頭炎 3) 咽喉頭ジフテリア 4) 喉頭結核 5) 喉頭の運動麻痺 6) 咽喉頭の知覚異常 7) 喉頭癌	合併症 合併症、後遺症 社会医学的事項

大項目	中項目	小項目
4. 気管・食道疾患	1. 気道異物 2. 食道異物 3. 機能的音声障害 4. 言語障害	合併症、後遺症 合併症、後遺症
VII. 患者の看護		
1. 一般看護	1. 患者の受け入れ 2. 一般的な事項 3. 患者・家族の指導	
2. 看護過程	1. アセスメント 2. 看護目標 3. 看護活動	
3. 症状に対する看護	1. 耳 1) 難聴 2) 耳鳴 3) めまい 4) 耳痛 5) 耳漏 2. 鼻 1) 鼻閉 2) 鼻漏 3. 咽喉頭 1) 咽頭痛 2) 嘉下障害 3) 呼吸障害 4) 音声・言語障害 5) 知覚異常	
4. 手術を受ける患者の看護	1. 手術患者の一般的な看護 2. 手術患者の看護	1) 手術前 2) 手術後 1) 慢性中耳炎 2) 慢性副鼻腔炎 3) 慢性扁桃炎・扁桃肥大 4) 喉頭腫瘍
5. 救急処置と看護	1. 鼻出血 2. 呼吸困難	

成績評価の方法：試験結果等により総合的に評価する。

#### 教科書

海野徳二他 系統看護学講座 専門18 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 ※  
※最新版を用意すること。

## 〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子  
科目担当者 高村 悅子

視覚情報化時代の今日、最も重要な視覚を司る眼球および附属器について、視覚を維持するために備わっている構造と機能を理解し、眼疾患の診断および治療の特殊性を学習し、看護に役立つ知識を得ることを目的とする。

## 〔視覚器〕

大項目	中項目	小項目
I. 眼の構造	1. 眼球 2. 視神経 3. 眼球附属器	1) 外壁 2) 内容  1) 眼瞼 2) 涙器 3) 眼筋
II. 眼の機能と検査	1. 視力 2. 視野 3. 眼科一般検査	1) 近視、遠視、乱視 2) 調節異常とその検査法 1) 視野異常とその検査法 1) 視力検査 2) 屈折検査 3) 細隙灯顕微鏡検査 4) 眼圧検査 5) 眼底検査
III. 眼疾患の診断と治療	1. 外眼部疾患 2. 前眼部疾患 3. 後眼部疾患	1) 眼瞼の疾患 2) 涙器の疾患 1) 結膜の疾患 2) 角膜の疾患 3) 強膜の疾患 1) ぶどう膜の疾患 2) 網膜硝子体の疾患 3) 水晶体の疾患 4) 眼圧の疾患 5) 視神経の疾患

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

## 教科書

大鹿哲郎 系統看護学講座 専門 17 成人看護学 13 眼 医学書院 ※

※最新版を用意すること。

## 参考図書

山本修一、大鹿哲郎 編	講義録 眼・視覚学	メジカルビュー社	2006
大橋裕一 編	ナースのための眼科学 ナーシングポイント 100	メジカルビュー社	2001
八木幸子 著	めざせ！眼科検査の達人	メディカ出版	2002

## 〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子  
 科目担当者 前 昌宏

呼吸器、循環器外科における診断、治療、管理について学ぶ。

## 〔呼吸器外科〕

大項目	中項目	小項目
I . 呼吸器外科	1. 呼吸器の解剖 2. 呼吸機能 3. 呼吸器疾患 4. 呼吸器疾患の手術	1) 肺・気管・気管支 2) 動・静脈系、リンパ系・神経系 1) 換気・拡散 2) 血液ガス分析 1) 先天性異常 2) 炎症性疾患 3) 肺癌・縦隔腫瘍 4) 気管支拡張症・囊胞性疾患 1) 手術侵襲と生体反応 2) 診断と手術 3) 術前・術後の管理

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。なお、試験成績により課題提出を求めることがある。

## 教科書

青木照明 他 編	系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論	医学書院	※
北島政樹 他 編	系統看護学講座 別巻2 臨床外科看護各論	医学書院	※

※最新版を用意すること。

## 〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子  
 科目担当者 瀬下 明良、廣澤知一郎

臓器別分化傾向にある今日の外科医療体系のなか、原点に戻って外科学の基礎と臨床を幅広く学ぶ。

## 〔外科学・消化器〕

大項目	中項目	小項目
I. 外科総論	1. 外科的侵襲と生体の反応 2. 外科的診断法 3. 外科的治療の基礎 4. 術前・術後の管理と合併症 5. 腫瘍と免疫・人工臓器と臓器移植 6. 救急医療外科	1) 内分泌性変動、代謝性変動 2) 既往・現歴、症状・訴え 3) 現症、診察法  1) 基本的外科手技・無菌法と消毒 1) 臓器機能評価 2) 輸血・輸液・栄養 3) 出血・止血・ショック・感染症 4) 術後回復過程 5) 手術のための準備  1) 心肺脳蘇生法 2) 救急処置
II. 消化器外科	1. 腹部の解剖 2. 腹部疾患診断法 3. 外科治療の対象疾患 4. 手術法 5. 手術適応となる主な疾患 6. 腹部手術とその合併症	1) 腹壁、腹膜、腸間膜、大網 2) 血管系、リンパ系 3) 食道、胃、十二指腸、小腸、大腸 4) 肝臓、胆嚢、脾臓、脾臓 5) 肛門 1) X線（単純、造影）・超音波 2) 内視鏡・CT・MRI・PET 1) 炎症、潰瘍、結石 2) 先天性奇形 3) 良性腫瘍 4) 悪性腫瘍 1) 開腹手術 2) 鏡視下手術 1) 食道癌・胃癌・大腸癌・肝臓癌 膵臓癌・胆石症・胆嚢炎 腸閉塞・腹膜炎 ヘルニア 痔核・痔ろう

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

青木照明<sub>他</sub> 編 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論（第10版） 医学書院 2011  
北島政樹<sub>他</sub> 編 系統看護学講座 別巻2 臨床外科看護各論（第8版） 医学書院 2011  
※最新版を用意すること。

参考図書

小柳 仁 監 標準外科学（第10版） 医学書院 2004

## 〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子  
 科目担当者 村田 泰章

整形外科の Orthopedic surgery とは、四肢・体幹を構成する骨・関節・筋肉・神経などの運動器官の疾患を扱う臨床医学である。 I 看護概論 II 整形外科の基礎①運動器の構造と機能②症状と病態生理③診断と検査④治療法 III 疾患の理解①形態異常（先天性股関節脱臼、内反足、斜頸など）②骨折と関節外傷③炎症性疾患（関節リウマチ、痛風、化膿性疾患など）④非炎症性疾患（変形性関節症など）⑤骨腫瘍⑥代謝性骨疾患（骨粗しょう症など）⑦脊椎の疾患（頸椎症、腰椎椎間板ヘルニア、側弯症など）⑧その他 IV 看護の実際につき、重要な疾患やポイントのみ講義し、後は教科書を各自で読み、疾患の特徴をよくつかみ、看護に役立ててほしい。

## 〔整形外科〕

大項目	中項目	小項目
I. 看護概論	1. 運動器疾患の変遷 2. 患者の理解 3. 看護の目的と機能	1) 看護の歴史 2) 看護をとりまく状況と諸問題 1) 身体的問題、心理的・社会的问题 1) 看護の目的、役割（身体的援助、心理的・社会的援助） 2) 疾病の経過と看護（急性期、慢性期、回復期、終末期の看護）
II. 基礎知識	1. 運動器の構造と機能 2. 診察法 3. 治療法 4. 症状と病態生理	1) 関節、神経、筋肉とは？ 1) 一般診察、肢位または姿勢計測法、特殊検査と介助、保存療法、手術療法、義肢と装具 1) 形態の異常 2) 関節運動の異常 3) 麻痺 4) 異常歩行または跛行
III. 疾患の理解	1. 先天性疾患、骨折、脱臼 2. 後天性疾患、捻挫、打撲、炎症、腫瘍、系統疾患、上肢および下肢疾患、脊椎疾患、腱・筋疾患、末梢神経損傷	1) 先天性（発育性）股関節脱臼 2) 斜頸 3) 内反足につき学ぶ 1) 骨折、脱臼の総論 2) 各論（診断、検査、治療） 3) その他各疾患の診断、治療につき学ぶ
IV. 患者の看護	1. 援助のための知識と技術 2. 症状に対する看護	1) 身体的援助 2) 良肢位 3) 関節の変形 1) フォルクマン拘縮 2) 疼痛 3) 出血 4) 感染

大項目	中項目	小項目
	3. 保存療法を受ける患者の看護 4. 手術を受ける患者の看護 5. 経過に応じた患者の看護 6. 疾患を持つ患者の看護	5) 褥瘡  1) ギプスに対する知識、巻き方、切り方、牽引  1) 手術前看護、当日、後の看護のポイント 1) 急性期、回復期、慢性期、末期の看護の問題 1) 各疾患に対する看護のアセスメントを行い、目標を Problem Oriented System (POS) にて行う。

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

#### 教科書

織田弘美他 系統看護学講座 専門 14 成人看護学 10 運動器 医学書院 ※  
※最新版を用意すること。

#### 参考図書

土方浩美 編 整形外科看護アップデート 照林社 2002
土方浩美 編 整形外科ケアマニュアル（ポケット版） 照林社 2000

[病態学・各論Ⅱ（外科系）]

科目責任者 尾崎 恭子  
科目担当者 堀内 喜代美、坂本 明子

乳腺の診察および検査、乳腺疾患とその治療について学ぶ

[乳腺の疾患]

大項目	中項目	小項目
I. 乳腺の疾患	1. 乳腺の構造と機能 2. 乳腺の診察・検査 3. 乳腺の疾患	1) 痘学、特徴 2) 症状 3) 診断 4) 治療

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

北島政樹<sub>他</sub>編 系統看護学講座 別巻2 臨床外科看護各論 医学書院 ※  
※最新版を用意すること。

## 〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子  
科目担当者 小内友紀子

腎臓は体内的体液量を調節している臓器であり、これによって人体のホメオスタシスが維持されている。近年、高血圧や糖尿病などによる腎障害が増加しており、末期腎不全から維持透析となる症例も増大している。

これから高齢化社会を迎えるにあたり、腎・泌尿器系疾患は確実に増加する領域である。

正常な腎・尿路の解剖と生理を熟知し、腎機能検査や泌尿器科で必要な検査法を学んだうえで、さまざまな疾患についての病態生理、症状、診断、治療、予防法について学習する。

大項目	中項目	小項目
I. 腎・尿路の形態と機能	1. 腎・尿路の構造 2. 腎臓の機能 3. 腎孟・尿管の機能 4. 膀胱、尿道の機能	
II. 男性生殖器の形態と機能	1. 男性生殖器の構造 2. 男性生殖器の機能	
III. 主要症候と病態生理	1. 尿量の異常 2. 尿性状の異常 3. 水・電解質の異常 4. 浮腫 5. 高血圧 6. 貧血 7. 尿毒症 8. 排尿障害 9. 疼痛 10. 自律神経障害	
IV. 診断・検査		
A. 診察	1. 一般診察 2. 腎・尿路の診察 3. 男性生殖器の診察	
B. 検体検査	1. 尿検査 2. 血液・尿生化学検査 3. 免疫学的検査 4. 微生物学的検査 5. 病理組織学的検査	
C. 腎機能検査	1. 総腎機能検査 2. 分腎機能検査	
D. 画像診断	1. X線検査 2. 超音波検査 3. 核医学検査 4. CT検査 5. MRI検査	
E. 泌尿器科的検査	1. 経尿道的検査 2. 内視鏡検査 3. 排尿機能検査	

大項目	中項目	小項目
V. 腎疾患 A. 腎不全	4. 生検 5. 分泌物検査  1. 急性腎不全 2. 慢性腎不全	
VI. 泌尿器科的腎尿路疾患 A. 先天性異常	1. 腎臓の先天異常  2. 腎孟・尿管の奇形  3. 膀胱の奇形  4. 尿道の奇形	a. 腎臓の発育不全 b. 馬蹄鉄腎 c. 囊胞性腎疾患 a. 重複腎孟尿管 b. 腎孟・尿管の狭窄 c. 尿管の異所閉口 d. 尿管瘤 e. 下大静脈後尿管 a. 膀胱外反症 b. 尿膜管の異常 a. 後部尿道弁 b. 尿道下裂 c. 包茎
B. 外傷	1. 腎損傷 2. 膀胱損傷 3. 尿道損傷	
C. 腎・尿路結石と異物	1. 腎結石、腎孟結石 2. 尿管結石 3. 膀胱結石 4. 膀胱異物	
D. 尿路閉塞性疾患と機能障害	1. 上部尿路閉塞性疾患 2. 下部尿路閉塞性疾患 3. 神経因性膀胱 4. 膀胱尿管逆流 5. 夜尿症 6. 尿失禁	
E. 腎血管障害	1. 腎硬化症 2. 腎動脈狭窄 3. 腎動脈瘤 4. 腎動静脉瘻 5. 腎梗塞	
F. 炎症と感染症	1. 腎孟腎炎  2. 腎膿瘍 3. 膀胱炎  4. 尿道炎  5. 腎尿路結核	a. 急性 b. 慢性  a. 急性 b. 慢性 a. 急性 b. 性感染症

大項目	中項目	小項目
G. 腎・尿路腫瘍	1. 腎細胞癌 2. 腎芽細胞腫 3. 腎血管筋脂肪腫 4. 尿路上皮腫瘍 5. 尿道腫瘍 6. 尿膜管腫	a. 腎盂腫瘍 b. 尿管腫瘍 c. 膀胱腫瘍
VII. 男性生殖器の疾患		
A. 炎症と感染症	1. 前立腺炎 2. 精巣上体炎 3. 精巣炎 4. 性器結核	a. 急性 b. 慢性
B. 腫瘍	1. 前立腺腫瘍 2. 精巣腫瘍	a. 前立腺肥大症 b. 前立腺癌
C. 先天異常	1. 精巣の先天異常 2. 性分化異常	
D. 陰嚢および精索の疾患	1. 陰嚢水腫 2. 精索靜脈瘤 3. 精巣捻転症	
E. 男性不妊症	1. インポテンス	
F. その他の疾患		
VIII. 副腎		
A. 内分泌機能	1. 副腎皮質ホルモン 2. 副腎髓質ホルモン	
B. 副腎の腫瘍	1. Cushing症候群 2. 原発性アルドステロン症 3. 続発性アルドステロン症 4. 褐色細胞腫 5. 男性化副腎腫瘍 6. 神経芽細胞腫	
IX. 腎尿路疾患の特殊治療		
A. 血液浄化	1. 血液透析 2. 腹膜透析 3. 血漿交換 4. 血液吸着・濾過 5. 導尿法	
B. 泌尿器外科的検査と治療	1. ブジー 2. 内視鏡的検査 3. 非観血的尿路結石手術 4. 経尿道的切除術（TUR） 5. 尿路変更法	

## 病態学・各論Ⅱ（外科系）

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

### 教科書

阿部信一他 系統看護学講座 専門 12 成人看護（8）腎・泌尿器 医学書院 2011

### 参考図書

吉田修 編	ベッドサイド泌尿器科学 診断・治療編 改訂第3版	南江堂	2000
吉田修 編	ベッドサイド泌尿器科学 手術編 改訂第3版	南江堂	2000
杉本恒明、小俣政男 編	内科学 第9版	朝倉書店	2007

## 〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子  
 科目担当者 津久井 宏行

大項目	中項目	小項目
循環器外科	1. 心臓の解剖 2. 循環器疾患 3. 循環器疾患の手術	1) 構造と機能 2) 冠状動脈系・刺激伝道系  1) 先天性心疾患 2) 弁膜症 3) 虚血性心疾患  1) 侵襲と生体反応 2) 診断と手術 3) 術前・術後の管理

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

使用しない

[病態学・各論Ⅱ（外科系）]

科目責任者 尾崎 恭子  
科目担当者 落合 卓

[脳外科]

大項目	中項目	小項目
脳の正常構造について	脳の解剖と機能  脳の血管支配	前頭葉の解剖と機能 側頭葉の解剖と機能 頭頂葉の解剖と機能 後頭葉の解剖と機能  前大脑動脈 中大脑動脈 後大脑動脈 脳底動脈
脳の病気について	脳血管障害  脳腫瘍  機能的脳疾患	脳梗塞 脳出血  腫瘍局在に伴う症状 脳腫瘍の種類  てんかん 不隨運動 疼痛

成績評価の方法：試験結果等により総合的に評価する。

教科書

特に指定せず、隨時必要な資料を配布する。

## 〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子  
 科目担当者 石川 聖子、吉形 玲美

女性のライフサイクルの特徴を知った上で、婦人科疾患（女性生殖器疾患）で生じる症状、診断、治療に関する基礎的知識を理解する。

## 〔女性生殖器〕

大項目	中項目	小項目
I. 婦人科良性腫瘍	1. 子宮筋腫 2. 卵巣腫瘍 3. 性感染症	1) 子宮筋腫の病態（病気の成り立ちと経過） 2) 診断・治療・予後 1) 卵巣腫瘍の分類 2) 子宮内膜症の成り立ち・症状・診断・治療 3) 卵巣嚢腫（皮様嚢胞腫、漿液性嚢胞腺腫、粘液性嚢胞腺腫）の特徴 1) 性感染症とは 2) クラミジア感染症 3) 淋菌感染症 4) 性器ヘルペス 5) 尖圭コンジローマ
II. 婦人科悪性腫瘍	1. 子宮体がん 2. 子宮頸がん 3. 卵巣がん	1) 子宮体がんの病態（病気の成り立ちと経過） 2) 検査・診断 3) 治療・予後 1) 子宮頸がんの病態（病気の成り立ちと経過） 2) 検査・診断 3) 治療・予後 1) 卵巣がんの病態（病気の成り立ちと経過） 2) 検査・診断 3) 治療・予後

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

## 教科書

池田 正他 系統看護学講座 専門 12 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院 ※

※最新版を用意すること。

## 参考図書

太田博明 編	エクセルナース 9 産婦人科編	メディカルレビュー社 2002
上田森生 編	病気がみえるV o l. 9 婦人科	メディックメディア 2006

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.5.8	火	14:35~16:00	津久井 宏行	循環器外科：心臓の解剖、疾患
2	5.8	火	16:10~17:35	津久井 宏行	循環器外科：診断と手術、術後管理
3	5.15	火	14:35~16:00	落合 卓	脳神経外科：脳の正常構造について 腎・尿路の解剖・機能・検査
4	5.17	木	9:00~10:25	小内友紀子	腎・泌尿器疾患の主要症候
5	5.17	木	10:35~12:00	小内友紀子	腎・泌尿器疾患（各論）
6	5.18	金	9:00~10:25	須納瀬 弘	耳鼻咽喉の解剖 機能と検査法
7	5.18	金	10:35~12:00	須納瀬 弘	耳鼻咽喉の外傷と機能障害
8	5.18	金	13:00~14:25	須納瀬 弘	耳鼻咽喉の炎症性疾患
9	5.18	金	14:35~16:00	須納瀬 弘	耳鼻咽喉の腫瘍性疾患
10	5.24	木	9:00~10:25	前 昌宏	呼吸器外科：肺、縦隔の解剖、肺機能、血液ガス分析
11	5.24	木	10:35~12:00	前 昌宏	呼吸器外科：疾患と手術、術後管理
12	5.31	木	14:35~16:00	高村 悅子	眼の構造と機能
13	5.31	木	16:10~17:35	高村 悅子	眼疾患の症状と検査法
14	6.11	月	13:00~14:25	村田 泰章	脊椎の疾患、関節の疾患
15	6.12	火	14:35~16:00	高村 悅子	眼疾患の診断と治療 外眼部、前眼部
16	6.12	火	16:10~17:35	高村 悅子	眼疾患の診断と治療 後眼部
17	6.14	木	16:10~17:35	石川 聖子	良性腫瘍
18	6.15	金	14:35~16:00	瀬下 明良	消化器外科
19	6.15	金	16:10~17:35	瀬下 明良	消化器外科
20	6.18	月	13:00~14:25	村田 泰章	運動器の構造と機能、運動器の外傷
21	6.27	水	9:00~10:25	廣澤知一郎	外科総論
22	6.27	水	10:35~12:00	廣澤知一郎	外科総論
23	9.20	木	9:00~10:25	堀内喜代美	乳腺の疾患
24	10.1	月	16:10~17:35	坂本 明子	乳腺の疾患
25	10.15	月	14:35~16:00	吉形 玲美	婦人科悪性腫瘍
26	10.18	木	16:10~17:35	尾崎 恭子	麻酔総論
27	11.7	水	14:35~16:00	落合 卓	脳神経外科：脳の病気について
28	11.9	金	14:35~16:00	尾崎 恭子	麻酔各論
29	11.9	金	16:10~17:35	尾崎 恭子	周術期全身管理
30	11.30	金	9:00~10:25	尾崎 恭子	試験

## 〔病態学・各論Ⅲ（小児）〕

科目責任者 大澤真木子

科目担当者 世川 修、永木 茂、舟塚 真、今井 薫、  
近本 裕子、砂原真理子、清水 美妃子、尾崎 恭子、  
清谷知賀子

## 目的

小児には発育／発達という特徴があり、小児期早期には先天異常が、集団生活を始める頃には急性感染症や心の問題が大きい。気管支喘息、およびその他のアレルギー性疾患、循環器系、神経系、腎／泌尿器系、先天性代謝異常症、内分泌疾患、血液疾患、悪性新生物に、膠原病、原発性免疫不全症候群、小児の外科的疾患に関して、小児の特殊性考慮して学ぶ必要が在る。

## 到達目標

1. 心臓大血管奇形は、先天異常のうち最も多くの一つで、かつ新生児死亡の主な原因でもある。  
この講義は主な疾患についてその発生、病態、診断、予後について学習理解し説明できる。
2. 小児の神経疾患は、脳性麻痺から、筋、代謝変性疾患まで非常に多くの疾患を含むが、この講義はその主な特徴について学習理解し説明できる。
3. 腎臓の発達およびその形態と機能、さらに代表的な小児腎疾患について学習理解し説明できる。
4. 小児の外科的疾患に関しては、小児外科の特殊性と代表する疾患について学習理解し説明できる。
5. 先天性代謝異常症については糖質、脂質、蛋白質等の代謝についての基礎を学びそれらの代謝異常を引き起こす各種疾患の病態、病因、症状、診断、治療について学習理解し説明できる。
6. 内分泌疾患においては主として下垂体、甲状腺、副腎、性腺等における正常な機能、形態を学び異常によって引き起こされる病態、原因、症状、診断、治療等について学習理解し説明できる
7. 血液疾患については貧血、出血性疾患、白血病その他について病因、診断、治療について学習理解し説明できる悪性新生物について小児において頻度の多い疾患を中心に診断、治療を中心に学習理解し説明できる。
8. 小児に多く見られる膠原病、原発性免疫不全症候群、気管支喘息、およびその他のアレルギー性疾患について病態生理、症状、診断、治療について学習理解し説明できる。
9. 小児の主な疾患である急性感染症について、その原因と症候、および治療について理解し説明できる。
10. いずれの場合も、その年齢特徴に応じた反応の仕方があり、年齢特徴を背景とした全人的な理解ができる

大項目	中項目	小項目
I. 小児の循環器疾患 総論	1. 発生要因 2. 発症年齢と疾患 3. 症状 4. 予後  カテーテル治療	遺伝子異常  1) チアノーゼと貧血 2) 心室中隔欠損と自然閉鎖 3) チアノーゼ性心疾患の予後 4) 感染性心内膜炎とその予防 5) 急死  BAS（心房中隔裂開術）
各論 新生児期発症	1. 完全大血管転位 2. 総肺静脈還流異常 3. 肺動脈閉鎖	無脾症

大項目	中項目	小項目
乳児期発症	4. 左室低形成 5. 大動脈縮窄 1. 心室中隔欠損 2. 心内膜床症欠損 3. ファロー四徴症 4. 単心室とその類縁疾患	乳児型、成人型（単純型、複雑型） 一次孔、二次孔 フォンタン型手術
幼児期ないしそれ以降の発症	1. 心房中隔欠損 2. 肺動脈弁狭窄 3. 大動脈弁狭窄	
II. 小児の神経・筋疾患総論	1. 発達の診察法 2. 症候の考え方 3. 検査法	痙攣、意識障害、運動麻痺 画像検査、脳波
各論		
(1) 中枢神経奇形	成因と発生機序	
(2) 周生期脳障害		
(3) 発作性疾患	1. てんかん 2. 熱性痙攣	症状、発作型分類、てんかん症候群分類 臨床症状、分類と特徴
(4) 神経皮膚症候群	成因	
(5) 脳性麻痺		臨床症状と検査
(6) 中枢神経変性疾患		分類と臨床症状
(7) 中枢神経感染症	成因	
(8) 脳血管障害	1. 急性小児片麻痺 2. 特発性ウイルス動脈輪閉塞症（もやもや病）	
(9) 神経・筋疾患	1. 脊髄性筋萎縮症 2. 筋ジストロフィー 3. 先天性ミオパチー 4. 重症筋無力症	福山型、Duchenne型
III. 小児の腎・泌尿器系疾患		
腎の発達、および形態と機能	1. 腎機能の発達 2. 排尿機能の発達 3. 腎の形態 4. 腎の機能	1) 腎の血管系 2) 糸球体の構造 3) 尿細管の構造 4) 傍糸球体装置 1) 糸球体機能 2) 尿細管機能 3) 代謝機能
腎疾患各論	1. 糸球体疾患	1) 急性糸球体腎炎 2) 慢性糸球体腎炎 3) ネフローゼ症候群 4) 二次性糸球体腎炎 5) 遺伝性腎炎

大項目	中項目	小項目
	2. 尿細管疾患 3. 尿路感染症 4. 囊胞性腎疾患 5. 腎形成異常 6. 急性腎不全 7. 慢性腎不全	1) 尿細管機能異常症 2) 尿細管間質性腎症
IV. 小児の外科系疾患 総論	1. 小児外科の定義 2. 小児外科の特殊性 3. 小児外科診察、検査の ポイント	
各論	1. 消化器疾患  2. 横隔膜疾患  3. 腹壁疾患  4. 肝・胆道疾患  5. 固形腫瘍	1) 先天性食道閉鎖症 2) 食道狭窄症 3) 肥厚性幽門狭窄症 4) 先天性十二指腸閉鎖症 5) 先天性腸閉鎖症 6) 腸回転異常症 7) メッケル憩室 8) 急性虫垂炎 9) 壊死性腸炎 10) ヒルシュスブルング病 11) 腸重積 12) 直腸肛門奇形 1) 先天性横隔膜ヘルニア 2) 横隔膜弛緩症 1) 膜帯ヘルニア 2) 腹壁破裂 3) 膜ヘルニア 4) 鼠径ヘルニア 1) 胆道閉鎖症 2) 先天性胆道拡張症 1) 神経芽細胞腫 2) 腎芽腫（ウイルムス腫瘍） 3) 奇形腫群
V. 小児の代謝・ 内分泌疾患		
(1)蛋白質・アミノ酸代 謝異常	1. フェニイルケトン尿症 2. メープルシロップ尿症 3. 尿素サイクル系異常症	分類、臨床診断、治療 新生児代謝スクリーニング
(2)脂質代謝異常症	1. スフィンゴリピドーシス 2. カルニチン代謝異常症	脂肪の分解と合成
(3)糖代謝異常症	1. 糖尿病 2. ガラクトース血症	IDDM、NIDDM の発生機序 インシュリンの分泌

大項目	中項目	小項目
(4) 下垂体視床下部異常症	3. 低血糖症 4. 糖尿病 1. 下垂体前葉機能異常症 2. 尿崩症	糖尿病昏睡、合併症、インスリノーマ 病型、臨床診断、治療 下垂体性低身長、骨年齢 中枢性尿崩症、頭蓋咽頭腫
(5) 甲状腺異常症	1. クレチニン症 2. 橋本病	慢性甲状腺炎、病型、治療
(6) 副腎異常症	クッシング症候群 先天性副腎過形成	病型分類、病因、臨床症状、治療
(7) 性腺異常症	Turner症候群 性早熟症	染色体検査 中枢性早熟症 末梢性（仮性）早熟症
VI. 小児の血液・悪性疾患		
血液疾患	1. 貧血 2. 出血性疾患 3. 白血病 4. 無顆粒細胞症	1) 鉄欠乏性貧血 2) 失血性貧血 3) 溶血性貧血 4) 再生不良性貧血 1) 血液凝固障害 2) 血管性紫斑病 3) 血小板の質的量的異常
悪性新生物	総論 主な悪性新生物	1) 頻度 2) 診断 3) 治療 1) 脳腫瘍 2) 網膜芽細胞症 3) その他
VII. 小児のアレルギー・免疫疾患		
気管支喘息	1. 痘学 2. 病態生理 3. 症状 4. 診断 5. 治療	1) アレルギー素因 2) 気道の炎症 3) 発作時の気道の変化 1) 呼吸困難 2) 喘鳴 1) 症状 2) 検査
総論	1. 発生要因 2. 発症年齢と疾患 3. 症状 4. 予後	1) 発作時治療 2) 非発作時治療 3) 環境整備 4) 生活指導
膠原病	1. リュウマチ熱 2. 若年性関節リュウマチ	

大項目	中項目	小項目
原発性免疫不全症候群	3. 全身性エリテマトーデス 4. 結節性動脈周囲炎 5. 皮膚筋炎 6. 混合性結合組織病 7. 川崎病 1. 分類 2. 症状 3. 重症複合免疫不全症 4. 無ガンマグロブリン血症 5. 胸腺低形成 6. ウィスコット・オールドリッヂ症候群 8. 原発性食細胞異常症 9. 原発性補体低下症 1. 先天性 AIDS	デイ・ジョージ症候群
後天性免疫不全症候群(AIDS)		1) 慢性肉下腫症 2) 白血球粘着異常症
アレルギー性疾患	1. アレルギー性鼻炎 2. アトピー性皮膚炎 3. 莖麻疹 4. 薬物アレルギー 5. 食物アレルギー	アレルギーマーチ
VIII. 小児の感染症 感染症の分類 症候と検査	1. ウイルス感染症 2. 細菌感染症 3. その他	1) 麻疹 2) 風疹 3) 水痘 4) その他 1) 上気道感染症 2) 肺炎 3) 細菌性胃腸炎 4) その他 トキソプラズマ症
感染症の予防と治療	1. 予防接種 2. 抗生物質 3. 抗ウイルス剤	

## 評価方法

試験により評価を行う

## 教科書

松尾宣武、濱中喜代編

新体系看護学 31

メジカルフレンド社

2007

小児看護学②障害をもつ小児の看護

参考図書

内山 聖、原 寿郎、 高橋孝雄 編	標準小児科学 第7版	医学書院	2009
飯沼一宇、竹村 司 渡辺 博、有坂 治 編	小児科学・新生児学テキスト 第5版	診断と治療社	2007
中澤 誠 編	先天性心疾患	メジカルビュー社	2005
村田光範、浅井利夫 編	小児疾患生活指導マニュアル 改訂第2版	南江堂	1997
大澤真木子	子どもの病気がよくわかる本	小学館	1999
大澤真木子	育児 Q&A	法研	2000
山高篤行、下高原昭廣 編	臨床ナースのための Basic & Standard シリーズ『小児外科看護の知識と実際』 メディカ出版		2010

## 〔病態学・各論Ⅲ（小児）〕

科目責任者 大澤真木子

科目担当者 楠田 聰

## 目的

新生児期は子宮内環境から子宮外環境への適応の時期であるばかりでなく、諸臓器が急速に発達する時期である。それらの新生児の特性とそれにともなう問題点を学ぶことが大切である。

## 到達目標

1. 新生児に使用する用語の定義が理解できる。
2. 新生児に関する保健指標が説明できる。
3. 子宮内から子宮外生活に適応する過程が説明できる。
4. 出生直後の新生児を評価できる。
5. 新生児管理の基本について説明できる。
6. ハイリスク児の徵候を説明できる。
7. 新生児疾患について説明できる。
8. 母体疾患と新生児疾患の関係について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I . 新生児学総論	1. 新生児周産期統計 2. 用語の定義 3. 胎児発育曲線 4. 新生児学の特徴 5. 新生児の生理	1) 周産期死亡率 2) 新生児死亡率 3) 諸外国との比較 1) 在胎期間 2) 低出生体重児 3) 早産児 1) light-for-date 2) heavy-for-date 3) appropriate-for-date 1) 医学的特徴 2) 医療的特徴 1) 呼吸 2) 循環 3) 神経系 4) 消化器系 5) 代謝・内分泌系 6) 血液・免疫
II . 新生児学臨床	1. 新生児の診察 2. 新生児の一般的養護	1) 分娩室における新生児診察 2) 成熟度評価 3) 新生児診察 1) 新生児管理の原則 2) 保温 3) 感染防止 4) 栄養 5) 母子関係 6) ハイリスク児の養護

大項目	中項目	小項目
	3. 新生児診断学 4. 新生児疾患各論 5. その他	1) 主要な症状 2) 検査と評価 3) モニター機器と評価 1) 神経・筋 2) 呼吸器 3) 循環器 4) 高ビリルビン血症 5) 代謝異常 6) 血液 7) 感染・免疫 8) 分娩外傷 1) 新生児の予後 2) 新生児医療の倫理

評価方法

下記項目の知識について試験で評価する。

- ・周産期統計の意味を理解する。
- ・胎児から新生児への適応過程を説明できる。
- ・主たる新生児疾患の病態生理を説明できる。

教科書

佐地勉 竹内義博 原寿郎(編著) ナースの小児科学 改訂5版 中外医学社 2011

参考図書

仁志田博司、楠田 聰	超低出生体重児	メディカルビュー社	2006
楠田 聰	イラストで学ぶ新生児呼吸管理	メディカ出版	2008

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.9.12	水	13:00～14:25	砂原眞理子 世川 修	小児のアレルギー免疫疾患 小児の外科系疾患
2	9.12	水	14:35～16:00	清水美妃子	小児の循環器疾患
3	9.14	金	16:10～17:35	今井 薫	小児の感染症
4	9.21	金	16:10～17:35	清谷知賀子	小児の血液・悪性腫瘍疾患
6	10.4	木	9:00～10:25	楠田 聰	新生児学総論(1)
7	10.4	木	10:35～12:00	楠田 聰	新生児学総論(2)
8	10.11	木	9:00～10:25	楠田 聰	新生児疾患各論(1)
9	10.11	木	10:35～12:00	楠田 聰	新生児疾患各論(2)
10	10.18	木	9:00～10:25	楠田 聰	新生児の診察と一般的な養護
11	10.19	金	10:35～12:00	舟塚 真	小児の神経・筋疾患
12	10.30	火	14:35～16:00	永木 茂	小児の内分泌代謝疾患
13	11.15	木	14:35～16:00	尾崎 恒子	小児の周術期管理
14	11.26	月	10:35～12:00	近本 裕子	小児の腎・泌尿器疾患
15	12.6	木	10:35～12:00	大澤真木子	試験

[病態学・各論IV（母性）]

科目責任者 松井 英雄  
 科目担当者 松井 英雄、高木 耕一郎、牧野 康男、小川 正樹、  
 高木 俊一、村岡 光恵、橋本 和法、東館 紀子、  
 石谷 健、秋澤 叔香

目的

妊娠の成立、妊娠の正常な経過および分娩による生体の生理学的変化、病理学的変化について論じる。またこれらの異常経過における病態・生理・診断・治療について述べる。さらに、女性特有な疾患について論じる。

到達目標

看護実習の現場で役に立つように、正常妊娠と異常妊娠、分娩の生理と三要素、正常産褥と異常産褥ならびに不妊症に関して、基礎的な知識を取得することを到達目標とする。

大項目	中項目	小項目
I. 性と生殖器	1. 生殖器の形態と機能と先天異常 2. 婦人科診察と検査 3. 女性の性ホルモンの調節機構と異常 4. 子宮の疾患 a. 子宮筋腫 b. 子宮頸癌 c. 子宮体癌 5. 卵巣の疾患 a. 良性卵巣腫瘍 b. 悪性卵巣腫瘍	1) 外性器 内性器 2) 骨盤内臓器 3) 骨盤内の脈管系、神経系 4) 正常画像と解剖 5) 性分化とその異常 6) 染色体異常 7) 性器の形態異常 1) 間診 2) 内診 3) 腔鏡診 4) 細胞診 5) コルポスコープ 6) 組織診 7) 子宮卵管造影 8) 子宮鏡・腹腔鏡 1) 間脳・下垂体・卵巣ホルモンとフィードバック機構 2) 月経・排卵とその機序 3) 月経異常 1) 病因 2) 症状 3) 診断 4) 病理組織 5) 治療 1) 分類 2) 症状 3) 診断 4) 病理組織 5) 治療

大項目	中項目	小項目
	6. 子宮内膜症 7. 感染症 a. STD b. 膀胱炎 8. 外陰の疾患 9. 生殖機能の加齢と老化	1) 定義 2) 病因 3) 症状 4) 診断 5) 治療 1) 分類 2) 症状 3) 診断 4) 治療 1) 炎症 2) 腫瘍 1) 更年期障害 2) 性器の萎縮 3) 性器の脱出・下垂 4) ホルモン補充療法 (HRT)
II. 妊娠	1. 妊娠の成立 2. 胎児の発生と発育 3. 妊娠中の母体の生理的变化 4. 胎盤機能と形態 5. 正常妊婦の管理 6. 異常妊娠 a. 流産 b. 早産 c. 子宮外妊娠 d. 級毛性疾患 e. 血液型不適合妊娠 f. 前置胎盤 g. 多胎妊娠 h. 子宮内胎児発育遅延 (IUGR) i. 羊水過多・過少	1) 受精の生理 2) 受精卵の分割と輸送 3) 着床 1) 臓器の形成 2) 成長の評価 1) 性器の変化 2) 全身の変化 1) 胎児胎盤循環 2) 内分泌 3) ガス交換と物質代謝 1) 妊娠の診断 2) 妊婦診察；健診 3) Bishop スコア 1) 定義 2) 分類 3) 原因 4) 症状 5) 診断 6) 治療

大項目	中項目	小項目
	7. 妊娠中毒症 8. 産科 DIC a. 常位胎盤早期剥離 b. 羊水塞栓 c. 急性妊娠脂肪肝 d. 子宮破裂 9. 合併症妊娠	1) 定義 2) 分類 3) 病因 4) 病態生理 5) 症状 6) 診断 7) 治療 8) 母児管理 1) 原因 2) 症状 3) 診断 4) 治療 1) 血液型不適合妊娠 2) 合併症 a. 子宮筋腫 b. 子宮頸癌 c. 膠原病 d. DM e. 心疾患 f. 甲状腺疾患 g. てんかん
III. 不妊・避妊	1. 不妊症 2. 不育症 3. 体外受精・胚移植 4. リプロダクティブヘルス・ライツ	1) 分類 2) 原因 3) 診断 4) 検査法 5) 治療 1) 分類 2) 原因 3) 診断 4) 検査法 5) 治療 1) 避妊 a. 経口避妊薬 b. IUD c. 不妊手術 d. コンドーム
IV. 分娩	1. 分娩の生理 2. 分娩の三要素	1) 産道 2) 娩出物 3) 娩出力

大項目	中項目	小項目
	3. 正常分娩の経過と管理 4. 正常分娩の取扱い 5. 分娩異常 <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 児頭骨盤不均衡 (CPD)</li> <li>b. 回旋異常</li> <li>c. 骨盤位</li> <li>d. 分娩停止</li> <li>e. 産科手術</li> </ul> 6. 妊娠中及び分娩時の麻酔 7. 分娩監視と胎児仮死	1) 産微 2) 分娩1期～3期 3) 破水 4) 児頭の位置、下降度 5) 回旋 6) 児の娩出 7) 胎盤の娩出 1) 産婦の取扱い 2) 会陰切開 1) 病因 2) 定義 3) 処置 1) 妊娠時の生理学的変化 2) 妊娠中の麻酔 3) 無痛分娩 4) 帝王切開の麻酔 1) 分娩監視装置 2) 陣痛曲線 3) 胎児心拍数図
V. 産褥	1. 正常産褥 2. 異常産褥	1) 産褥の定義 2) 子宮復古 3) 悪露 1) 出血 2) 産褥熱 3) 乳汁分泌不全、乳腺炎 4) 産褥血栓症 5) 産褥精神病

## 評価方法

試験により評価を行う

## 教科書

石原昌・東野妙子・村本淳子編著 母性看護学 1 第2版 妊娠・分娩 医歯薬出版 2006  
 池ノ上克・鈴木秋悦・高山雅臣ほか編 NEW エッセンシャル産科学・婦人科学第3版 医歯薬出版 2004

## 参考図書

石原 理 監修	講義録 産科婦人科学	メディカルレビュー社	2010
太田博明 監修	エクセルナース薬シリーズ5「産婦人科編」	メディカルレビュー社	2002
金岡 肇、井槌 邦雄著	チャート9 産婦人科 [1]産科	医学評論社	2007
金岡 肇、井槌 邦雄著	チャート9 産婦人科 [2]婦人科	医学評論社	2008

## 病態学・各論IV(母性)

1	2012.9.10	月	9:00～10:25	橋本 和法	卵巣の疾患（良性、悪性）
2	9.10	月	16:10～17:35	松井 英雄	生殖器の形態と機能と先天異常
3	9.14	金	9:00～10:25	石谷 健	子宮の疾患（子宮筋腫、頸癌、体癌）
4	9.20	木	16:10～17:35	東館 紀子	妊娠中の母体の生理現象、妊娠の成立、胎児の発生と発育・胎盤機能と形態
5	9.24	月	9:00～10:25	橋本 和法	子宮内膜症・STD・腔炎・外陰の疾患
6	9.24	月	13:00～14:25	秋澤 叔香	合併症妊娠（子宮筋腫、頸癌、膠原病、DM、心疾患、甲状腺疾患、てんかん）
7	9.24	月	16:10～17:35	東館 紀子	婦人科診察と検査、女性の性ホルモンの調節機構と異常
8	※10.9	火	16:10～17:35	(後日提示)	不妊、不育、避妊、生理機能の加齢と老化
9	11.5	月	9:00～10:25	高木 俊一	妊娠中及び分娩時の麻酔
10	11.5	月	13:00～14:25	小川 正樹	異常妊娠（1）流産・早産・子宮外妊娠・絨毛性疾患、妊娠高血圧症候群、産科DIC
11	11.5	月	14:35～16:00	小川 正樹	異常妊娠（2）前置胎盤、FGR、羊水過多過少
12	11.5	月	16:10～17:35	村岡 光恵	正常妊婦の管理、正常産褥、異常産褥
13	11.9	金	9:00～10:25	高木 耕一郎	分娩異常(CPD、回旋異常、骨盤位、分娩停止、産科手術)
14	11.12	月	14:35～16:00	牧野 康男	分娩の生理、三要素、正常分娩の経過と管理
15	11.28	水	9:00～10:25	牧野 康男	試験

※日時を変更する可能性があります。その際は、別途掲示等で周知します。

## 〔病態学・各論V（老年）〕

科目責任者 水野 敏子

科目担当者 尾崎 恭子、小山千加代、坂井 志麻  
原沢のぞみ、井澤 玲奈

## 目的

老年看護学の基礎的理解のために、老年期に起こりやすい疾病について、病態学・各論Ⅰ・Ⅱで学習している疾病的病態像を、老化という側面からとらえ直すことによって、高齢者に特徴的な病態・診断・治療について理解する。

## 到達目標

1. 老化とは何か、そのメカニズムについて説明できる。
2. 心・脈管系と呼吸器系の加齢変化と高齢者に多い疾患の病態・診断・治療について説明できる。
3. 骨・運動系の加齢変化と高齢者に多い疾患の病態・診断・治療について説明できる。
4. 脳神経系の加齢変化と高齢者に多い疾患の病態・診断・治療について説明できる。
5. 高齢者に多いうつ病の病態・診断・治療について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 老化とは	1. 細胞の老化の特徴と、老化をもたらす内的・外的因子について	1) 変性、免疫機能低下、腫瘍変化 2) 物理的因素、感染性因子
II. 呼吸・循環と体温維持に関する老化	1. 心・脈管系と呼吸器系の加齢変化	1) 心不全 2) 肺炎 3) COPD
III. 運動と休息、余暇活動に関する老化	1. 骨・運動系の加齢変化 2. 脳神経系の加齢変化 3. 高齢者の精神障害	1) 骨粗鬆症 2) 変形性関節症 3) 腰痛症 1) 高次脳機能障害 2) パーキンソン病 1) うつ病

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

## 教科書

水谷信子、水野敏子他 最新 老年看護学 改定版 日本看護協会出版会 2011

## 参考図書

佐藤千史 著	病態生理ビジュアルマップ1 呼吸器疾患／循環器疾患	医学書院	2010
落合慈之他 馬場元毅 著	循環器疾患ビジュアルブック 絵でみる脳と神経 第3版	学習研究社	2010
奈良勲/鎌倉矩子監修	一しきみと障害のメカニズム (JINブックス) 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野』	医学書院	2009
	神経内科学	医学書院	2009

## 病態学・各論V（老年）

山田律子 他	生活機能からみた老年看護過程 +病態・生活機能関連図	医学書院	2008
山浦晶/田中隆一監修	標準脳神経外科学	医学書院	2008
小山珠美 著	脳血管障害による高次脳機能障害		
石井清一 他 監修	標準整形外科学	日総研出版	2008
日野原重明 他 監修	看護のための最新医学講座第18巻 第2版 運動器疾患	医学書院	2005
祖父江元 著	看護のための最新医学講座第1巻 第2版 脳・神経系疾患	中山書店	2005
石合純夫 著	高次脳機能障害学	医歯薬出版	2003
井上 泰 訳	これだけは知りたい疾病のなりたち	医学書院	2000
山城守也 他 編	ベッドサイド老年病学	南江堂	1994

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.9.12	水	9:00～10:25	小山千加代	心・脈管系と呼吸器系の加齢変化
2	9.13	木	16:10～17:35	尾崎 恭子	細胞の老化をもたらす内的・外的因子
3	10.3	水	9:00～10:25	小山千加代	心・脈管系と呼吸器系の加齢変化
4	10.3	水	10:35～12:00	小山千加代	骨・運動系の加齢変化
5	10.17	水	9:00～10:25	小山千加代	骨・運動系の加齢変化
6	10.17	水	10:35～12:00	坂井 志麻	脳神経系の加齢変化
7	11.7	水	10:35～12:00	坂井 志麻	高齢者の精神障害
8	11.14	水	9:00～10:25	水野敏子	試験

[病態学・各論VI（精神）]

科目責任者 田中美恵子  
科目担当者 田中美恵子、小山達也、嵐 弘美、  
異儀田はづき、飯塚あつ子

目標

精神科疾患体系に基づき、主要な精神障害の病態についてグループワークを通して学ぶとともに、今日的な精神保健の問題状況を理解する。

到達目標

1. 精神医学の歴史から精神科における疾患体系と主たる治療法について説明できる。
2. 各精神障害の病態像・分類・症状・日本における統計的実態・経過と予後・治療の特徴を説明できる。
3. 各精神保健の問題について、状態・日本における統計的実態・経過・治療・支援システムについて説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 精神医学の歴史 ・疾患体系	1. 精神医学の歴史 2. 疾患体系 3. 精神科治療	1)精神医学の歴史 2)DSM-IV-TR と ICD-10 3)薬物療法、精神療法、社会療法
II. 精神障害の病態	1. 総合失調症（急性期・慢性期） 2. 気分障害 3. 不安障害 4. パーソナリティ障害 5. 摂食障害 6. 症状性を含む器質性精神障害 7. 物質関連障害（アルコール依存症、薬物依存症など） 8. 児童の精神障害	各精神障害における 1) 病態像、分類、症状 2) 日本における統計的実態 3) 経過と予後 4) 治療
III. 精神保健の問題	1. 自殺 2. 虐待 3. 不登校、引きこもり 4. その他	各精神保健の問題における 1) 状態 2) 日本における統計的実態 3) 経過 4) 治療 5) 支援システム

評価方法

出席状況、学習態度、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

太田保之 編 学生のための精神医学 第2版 医歯薬出版 2006

参考図書

講義中に適宜紹介する

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.9.20	木	13:00～14:25	田中美恵子他*	精神医学の歴史・疾患体系
2	9.27	木	9:00～10:25	嵐弘美・飯塚あつ子	グループワーク①
3	10.1	月	9:00～10:25	異儀田はづき	グループワーク②
4	10.1	月	13:00～14:25	異儀田はづき・飯塚あつ子	グループワーク③
5	10.5	金	16:10～17:35	小山 達也他*	グループワーク④
6	10.22	月	9:00～10:25	嵐 弘美他*	グループワークの発表①
7	10.29	月	9:00～10:25	異儀田はづき他*	グループワークの発表②
8	10.31	水	10:35～12:00	小山 達也他*	グループワークの発表③

\* 田中美恵子、小山達也、嵐 弘美、異儀田はづき、飯塚あつ子担当

## リハビリテーション

### [リハビリテーション]

科目責任者 猪飼 哲夫  
 科目担当者 猪飼 哲夫、上久保 肇、百瀬 由佳、  
 岩本 卓水、角田 明子、待井 典子

#### 目的

リハビリテーションは、障害を持った個人が可能な限りその能力を発揮できるように障害を軽減し、医学的・社会的に援助し、社会的不利ができるだけ少なくすることを目標とする。そのためには、医師と看護師以外にも多くの職種の関与が必要である。

看護師の任務は、リハビリテーション医療の重要な部位を占め、急性期においては全身状態の観察や、廃用症候群の予防、日常生活動作の早期自立に向けて看護を行う。そして、回復期から維持期においては、獲得した能力の維持・向上をはかり、精神的な支援や生活指導を行い、社会復帰に対して適切な助言が与えられるようになることを目的とする。

#### 到達目標

リハビリテーションの概念、目的、治療方法について学び、理解することを到達目標とする。病棟などの実習や、将来看護師になってから業務に役立つことが期待される。また、リハビリテーション看護は看護技術として重要な一分野になっており、学んだ知識はリハビリテーション看護で実践できる。

大項目	中項目	小項目
I. リハビリテーション	1. リハビリテーション医学概論 2. リハビリテーションの治療手段 3. 各疾患別リハビリテーション	1) リハビリテーションの理念 2) リハビリテーション医学の歴史 3) 障害論 4) チーム医療 5) 地域リハビリテーション 1) リハビリテーション看護 2) 物理療法 3) 理学療法 4) 作業療法 5) 言語聴覚療法 6) 義肢・装具療法 7) 医療ソーシャルワーク 1) 脳卒中のリハビリテーション 2) 脳外傷のリハビリテーション 3) 脊髄損傷のリハビリテーション 4) 切断のリハビリテーション 5) 骨・関節疾患のリハビリテーション 6) 小児のリハビリテーション 7) 神経・筋疾患のリハビリテーション 8) 呼吸・循環器疾患のリハビリテーション

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

石田 晉、宮野佐年 監修 リハビリテーション科臨床マニュアル 医歯薬出版 2003

参考図書

米本恭三 監修	最新リハビリテーション医学 第2版	医歯薬出版	2005
千野直一 編著	現代リハビリテーション医学 改訂第3版	金原出版	2009
岡島康友 編著	看護のための最新医学講座 第27巻 リハビリテーション・運動療法	中山書店	2002

## リハビリテーション

### <講義スケジュール>

1	2012.10.5	金	13:00～14:25	猪飼 哲夫	リハビリテーション医学概論
2	10.5	金	14:35～16:00	岩本 卓水	理学療法概論
3	10.12	金	13:00～14:25	角田 明子	作業療法概論
4	10.12	金	14:35～16:00	待井 典子	言語聴覚療法概論
5	10.17	水	13:00～14:25	上久保 肇	脳卒中・脳外傷のリハビリテーション
6	10.17	水	14:35～16:00	上久保 肇	脊髄損傷のリハビリテーション
7	10.19	金	13:00～14:25	百瀬 由佳	小児・神経-筋疾患・呼吸器疾患・循環器疾患のリハビリテーション
8	10.31	水	9:00～10:25	猪飼 哲夫	試験

働きかけの基本・看護活動

## 〔成人看護学・概論〕

科目責任者：下平唯子

科目担当者：下平唯子、金子眞理子

目的：成人の特徴を理解し、援助に必要な基本的知識を学び、看護実践にむけた基盤をつくる。

## 到達目標

1. 成人看護学の学習内容の構成要素について説明できる。
2. 生涯発達における成人の特徴について説明できる。
3. 成人に特有な健康問題や成人を取り巻く環境について説明できる。
4. 成人看護に必要な基礎的概念（インフォームドコンセントと自己決定、成人学習理論、自己効力感、エンパワーメント、家族システム論）について、説明できる。
5. ストレスコーピングの基礎的概念について説明でき、事例への適用ができる。
6. 自己のセルフケアアセスメントを通して、セルフケアの基本的概について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 成人期にある対象者について総合的に理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達における成人の特徴</li> <li>2. 成人に特有な健康問題</li> <li>3. 成人を取り巻く環境</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成人の特徴</li> <li>2) 発達課題</li> <li>3) 発達危機と健康問題           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体の変化</li> <li>2) 生活習慣病</li> <li>3) ヘルスプロモーション</li> </ol> </li> <li>1) 現代社会と健康問題</li> <li>2) 自殺の増加、格差社会など</li> <li>3) 職業関連病</li> </ol>
II 成人期の特徴を考慮した看護のあり方を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インフォームドコンセントと自己決定</li> <li>2. 成人の学びの特徴を活かしたアプローチ</li> <li>3. 固有の信念や生活様式を持つ人のアプローチ</li> <li>4. ストレス・コーピング</li> <li>5. セルフケア論</li> <li>6. 家族システム論</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) インフォームドコンセントの歴史的背景と基本理念</li> <li>2) インフォームドコンセント・自己決定と看護師の役割           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成人学習理論</li> </ol> </li> <li>1) 自己効力感</li> <li>2) エンパワーメント           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ストレス・コーピングの概念</li> <li>2) 事例への適用</li> </ol> </li> <li>1) セルフケアの概念</li> <li>2) オレムセルフケア理論</li> <li>3) 自己のセルフケア・アセスメント</li> <li>1) 家族システム論の概念</li> </ol>

成績評価の方法：出席、試験、レポートによる。

## 教科書：

大西和子他 編

成人看護学概論

ヌーヴェルヒロカワ 2版

2011

## 参考図書： 隨時紹介

厚生統計協会：国民衛生の動向、

2011

厚生統計協会：図説 国民衛生の動向、

2011

服部祥子：生涯人間発達論、

医学書院、

2000

小松浩子他著：系統看護学講座 成人看護学総論

医学書院

2010

大西和子他編集：成人看護学 ヘルスプロモーション

ヌーヴェルヒロカワ

2010

鈴木志津枝編集：成人看護学 慢性期看護論 第2版

ヌーヴェルヒロカワ

2010

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.11	水	14:35~16:00	下平 唯子	生涯発達における成人の特徴
2	4.11	水	16:10~17:35	下平 唯子	成人に特有な健康問題
3	4.12	木	9:00~10:25	下平 唯子	成人を取り巻く環境、家族システム論
4	4.12	木	10:35~12:00	金子眞理子	インフォームドコンセントと自己決定、 自己効力感・エンパワーメント、成人学習理論
5	4.13	金	9:00~10:25	金子眞理子	ストレス・コーピング
6	4.13	金	10:35~12:00	下平 唯子	セルフケアとは
7	4.20	金	10:35~12:00	下平 唯子	セルフケア・アセスメント
8	5.9	水	9:00~10:25	下平 唯子	試験

## 〔成人看護学・各論 I (健康各期の看護)〕

科目責任者 下平唯子

科目担当者 下平唯子、金子眞理子、原三紀子、落合亮太、

益田美津美、原美鈴、三浦美奈子、小林礼実、松岡志帆

目的：さまざまな健康レベルにある成人期の対象者の特徴を学び、看護実践への適用について理解する。

到達目標

1. 成人看護学各論 I の学習内容の構成要素について説明できる。
2. 周手術期にある対象者の特徴と必要な看護について説明できる。
3. 慢性期にある対象者の特徴と必要な看護について説明できる。
4. リハビリテーションを必要とする対象者の特徴と必要な看護について説明できる。
5. 終末期にある対象者の特徴と必要な看護について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 成人看護学各論 I の概要	1. 成人看護学各論 I の構成要素	1) 成人看護学における各論 I の位置付け 2) 内容と各項目の相互関係
II. 周手術期にある対象者への看護	1. 周手術期看護の特徴  2. 周手術期にある人の理解と看護援助  3. 術後合併症の予防と対策  4. 周手術過程に応じた看護の実際：術前  5. 周手術過程に応じた看護の実際：術中 6. 周手術過程に応じた看護の実際：術後	1) 周手術期とは 2) 手術療法の特徴 3) 周手術期看護の理念と専門性 1) 手術侵襲に対する生体反応 2) 術後疼痛 3) 手術を受ける患者とその家族の心理 4) ボディイメージの変容 5) 新たなセルフケア行動獲得の必要性 1) 術後合併症とは 2) 主要な術後合併症の予防と対策 ・呼吸器合併症 ・循環器合併症 ほか 1) 主体的な治療参加への支援 2) 手術に向けた準備 3) 手術室への入室 1) 手術の進行の概要 2) 手術室における看護師の役割 1) 術直後のモニタリング 2) 苦痛の緩和 3) 術後回復の促進 4) 自己管理に向けた援助
III. 慢性疾患をもつ人への看護	1.慢性疾患をもつ人の理解  2.慢性疾患をもつ人への看護	1) 慢性疾患の種類と特徴 2) 患者および家族にとっての病いの意味 3) 慢性疾患とセルフケア 1) 援助論①慢性疾患を持つ人のアセスメント 2) 援助論②セルフケア獲得のための支援 3) 援助論③疾病受容・自己実現のための支援 4) 援助論④慢性疾患患者の全体像の把握 5) 援助論⑤慢性疾患患者の問題点の抽出

大項目	中項目	小項目
IV. リハビリテーション看護	1. リハビリテーション概論 2. 脳神経難病をもつ人のリハビリテーション 3. 内部障害をもつ人のリハビリテーション	1) リハビリテーションの歴史的変遷と定義 2) 障害の捉え方とノーマライゼーション 3) リハビリテーションの対象の特徴 4) ステージ別（予防的・急性期・回復期・維持期・終末期）リハビリテーションの特徴 5) リハビリテーション看護の目標と役割 6) 対象理解を深めるための概念ならびに諸理論：自己概念、ボディイメージ、自己決定、エンパワーメント、アドボカシー、障害受容（段階理論、価値転換理論）他 1) 脳神経障害をもつ対象の特徴ならびにアセスメントの視点 2) ステージ別リハビリテーション看護の実際 ①急性期から回復期 ②維持期から終末期 3) 障害別アプローチの実際 ①運動機能障害 ②高次脳機能障害③コミュニケーション障害 1) 内部障害をもつ対象者の特徴 2) 循環機能障害をもつ対象者のアセスメント 3) 心臓リハビリテーションの実際と看護 4) 呼吸機能障害をもつ対象者のアセスメント 5) 呼吸リハビリテーションの実際と看護
V. 終末期にある対象者への看護	1. 終末期の概念 2. 終末期にある対象者の看護 3. 終末期にある人の家族の支援	1) 終末期と死の概念 2) Death Education の歴史と概念 3) 終末期の倫理的課題 1) 終末期にある対象者の特徴 2) 死の徵候と臨死期における看護 1) 終末期にある対象者の家族の特徴 2) 看取りとグリーフケア

成績評価の方法：試験結果および課題提出により総合的に評価する。

#### 教科書

矢永勝彦、小路美喜子編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	医学書院	2011
吉田俊子 <sub>他</sub> 編 系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学[3]循環器	医学書院	2010
浅野浩一郎 <sub>他</sub> 編 系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学[2]呼吸器	医学書院	2010

#### 参考図書

日野原重明 <sub>他</sub> 監	看護のための最新医学講座 第4巻 消化管疾患	中山書店	2001
奥宮暁子	慢性疾患のアセスメントと看護	中央法規	2002
斎藤宗靖	狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション 第4版	南江堂	2009
日本循環器学会 <sub>他</sub>	心臓血管におけるリハビリテーションに関するガイドライン		2007
D.D.Ignatavicius	Medical Surgical Nursing	W.B.Saunders Co.	2002
小松源助 訳			
北島政樹 <sub>他</sub> 編	系統看護学講座 別巻2 臨床外科看護各論	医学書院	2007
小松浩子 <sub>他</sub>	系統看護学講座 専門5 成人看護学[1]成人看護学総論	医学書院	2007

数間恵子他 編	手術患者のQOLと看護	医学書院	1999
雄西千恵美他 編	周手術期看護論（成人看護学シリーズ）	ヌーヴェルヒカリ	2005
天羽敬祐他 編	これだけは知っておきたい周手術期ケアQ&A	総合医学社	2004
加藤万利子他 編	ビデオ周手術期の看護：術前・術中&術後	ナーシングニューメディア	1993
ピエールウグ編集	慢性疾患の病みの軌跡	医学書院	1995
山田規誠子著	壊れた脳 生存する知	講談社	2004
田村綾子他	ナーシンググラフィカ 13 脳神経・感覚神経機能障害	メディカ出版	2005
中西純子他 編	リハビリテーション看護論第2版	ヌーヴェルヒカリ	2008
氏家幸子 監	成人看護学 F.終末期にある患者の看護 第3版	廣川書店	2006
清水哲郎他 編	ケア従事者のための死生学	ヌーヴェルヒカリ	2010
池ノ上寛太著	リハビリの責任と結果	三輪書店	2009

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	4.16	月	9:00～10:25	下平唯子他*1	各論 I の概要、慢性疾患患者の理解
2	4.16	月	13:00～14:25	三浦美奈子	周手術期看護 1
3	4.17	火	16:10～17:35	原 三紀子	リハビリテーション概論1
4	4.20	金	9:00～10:25	落合 亮太	慢性疾患患者の理解／慢性疾患の種類と特徴
5	4.23	月	9:00～10:25	三浦美奈子	周手術期看護2
6	4.23	月	13:00～14:25	原 三紀子	リハビリテーション看護2
7	4.27	金	16:10～17:35	落合 亮太	慢性疾患をもつ人の生活上の課題／慢性疾患とセルフケア
8	5.8	火	13:00～14:25	三浦美奈子	周手術期看護3
9	5.14	月	9:00～10:25	小林 礼実	リハビリテーション看護3
10	5.16	水	14:35～16:00	落合亮太他*2	慢性疾患患者の看護／援助論1
11	5.16	水	16:10～17:35	三浦美奈子	周手術期看護4
12	5.24	木	16:10～17:35	原 三紀子	リハビリテーション看護4
13	5.28	月	16:10～17:35	落合亮太他*2	慢性疾患患者の看護／援助論2
14	5.29	火	14:35～16:00	三浦美奈子	周手術期看護5
15	5.30	水	14:35～16:00	小林 礼実	リハビリテーション看護5
16	5.31	木	10:35～12:00	落合亮太他*2	慢性疾患患者の看護／援助論3
17	5.31	木	13:00～14:25	原 美鈴	終末期看護1
18	6.18	月	16:10～17:35	原 三紀子	リハビリテーション看護6
19	6.19	火	13:00～14:25	落合亮太他*2	慢性疾患患者の看護／援助論4
20	6.20	水	10:35～12:00	原 美鈴	終末期看護2
21	6.20	水	13:00～14:25	小林 礼実	リハビリテーション看護7
22	6.21	木	10:35～12:00	落合亮太他*2	慢性疾患患者の看護／援助論5
23	6.28	木	10:35～12:00	下平 唯子	試験

\*1: 下平唯子、落合亮太担当

\*2: 金子眞理子、原三紀子、落合亮太、益田美津美、原美鈴、三浦美奈子、小林礼実、松岡志帆担当

## 〔成人看護学・各論Ⅱ(専門領域の探求)〕

科目責任者 下平唯子

科目担当者 下平唯子、金子眞理子、原三紀子、落合亮太、

益田美津美、原美鈴、三浦美奈子、小林礼実、松岡志帆、

## 目的

さまざまな専門分野について学習し、看護実践への適用について理解する

## 到達目標

1. がんの病態と治療および治療を受ける対象者の特性と必要な看護について説明できる。
2. クリティカルケアが必要な対象の特性と必要な看護について説明できる。
3. 救急医療の概要、救急看護の展開について理解し、救急看護に必要な基本技術を実施できる。
4. 災害医療の概要および看護の役割について説明できる。
5. 人工臓器の概要および人工臓器を必要とする人の看護について説明できる。
6. 脳死および臓器移植の概念、生命倫理、移植システム、臓器移植看護の概要について説明できる。
7. 緩和ケアの概念、歴史と緩和ケアにおける倫理、身体・精神症状とマネジメントについて理解し、緩和ケアを必要とする人の看護について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. がん看護	1. がん看護概論 2. がんの病態と治療の特徴 3. 治療を受ける対象者の看護 4. がんサバイバーシップ	1)がんという病気 2)人口動態とがん 3)がん看護の特徴 1)がんの病態の特性 2)がんの診断と治療 1)化学療法と看護 2)放射線療法と看護 3)手術療法と看護 4)代替補完療法 1)がんサバイバーシップの概念 2)がんサバイバーへの支援
II. クリティカルケア 看護	1. クリティカルケアの概念 2. クリティカルケアを必要とする対象者の理解 3. クリティカルケアを必要とする対象者の看護	1)クリティカルケアの定義 2)クリティカルケア看護の対象者 1)クリティカルケアが行われる治療環境 2)クリティカルケアが必要となる対象者の特徴 3)危機理論 1)モニタリングとライフサポート 2)合併症と二次障害の予防 3)鎮痛・鎮静 4)家族支援
III. 救急看護	1. 救急医療の概要 2. 救急看護の展開	1)救急医療システム 2)救命の連鎖 3)重症度と緊急度 4)救急医療におけるチームアプローチ 1)救急患者の特徴 2)救急患者のトリアージ 3)救急患者の看護1(一次救急) 4)救急患者の看護2(二次救急・三次救急) 5)救急医療を受ける患者家族の特徴とケア

## 成人看護学・各論Ⅱ

大項目	中項目	小項目
	3. 救急看護に必要な基本技術	1)応急手当て 2)包帯法(演習) 3)一次救命処置(演習) 4)二次救命処置
IV. 災害看護	1. 災害医療の概要  2. 災害医療における看護の役割	1)災害医療システム 2)災害医療の緊急対応の三原則 3)災害時におけるチームの結成 1)災害時のトリアージ 2)災害時の医療活動における他職種との協働
V. 人工臓器を必要とする対象者への看護	1. 人工臓器の概要  2. 人工臓器を必要とする人の看護	1)血液浄化療法 2)人工心肺 1)血液透析療法と看護 2)持続携帯型腹膜透析療法と看護 3)人工腎臓と腎移植 4)心臓ペースメーカー 5)大動脈内バルーンパンピング 6)植え込み型除細動器 7)補助人工心臓
VI. 脳死と臓器移植看護	1. 脳死の概念と生命倫理  2. 臓器移植の概念と移植システム  3. 臓器移植各論	1)脳死判定方法 2)臓器の移植に関する法律 3)脳死・臓器移植と生命倫理 1)臓器移植とは 2)免疫抑制療法 3)移植システム 1)腎移植看護 2)心臓移植看護
VII. 緩和ケア	1. 緩和ケアの概念と歴史  2. 緩和ケアに関連した倫理的課題とチームアプローチ  3. 身体・精神症状とマネジメント  4. 緩和ケアの具体的アプローチ  5. 緩和ケアを必要とする人の理解と看護	1)歴史とその概念 2)トータルペインの理解と看護の役割 1)治療の意思決定 2)鎮静(セデーション) 3)アドバンスディレクティブ 1)身体・精神症状・つらさのアセスメントとマネジメント 1)緩和ケアにおけるコミュニケーション 2)ライフレビューインタビュー 3)デイグニティセラピー 4)緩和ケアにおける認知行動療法 1)事例検討

成績評価の方法:試験結果、演習参加度、および課題提出により総合的に評価する。

### 教科書

[緩和ケア] 鈴木志津枝他 緩和・ターミナルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ(第7版)

2010

参考図書

中谷寿男 編集	看護のための最新医学講座[25] 救急(第2版)	中山書店	2007
山勢博彰 編集	救急看護論	ヌーヴェルヒロカワ	2005
小原真理子他監修	災害看護 心得ておきたい基本的な知識	南山堂	2007
丸川征四郎 編著	経験から学ぶ大規模災害医療 対応・活動・処置	永井書店	2007
遠藤恵美子著	希望としてのがん看護	医学書院	2001
季羽倭文子監	がん看護学	三輪出版	2001
大場正己他	新しいがん看護	ブレーン出版	1999
小川節郎他	緩和医療	東京大学出版会	2010
今井浩三編集	看護のための最新医学講座[24]腫瘍の臨床(第2版)	中山書店	2008
富澤康子編	体外循環と補助循環 2009	日本人工臓器学会	2009
富澤康子編	人工臓器	日本人工臓器学会	2008
日本人工臓器学会編	人工臓器イラストレイティッド	日本人工臓器学会	2007
桜庭繁 林優子編	いのちを伝える臓器移植看護	メディカ出版	2006
近藤まゆみ他編	がんサバイバーシップ	医歯薬出版	2006
池松裕子他 編集	成人看護学 急性期看護論	ヌーヴェルヒロカワ	2005
池松裕子 編集	クリティカルケア看護論	ヌーヴェルヒロカワ	2009
寺町優子他	クリティカルケア看護 理論と臨床への応用	日本看護協会出版会	2007
道又元裕 他 著	系統看護学講座別巻 クリティカルケア看護学	医学書院	2008

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	6.18	月	14:35~16:00	下平唯子	がん看護概論
2	6.20	水	14:35~16:00	小林礼実	クリティカルケア看護1
3	6.25	月	13:00~14:25	小林礼実	クリティカルケア看護2
4	6.25	月	14:35~16:00	落合亮太	救命救急看護1
5	7.2	月	9:00~10:25	原 美鈴	がんの病態と治療の特徴
6	7.2	月	10:35~12:00	落合亮太	救命救急看護2
7	7.2	月	13:00~14:25	落合亮太	救命救急看護3
8	7.3	火	13:00~14:25	下平唯子他*1	災害・救命救急看護4
9	7.3	火	14:35~16:00	下平唯子他*1	災害・救命救急看護5
10	7.5	木	13:00~14:25	原 美鈴	がん看護1：化学療法と看護、放射線療法と看護
11	7.6	金	13:00~14:25	原 美鈴	がん看護2：手術療法と看護
12	7.6	金	14:35~16:00	三浦美奈子	がん看護3：がんサバイバーシップ
13	9.12	水	16:10~17:35	金子真理子	緩和ケア1：歴史と概念
14	9.13	木	9:00~10:25	金子真理子	緩和ケア2：症状マネジメント
15	9.18	火	13:00~14:25	金子真理子	緩和ケア3：緩和ケアを必要とする人の理解
16	10.9	火	14:35~16:00	益田美津美	人工臓器の概要
17	10.10	水	13:00~14:25	益田美津美	人工臓器と看護
18	11.1	木	9:00~10:25	金子真理子	緩和ケア4：事例
19	11.1	木	10:35~12:00	金子真理子	緩和ケア5：事例
20	11.26	月	13:00~14:25	益田美津美	脳死の概念、生命倫理、臓器移植の概念と移植医療システム
21	11.27	火	13:00~14:25	益田美津美	臓器移植看護
22	12.10	月	13:00~14:25	下平唯子他*2	まとめ
23	12.14	金	10:35~12:00	下平唯子	試験

\*1:下平唯子、原三紀子、落合亮太、益田美津美、原美鈴、三浦美奈子、小林礼実、松岡志帆担当

\*2:下平唯子、金子真理子、原三紀子、落合亮太、益田美津美、原 美鈴、三浦美奈子、  
小林礼実、松岡志帆担当

## 〔成人看護学実習 I〕

科目責任者 下平 唯子

科目担当者 下平 唯子、金子眞理子、原 三紀子、落合 亮太、

益田美津美、原 美鈴、三浦美奈子、小林 礼実、松岡 志帆

目的 対象者に必要な先端医療を行う大学病院内の医療環境を理解し、根拠に基づいた看護を実践する。

### 到達目標

1. 病棟、手術室、集中治療室の構造と管理体制、対象者および治療・看護の特徴を理解することができる
2. 疾患・検査・治療について理解し、それらが対象者に及ぼす影響について記述することができる
3. フィジカルアセスメントやカルテの閲覧、コミュニケーションなど、さまざまな方法を用いて看護に必要な情報を得ることができる
4. ヘンダーソンの14項目を用いて、身体的・心理的・社会的視点から対象者をアセスメントすることができる
5. アセスメントした事柄の関連性を図式化し、顕在的な看護問題から把握、記述することができる
6. 看護の方向性を踏まえ、看護目標を設定し、看護計画を立案することができる
7. 看護師および担当教員の指導のもと、安全・安楽に配慮しながら対象者の状態を踏まえた看護援助を実施することができる
8. 実施した看護について、対象者の反応を捉え、対象者に及ぼした影響を振り返り、記述することができる
9. 行動計画および実施した看護、自分の考えについて、看護師および担当教員に報告、相談することができる
10. 看護学生としての自己のありようを振り返り、今後の課題を見出し、述べることができます

## 成人看護学実習 I

大項目	中項目	小項目
対象者に必要な先端医療を行う大学病院内の医療環境を理解し、根拠に基づいたより良い看護を実践する。	1. 病棟、手術室、集中治療室の構造、管理体制、対象者および治療・看護の概要を知る。  2. 様々な治療を受ける対象者のアセスメントを行い、看護の必要性を理解し、計画し、実施し、評価する。	1) 病棟、手術室、集中治療室の構造、管理体制 2) 対象者、治療、看護の概要  1) 疾患、検査および治療の理解とそれらが対象者に及ぼす影響の記述 2) さまざまな方法を用いた看護に必要な情報収集 3) 身体的・精神的・社会的視点からのアセスメント 4) アセスメントの関連性の記述と顧在的看護問題の把握・記述 5) 看護の方向性、看護目標の設定と看護計画の立案 6) 安全・安楽に配慮した看護援助の実施
	3. より良い看護を提供するために、自己をふり返る。	1) 行動計画、実施した看護の報告、相談 2) 実施した看護および対象者に及ぼした影響の振り返りと自己の課題

### 実習方法

少人数のグループに分かれ、1人以上の対象者を受け持ち、指導者と共に看護を実践する。

### 成績評価の方法

出席、看護実践の成果、課題提出などにより総合的に評価する。

### 教科書

特に指定せず、隨時必要な資料を配布する。

<講義スケジュール>

A、B グループ共通

2012. 12. 11 (火)	9:00～16:00	実習オリエンテーション
------------------	------------	-------------

A グループ

2013. 1. 9 (水)～1. 23(水)	9:00～17:35	病棟実習
-------------------------	------------	------

B グループ

2013. 1. 25(金)～2. 8(金)	9:00～17:35	病棟実習
------------------------	------------	------

\*上記日程担当者：下平唯子、金子眞理子、原三紀子、落合亮太、益田美津美、原美鈴、三浦美奈子、小林礼実、松岡志帆

## 〔老年看護学・概論〕

科目責任者 水野 敏子

科目担当者 水野 敏子、小山千加代、坂井 志麻  
原沢のぞみ、井澤 玲奈

## 目的

老年者は非常に多様な存在であり、本来もっている機能を引き出す援助が重要である。そのために、高齢者の身体的、心理的、社会的特徴について学習し、統合された一人の人間としての理解を深める。そして、高齢者を取り巻く家族や地域社会との関係及び社会システムという視点も含めて、高齢者が健やかに生活するための看護について学ぶ。

## 到達目標

1. 老年期における健康の考え方について説明できる。
2. 老年期における発達課題について説明できる。
3. 高齢者の身体的、心理的、社会的特徴について説明できる
4. 高齢者が保持している能力を活用しながら看護を展開する必要性と、その方法について説明できる。
5. 身体・精神機能の加齢変化を理解し、予防的視点から老年看護について説明できる。
6. 老年看護に応用される理論について述べることができる。
7. 高齢者に用いられる ADL 評価の指標を挙げて説明することができる。
8. 老年看護領域における倫理的問題について説明できる。
9. 老いることについて自らの考えを述べることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 老年期を生きる人の理解	1. ライフサイクルと老年期 2. エイジングの考え方 3. 老年期における健康の考え方 4. 高齢者の QOL	1) 老年期と発達 2) 老年期における学習と発達課題 1) 老年学における加齢の研究 2) 加齢変化とその影響 1) 学習理論 2) マズローの健康論 3) ウェルネスの概念 4) 全体論的健康の概念 1) QOL 概念の意味するもの 2) 長期ケア施設を利用する高齢者の QOL
II. 老年看護の成り立ちと特質	1. 老年看護の定義と役割 2. 老年看護を理解するための概念と理論	1) 老年看護に期待される役割の場の広がり 1) 老年看護学実践を支える概念と理論の重要性
III. 老年看護の倫理的課題	1. 「老い」のとらえ方の変遷と看護倫理 2. 高齢者・病弱者の権利とアドボガシー 3. 老年看護研究と倫理	1) 「老い」と社会的背景 2) 「老い」の本質の追求と看護倫理のあり方 1) 患者の権利擁護をめぐる動向 2) 高齢者の権利擁護と看護のあり方 1) 老年看護研究と倫理原則 2) 高齢者の権利とアドボガシー

大項目	中項目	小項目
IV. 高齢者の健康アセメントと看護	1. 身体・精神機能の加齢変化と看護 2. 日常生活動作のアセスメントと看護 3. 身体・精神機能の低下とその予防	1) 呼吸循環の加齢変化 2) 感覚の加齢変化 3) 運動機能の加齢変化 4) 皮膚の加齢変化 5) 消化・呼吸の加齢変化 6) 精神・神経・心理機能（コミュニケーション含）の加齢変化 1) ADL・IADLのアセスメント 2) 高齢者の日常生活動作能力のアセスメントと看護 1) 生活機能の低下とその予防 （リハビリテーション・老年症候群の予防含）

成績評価の方法：出席日数、試験結果、レポート提出等により総合的に評価する。

#### 教科書

水谷信子、水野敏子他 最新 老年看護学 改定版 日本看護協会出版会 2011

#### 参考図書

厚生統計協会	国民衛生の動向 平成22年度版	厚生統計協会	2010
厚生労働省 編	厚生労働白書	日経印刷	2010
内閣府 編	高齢社会白書	内閣府	2010
日本老年医学会 編	老年医学テキスト 改定第3版	メジカルビュー社	2008
三浦文夫 編	図説高齢者白書 2006年度版	全国社会福祉協議会	2007
鳥羽研二 編	老年症候群の診かた	メジカルビュー社	2004
鷺田清一 著	老いの空白 シリーズ生きる思想	弘文堂	2003
大貫敬一 著	適応と援助の心理学 適応編	培風館	1998
東京都老人総合研究所	サクセスフル・エイジング－老化を理解するために	ワールド・ブランディング	1998
水野 肇、青山英康編著	PPK(ピソピソコロ)のすすめ －元気に生き抜き、病まことに死ぬ	紀伊国屋書店	1998
岡村清子 著	テキストブックエイジングの社会学	日本評論社	1997
木下康仁 著	ケアと老いの祝福	勁草書房	1997
読売新聞社編集局解説部	超高齢時代 豊な人生をデザインする	日本医療企画	1997
柴田 博他	高齢者の食生活と栄養	光生館	1994
柴田 博 著	元気に長生き元気に死のう老後の健康常識のワケ	保健同人社	1994
ナシ・J・オズグット	老人と自殺 老いを排除する社会	春秋社	1994
日本化学会 編	健やかに老いる－（一億人の化学）	大日本図書	1992
井上勝也、荒木乳根子著	現代のエスプリ301 老いと性	至文堂	1992
柴田 博 著	老人保健活動の展開	医学書院	1992
梶 博久、吉沢 勲 著	老人の性	中央法規出版	1988
大工原秀子 著	老年期の性	ミネルヴァ書房	1979
霜山徳爾 著	人間へのまなざし	中央公論新社	1977
シモース・ド・ボーヴォアール著	老い 上下巻	人文書院	1972

<講義スケジュール>

1	2012.10.5	金	9:00～10:25	水野 敏子	老年期を生きる人の理解
2	10.12	金	10:35～12:00	水野 敏子	老年看護の成り立ちと特質
3	10.29	月	13:00～14:25	小山千加代	老年期における「健康と暮らし」
4	10.29	月	14:35～16:00	小山千加代	権利とアドボカシー
5	10.30	火	13:00～14:25	坂井 志麻	身体・精神機能の加齢変化と看護( 課題の提示)
6	11.1	木	13:00～14:25	井澤玲奈他*	身体・精神機能の加齢変化と看護(高齢者体験:演習 / 課題学習)
7	11.1	木	14:35～16:00	井澤玲奈他*	身体・精神機能の加齢変化と看護(高齢者体験:演習 / 課題学習)
8	11.2	金	13:00～14:25	井澤玲奈他*	身体・精神機能の加齢変化と看護(高齢者体験:演習 / 課題学習)
9	11.2	金	14:35～16:00	井澤玲奈他*	身体・精神機能の加齢変化と看護(高齢者体験:演習 / 課題学習)
10	11.7	水	13:00～14:25	坂井 志麻	身体・精神機能の加齢変化と看護(課題の解説)
11	11.8	木	14:35～16:00	小山千加代	日常生活動作のアセスメント
12	11.8	木	16:10～17:35	坂井 志麻	活動機能の低下とその予防
13	11.9	金	10:35～12:00	小山千加代	高齢者の個人史から学ぶ(価値観や考え方与えた人生の出来ごと)
14	11.9	金	13:00～14:25	小山千加代	高齢者と家族——介護している家族について
15	11.19	月	9:00～10:25	水野 敏子	試験

\* 井澤玲奈、原沢のぞみ、坂井志麻、小山千加代、水野敏子

## 〔小児看護学・概論〕

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 日沼 千尋、奥野 順子、関森みゆき、  
青木 雅子、櫻田 章子

## 目的

小児看護の概要を理解し、看護の対象である子どもの成長・発達と各発達段階の特徴を学ぶ。

## 到達目標

1. 小児看護の概要（目的、対象、場、方法、関連職種）について説明することができる。
2. 社会における子どもの位置づけについて、法律、文化、社会保障制度、教育制度の視点から説明することができる。
3. 権利の主体者としての子どもの捉え方と子どもの権利を守る看護について説明できる。
4. 子どもの生活に関わる小児保健と小児医療の現状について説明できる。
5. 現代の子どもの健康をめぐる課題について説明できる。
6. 子どもの成長・発達の原則と理論、発達に関する評価について説明できる。
7. 子どもの発達段階と生活の特徴について説明することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 小児看護学の概念	1. 小児看護とは 2. 社会における子どもの位置づけ 3. 子どもの権利と小児看護 4. 小児保健と小児医療	1) 小児看護の目的 2) 小児看護の対象と場 3) 小児看護に関わる職種 4) 小児看護の特殊性 5) 小児看護学における子どもの捉え方 1) 歴史的位置づけ 2) 法的位置づけ 3) 地域社会・家庭における位置づけ 1) 子どもの意思決定と看護 2) 子どもの最善の利益を守る看護 1) 小児保健医療の概念と目的 2) 小児保健医療の動向 3) 小児の保健医療施策 4) 子どもの健康をめぐる課題
II. 子どもの成長・発達と生活	1. 成長・発達とは 2. 発達段階と子どもの生活行動	1) 成長・発達の概念 2) 成長・発達の一般的な原則 3) 成長・発達に影響を与える因子 4) 発達段階と発達課題 5) 発達理論 6) 発達評価と環境評価 1) 乳児 2) 幼児 3) 小学生・中学生

## 小児看護学・概論

### 評価方法

試験結果、レポート内容、出席状況から評価する。

### 教科書

松尾宣武、濱中喜代 編 新体系看護学全書 メヂカルフレンド社 2012  
小児看護学①小児看護概論・小児保健 第4版

### 参考図書

松尾宣武、濱中喜代 編 新体系看護学全書 メヂカルフレンド社 2012  
小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 第4版  
山元恵子 監修 写真でわかる小児看護技術 改訂第2版 インターメディカ 2011

オリエンテーションおよび講義中に資料を配布し紹介する

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012. 9. 26	水	10:35～12:00	日沼 千尋	小児看護学の理念・小児看護の概要
2	10. 11	木	14:35～16:00	奥野 順子他*	小児保健 現代の子どもの健康をめぐる課題
3	10. 12	金	9:00～10:25	日沼 千尋	小児保健 現代の子どもの健康に関する施策
4	10. 15	月	13:00～14:25	関森 みゆき	成長・発達とは
5	10. 18	木	14:35～16:00	関森 みゆき	子どもの成長発達と生活行動 1 乳児
6	10. 22	月	13:00～14:25	奥野 順子	子どもの成長発達と生活行動 2 幼児
7	10. 24	水	10:35～12:00	日沼 千尋	子どもの成長発達と生活行動 3 小学生・中学生
8	11. 26	月	9:00～10:25	日沼 千尋	試験

\* 奥野順子、関森みゆき、青木雅子、櫻田章子、日沼千尋

〔精神看護学概論〕

科目責任者 田中美恵子

科目担当者 田中美恵子、小山 達也、嵐 弘美、  
異儀田はづき、飯塚あつ子、花田佳重

目標

主に人間の精神の構造と機能、精神科医療に関する法制度について理解することにより、精神の健康の保持増進、精神の健康障害の予防、および一旦精神障害を来たした人々に対する看護の基礎となる理論や知識を学習する。

到達目標

1. 精神看護の目的、機能、倫理について説明できる。
2. 精神障害者へのセルフケア看護について説明できる。
3. 心の構造と働き、および生物的観点から心を理解し、心理・社会的な発達について説明できる。
4. 職場における精神保健の目的と内容について説明できる。
5. 精神科医療や精神看護の歴史を理解し、関連法規ならびに制度について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 精神看護学とは	1. 精神看護の目的と機能	1) 精神看護の目的・機能 2) 精神看護における倫理 3) 精神障害者へのセルフケア看護
II. 精神保健論	1. 心の理解 2. 心の成長発達 3. 精神保健と社会	1) 心の構造と働き 2) ストレス・脆弱性モデル 1) ライフステージと心身の発達 2) 心理・社会的発達と危機 1) 職場における精神保健
III. 歴史および法と制度	歴史および法と制度の理解	1) 精神科医療と看護の歴史 2) 法と制度の動向と現状

評価方法

出席状況、学習態度、課題提出等により総合的に評価する

教科書

田中美恵子 編著 「精神看護学」 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2001

参考図書

講義中に適宜紹介する

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.11.14	水	10:35~12:00	田中美恵子	精神看護の目的と機能
2	11.15	木	16:10~17:35	嵐 弘美	精神障害者へのセルフケアの看護
3	11.16	金	10:35~12:00	嵐 弘美	心の構造と働き
4	11.16	金	13:00~14:25	異儀田はづき	心の成長発達
5	11.19	月	13:00~14:25	異儀田はづき	ストレス・脆弱性モデル
6	11.19	月	14:35~16:00	小山 達也	歴史および法と制度の理解1
7	11.22	木	9:00~10:25	小山 達也	歴史および法と制度の理解2
8	11.22	木	10:35~12:00	花田佳重	職場における精神保健

[母性看護学・概論]

科目責任者 小川久貴子  
科目担当者 小川久貴子、宮内清子、井上友里

目的

女性のライフステージを通した母性看護学が担う責務・活動内容と今後の課題を理解し、ヘルスケアについて学習する。

到達目標

1. 母性看護学の特性および展望を述べることができる。
2. 現代社会における女性の取り巻く事象を多角的に解釈できる。
3. 女性のライフステージにおけるホルモンの変化と身体的変化について述べることができる。
4. 更年期・老年期の女性の特性とヘルスケアについて述べることができる。
5. 思春期における女性の特性とヘルスケアについて述べることができる。
6. 女性のライフステージにおける家族計画の特性と支援について述べることができる。

大項目	中項目	小項目
I.母性看護学概論	1. 母性看護学の特性および展望	1) 母性とは 2) 母性看護学の意義・役割 3) 母性看護学の課題 4) 女性を取り巻く社会 5) 世界の人口動態と母子保健
II.女性のライフステージ	1. 女性のホルモン変化と身体的変化 2. 更年期・老年期 3. 思春期 4. 家族計画	1) 女性の生涯各期におけるホルモンの変化と身体の変化 1) 更年期・老年期とは 2) 更年期・老年期の特性 3) 更年期・老年期の発達課題と健康教育 1) 思春期とは 2) 思春期の特性 3) 思春期の発達課題と健康教育 1) 家族計画の理念 2) 家族計画の特性と支援 3) 受胎調節法の種類と具体的方法

評価方法

出席状況、試験結果にて評価を行う

教科書

久米美代子、飯島治之 編著 ウーマンズヘルス  
「女性のライフステージとヘルスケア」 医歯薬出版 2011

森恵美 他編著 系統看護学講座 専門分野II 母性看護学概論 医学書院 2012

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.9.12	水	10:35～12:00	小川久貴子	母性(女性)看護学の概念および特徴
2	9.14	金	10:35～12:00	宮内 清子	世界の人口動態と母子保健
3	9.18	火	10:35～12:00	小川久貴子	女性の生涯各期におけるホルモンと身体の変化
4	9.20	木	14:35～16:00	宮内 清子	更年期・老年期の健康問題と健康教育
5	9.21	金	10:35～12:00	小川久貴子	思春期の健康問題と健康教育
6	9.25	火	13:00～14:25	井上 友里	家族計画
7	9.25	火	14:35～16:00	井上 友里	家族計画
8	10.2	火	13:00～14:25	小川久貴子	試験

## フィジカルアセスメント

### [フィジカルアセスメント]

科目責任者 下平唯子  
 科目担当者 下平唯子、原三紀子、益田美津美  
 原美鈴、三浦美奈子、小林礼実、  
 松岡志帆、荒井純子、尾崎恭子

講義概要：フィジカルアセスメントの基本技術を学び、看護実践への適用を理解する。

#### 到達目標

1. フィジカルアセスメントの概念、目的、および基本技術を説明できる。
2. インタビューイングの目的、方法、および内容を説明できる。
3. フィジカルアセスメントを実施する上でふさわしいマナー（看護師の服装、身だしなみ、および対象者への配慮など）を理解し、行動できる。
4. 脳神経系、呼吸器系、循環器系、感覚器・筋骨格系のアセスメントに必要な項目、目的、方法、留意点、および記述内容を説明することができる。
5. フィジカルアセスメントを行った結果から、正常または正常からの逸脱を判断し説明することができる。
6. 上記5の基本的なフィジカルアセスメントについて、対象者に目的・方法を説明し、実施し、それらの結果を判断し、対象者に伝え、記述することができる。

大項目	中項目	小項目
I. フィジカルアセスメント概論	1. フィジカルアセスメントの概要を理解する 2. フィジカルアセスメントに必要な技術の理解	1) フィジカルアセスメントの基本とインタビュー 2) 脳神経系のアセスメント 3) 呼吸器系のアセスメント 4) 循環器系のアセスメント 5) 感覚器・筋骨格系のアセスメント 6) 消化器系のアセスメント
II. フィジカルアセスメントの実際	1. フィジカルアセスメントの基本技術の習得 2. フィジカルアセスメントの結果を正確に判断する	1) 脳神経系のアセスメント演習 2) 呼吸器系のアセスメント演習 3) 循環器系のアセスメント演習 4) 感覚器・筋骨格系のアセスメント演習 5) 消化器系のアセスメント演習 6) インタビューイングと全身のアセスメント演習

成績評価の方法：演習課題および試験結果により総合的に評価する。

#### 教科書

特に指定せず、隨時必要な資料を配布する。

#### 参考図書

日野原重明 編	フィジカルアセスメント	ナースに必要な診断の知識と技術	医学書院	2006
山内豊明、	フィジカルアセスメントガイドブック	目と手でここまでわかる	医学書院	2005
原一之	人体スペシャル	脳の地図帳	講談社	2005
氏家幸子 監	成人看護学 G	成人看護技術 I フィジカルアセスメント第3版	廣川書店	2005

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.5.31	木	9:00～10:25	原 三紀子	フィジカルアセスメント概論・インタビューイング
2	6.4	月	13:00～14:25	原 美鈴	消化器系のアセスメント
3	6.4	月	14:35～16:00	原 三紀子	感覚器系・筋・骨格系のアセスメント
4	6.7	木	10:35～12:00	原 三紀子	脳神経系のアセスメント
5	6.7	木	13:00～14:25	松岡 志帆	呼吸器系のアセスメント
6	6.7	木	14:35～16:00	松岡 志帆	循環器系のアセスメント
7	6.14	木	9:00～10:25	下平 唯子他*	フィジカルアセスメント演習1（脳神経・消化器）
8	6.14	木	10:35～12:00	下平 唯子他*	フィジカルアセスメント演習2（脳神経・消化器）
9	6.21	木	13:00～14:25	下平 唯子他*	フィジカルアセスメント演習3（感覚器・呼吸・循環）
10	6.21	木	14:35～16:00	下平 唯子他*	フィジカルアセスメント演習4（感覚器・呼吸・循環）
11	6.28	木	13:00～14:25	下平 唯子他*	フィジカルアセスメント演習5（統合）
12	6.28	木	14:35～16:00	下平 唯子他*	フィジカルアセスメント演習6（統合）
13	6.29	金	14:35～16:00	下平 唯子他*	フィジカルアセスメントまとめ
14	6.29	金	16:10～17:35	下平 唯子他*	フィジカルアセスメントまとめ
15	7.4	水	9:00～10:25	下平 唯子	試験

\*下平唯子、原三紀子、益田美津美、原美鈴、三浦美奈子、小林礼実、松岡志帆、荒井純子、尾崎恭子担当



人間性を育む

## 〔英語 I – 2 チャレンジ・クラス〕

科目責任者 木村みどり  
科目担当者 木村みどり

## 【目的】

英語 I – 2 チャレンジ・クラスは、比較的高い英語能力を有する学生、また、英語能力を磨きたいという学習意欲の高い学生のために設けられたクラスである。Alverno, HPU の学生が本学訪問の際、中心となって交流できるようなコミュニケーション能力を養成する。また、大学院への進学、海外留学、海外での就職などを念頭に入れ、より高度なレベルでの英語と専門分野との融合を目指す。

## 【到達目標】

1. 看護の場における基本的な英会話を習得する。
2. 看護について書かれた簡単な英語説明文を理解できる。
3. 看護現場で使用される基本的医学用語を英語で理解、使用できる。
4. 日本文化を紹介したり、簡単な看護のテーマについて英語で話し合える。
5. 英語によるプレゼンテーション・スキルを習得する。

## 【評価】

看護英語統一テスト、期末テスト、課題提出、プレゼンテーション、出席、の総合で行う。

大項目	中項目	小項目
I . 臨床看護英会話	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者と看護師の英語による基本的な受け答え</li> <li>2. 基本的医学看護英語の習得</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基本的な挨拶</li> <li>2) ヒストリーテイキング</li> <li>3) 入院手続き</li> <li>4) 病院内の日課、規則</li> <li>5) 痛みの表現</li> <li>6) 検査</li> <li>7) 与薬</li> <li>1) 身体の名称</li> <li>2) 内臓器官の名称</li> <li>3) 科の名称</li> <li>4) 病気の名称</li> </ol>
II . 看護分野の英文講読	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療、看護という専門分野の英語に親しむ</li> <li>2. ナースとしてのあり方、患者への接し方、様々な患者の受けとめ方を事例から学ぶ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護・医療の専門用語を身につける</li> <li>2) 英文講読に必要な基本的な英語力を高め(イディオム、構文、基本的文法事項)</li> <li>1) 日常の医療の現場で起きている問題(小児、老人、障害者、末期患者)について知る</li> <li>2) 様々な種類の看護師の仕事を、日本・海外の事例から学ぶ</li> </ol>
III. 専門領域に関心を持つ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の関心のある研究テーマを見つける</li> <li>2. 英語による研究発表のスキルを身につける</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) インターネットを利用して発表テーマに関する情報を収集する</li> <li>2) パワーポイントの使用方法をマスターする。</li> <li>3) 資料の整理、発表構成方法を学ぶ</li> <li>4) プrezentationに必要な英語表現を身につける</li> </ol>

英語 I – 2 (A (チャレンジ) クラス)

教科書

知念クリスティーン	「クリスティーンのやさしい看護英会話」	医学書院	1995
迫和子、ジェーン・ハーランド	「ロッタとハナの楽しい基本看護英語」	医学書院	2011

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.17	火	10:35~12:00	木村みどり	Alverno/HPUとの授業準備
2	4.24	火	10:35~12:00	木村みどり	Alverno/HPUとの授業準備
3	5.8	火	10:35~12:00	木村みどり	Alverno/HPUとの授業準備
4	5.15	火	10:35~12:00	木村みどり	Alverno/HPUとの授業準備
5	5.22	火	9:00~10:25	木村みどり	Alverno/HPU 学生との授業(日本文化紹介)
6	5.22	火	10:35~12:00	木村みどり	Alverno/HPU 学生との授業(日本語指導)
7	5.29	火	9:00~10:25	木村みどり	HPU先生の講義
8	5.29	火	10:35~12:00	木村みどり	HPU先生の講義
9	6.5	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 1,2,3 看護英会話の基本
10	6.12	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 1 Lotta & Hanna
11	6.19	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 4: What department do you want to visit?
12	6.26	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 5: What are your symptoms?
13	7.3	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 2: Visiting the doctor
14	7.10	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 6: Where is the X-ray department?
15	10.2	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 3: Our busy hospitals
16	10.9	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 7: Where does it hurt?
17	10.16	火	9:00~10:25	木村みどり	Chapter 4: A New Family Member
18	10.16	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 8: Have you ever had any serious illnesses?
19	10.23	火	9:00~10:25	木村みどり	Chapter 5: My Daughter's Arrival
20	10.23	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 9: Take one tablet,four times a day
21	10.30	火	9:00~10:25	木村みどり	Chapter 6: Grandpa's Birthday
22	10.30	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 10: Let me make an appointment for your test.
23	11.6	火	9:00~10:25	木村みどり	Chapter 7: Grandma's House
24	11.6	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 11: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.
25	11.13	火	9:00~10:25	木村みどり	Chapter 8: Living Independently
26	11.13	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 9: Everyone is different
27	11.20	火	9:00~10:25	木村みどり	Chapter 10: Hospital Training Begins
28	11.20	火	10:35~12:00	木村みどり	Review
29	11.27	火	9:00~10:25	木村みどり	Test単語
30	11.27	火	10:35~12:00	木村みどり	Test会話

[英語 I – 2]

科目責任者 木村みどり  
科目担当者 鈴木 光代

【目的】

基礎英語力の定着化、そして、看護という専門分野の英語を磨くこと。講読と会話の両方を一つの授業の中で行うことによって、それらの 4 技能が自然な形で融合され、さらに英語を通して専門分野の仕事に関心が高められることが期待される。

【到達目標】

1. 看護英会話として、平易かつ必須の日常会話の場面や表現に慣れる。
2. 基本的な医療用語の習得。
3. 看護・医療場面のさまざまなエピソードを扱った英文を読むことで、英文読解の基本を確認しながら、専門用語を含む英文および事例に慣れる。

大項目	中項目	小項目
I. 臨床看護英会話	<p>1. 患者と看護師の英語による基本的な受け答え</p> <p>2. 基本的医学看護英語の習得</p>	<p>1) 基本的な挨拶</p> <p>2) ヒストリーテイキング</p> <p>3) 入院手続き</p> <p>4) 病院内での日課、規則</p> <p>5) 痛みの表現</p> <p>6) 検査</p> <p>7) 与薬</p> <p>1) 身体の名称</p> <p>2) 内臓器官の名称</p> <p>3) 科の名称</p> <p>4) 病気の名称</p>
II. 看護分野の英文講読	<p>1. 医療、看護という専門分野の英語に親しむ</p> <p>2. ナースとしてのあり方、患者への接し方、様々な患者の受けとめ方を事例から学ぶ</p>	<p>1) 看護・医療の専門用語を身につける</p> <p>2) 英文講読に必要な基本的な英語力を高める（イディオム、構文、基本的文法事項）</p> <p>1) 日常の医療の現場で起きている問題（小児、老人、障害者、末期患者）について知る</p> <p>2) 様々な種類の看護師の仕事を、日本・海外の事例から学ぶ</p>

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

知念クリスティーン 「クリスティーンのやさしい看護英会話」 医学書院 1995

迫和子・  
ジェーンハーランド 「ロッタとハナの楽しい基本看護英語」 医学書院 2011

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.17	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Introduction: Unit 1 & 2 (テキストA)
2	4.24	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 1: Lotta & Hanna (テキストB)
3	5.8	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Unit 3 (テキストA): 数字の聞きとり
4	5.15	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 2 :Visiting the Doctor (テキストB)
5	5.22	火	9:00~10:25	鈴木	光代	Unit 4 (テキストA) : 診療科名 (テキストBのp.51も参照)
6	5.22	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Unit 5 (テキストA) : 診療科の場所を教える (テキストB p.50)
7	5.29	火	9:00~10:25	鈴木	光代	HPU先生の講義
8	5.29	火	10:35~12:00	鈴木	光代	HPU先生の講義
9	6.5	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Unit 6. What are your symptoms? (テキストA)
10	6.12	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 3: Our Busy Hospital (テキストB)
11	6.19	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 4: A New Family (テキストB)
12	6.26	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 5: My Daughter's Arrival (テキストB)
13	7.3	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 6: Granpa's Birthday (テキストB) 診療科名
14	7.10	火	10:35~12:00	鈴木	光代	中間テスト
15	10.2	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Unit 7: Where does it hurt? (テキストA)
16	10.9	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 7: Granma's House (テキストB)
17	10.16	火	9:00~10:25	鈴木	光代	Unit 8: 病歴、病名 (テキストA)
18	10.16	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 9: Everyone is Different (病歴) (テキストB)
19	10.23	火	9:00~10:25	鈴木	光代	Unit 9: 薬の服用 (テキストA)
20	10.23	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 11: Tough, but Rewarding (テキストB)
21	10.30	火	9:00~10:25	鈴木	光代	Review: ここまで復習
22	10.30	火	10:35~12:00	鈴木	光代	語彙のチェック/ Let's enjoy ER Drama!
23	11.6	火	9:00~10:25	鈴木	光代	Unit 10: 診察の予約 (テキストA)
24	11.6	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 8: Living Independently (テキストB)
25	11.13	火	9:00~10:25	鈴木	光代	Unit 11: 手術に関する表現 (テキストA)
26	11.13	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Chapter 10: Hospital Training Begins (テキストB)
27	11.20	火	9:00~10:25	鈴木	光代	Unit 12. How are you feeling today? (テキストA)
28	11.20	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Review: ここまで復習, 語彙のチェック
29	11.27	火	9:00~10:25	鈴木	光代	Final Exam
30	11.27	火	10:35~12:00	鈴木	光代	Let's enjoy screen English!
			テキスト A	クリスティーンのやさしい看護英会話		
			テキスト B	ロッタとハナの楽しい基本英語		

[英語 I – 2]

科目責任者 木村みどり  
科目担当者 設楽 靖子

【目的】

基礎英語力の定着化、そして、看護という専門分野の英語を磨くこと。講読と会話の両方を一つの授業の中で行うことによって、英語使用の 4 技能が自然な形で融合され、さらに英語を通して専門分野の仕事に关心が高められることが期待される。

【到達目標】

1. 看護英会話として、平易かつ必須の日常会話の場面や表現に慣れる。
2. 基本的な医療用語の習得。
3. 看護・医療場面のさまざまなエピソードを扱った英文を読むことで、英文読解の基本を確認しながら、専門用語を含む英文および事例に慣れる。

大項目	中項目	小項目
I . 臨床看護英会話	<p>1. 患者と看護師の英語による基本的な受け答え</p> <p>2. 基本的医学看護英語の習得</p>	<p>1) 基本的な挨拶</p> <p>2) ヒストリーテイキング</p> <p>3) 入院手続き</p> <p>4) 病院内での日課、規則</p> <p>5) 痛みの表現</p> <p>6) 検査</p> <p>7) 与薬</p> <p>1) 身体の名称</p> <p>2) 内臓器官の名称</p> <p>3) 科の名称</p> <p>4) 病気の名称</p>
II . 看護分野の英文講読	<p>1. 医療、看護という専門分野の英語に親しむ</p> <p>2. ナースとしてのあり方、患者への接し方、様々な患者の受けとめ方を事例から学ぶ</p>	<p>1) 看護・医療の専門用語を身につける</p> <p>2) 英文講読に必要な基本的な英語力を高める（イディオム、構文、基本的文法事項）</p> <p>1) 日常の医療の現場で起きている問題（小児、老人、障害者、末期患者）について知る</p> <p>2) 様々な種類の看護師の仕事を、日本・海外の事例から学ぶ</p>

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

知念クリスティーン「クリスティーンのやさしい看護英会話」  
迫和子、ジェーン・ハーランド「ロッタとハナの楽しい基本看護英語」

医学書院 1995  
医学書院 2011

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.17	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Introduction / Unit 2 Where are you from?
2	4.24	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Chapter 1. Lotta & Hana
3	5.8	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Unit 1. Please speak more slowly.
4	5.15	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 2. Visiting the Doctor
5	5.22	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Unit 3. Could you tell me your address, please?
6	5.22	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 3. Our Busy Hospitals
7	5.29	火	9:00~10:25	設楽 靖子	lecture by Hawaii Pacific University
8	5.29	火	10:35~12:00	設楽 靖子	lecture by Hawaii Pacific University
9	6.5	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Unit 4. What department do you want to visit?
10	6.12	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 4. A New Family Member
11	6.19	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Unit 5. Where is the X-ray department?
12	6.26	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 5. My Daughter's Arrival
13	7.3	火	10:35~12:00	設楽 靖子	review: Units 1-5
14	7.10	火	10:35~12:00	設楽 靖子	review: Chapters 1-5
15	10.2	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Unit 6. Where are your symptoms?
16	10.9	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 6. Grandpa's Birthday
17	10.16	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Unit 7. Where does it hurt?
18	10.16	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 7. Grandma's House
19	10.23	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Unit 8. Have you ever had any serious illnesses?
20	10.23	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 8. Living Independently
21	10.30	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Unit 9. Take one tablet, four times a day
22	10.30	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 9 Everyone is Different
23	11.6	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Unit 10. Let me make an appointment for your test.
24	11.6	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. Hospital Training Begins
25	11.13	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Unit 11. Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.
26	11.13	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 11. Tough, but Rewarding
27	11.20	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Unit 12. How are you feeling today?
28	11.20	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Ch. 12. In the Future
29	11.27	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Final Exam
30	11.27	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Final Exam

## 英語IV（ハワイ大学）

### [英語IV] (選択科目) : ハワイ大学

科目責任者：木村みどり  
科目担当者：木村みどり

#### 【目的】

実体験を通して、英語によるコミュニケーション、ハワイ州およびアメリカの医療、歴史、文化、伝統、社会状況を学ぶ

#### 【到達目標】

1. 簡単な会話を英語で行うことができる。
2. 英語で自己紹介や日本の紹介ができる。
3. ハワイ・パシフィック大学 (HPU) での講義を、できるだけ英語で理解する。
4. HPU での講義でわからない点を、英語で質問することができる。

大項目	中項目	小項目
I. スピーキング	1. 海外生活のための英会話  2. 英語によるスピーチ	1) 飛行場や税関における英会話 2) ホテルにおける英会話 3) 様々な交通手段を利用するときの英会話 4) 買い物をするときの英会話  1) 自分について話す 2) 家族について話す 3) 日本について話す 4) 東京女子医科大学について話す
II. リスニング	3. 必要な情報を英語で聞き取る	1) 日本人移民 2) アメリカの医療保険制度 3) 現代日本人の生活

評価方法：研修前後の日本での授業における発表、ハワイ大学での英語による発表 2回以上、  
ハワイでのインタビュー(6人以上)の総合

#### 教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

#### 参考資料

佐藤 公雄 編著 First Time Abroad 「初めての海外旅行」 成美堂 1997  
その他、必要に応じてプリントを配布する

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.7.17	火	9:00~10:25	木村みどり	オリエンテーション
2	7.17	火	10:35~12:00	木村みどり	自己紹介の練習
3	7.17	火	13:00~14:25	木村みどり	インタビューの練習
4	7.18	水	9:00~10:25	木村みどり	ハワイの歴史について学ぶ
5	7.18	水	10:35~12:00	木村みどり	日系移民・日米戦争について学ぶ
6	7.18	水	13:00~14:25	木村みどり	各グループによるプレゼンの練習(1)
7	7.19	木	9:00~10:25	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(2)
8	7.19	木	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(3)
9	7.19	木	13:00~14:25	木村みどり	各グループによるプレゼンの練習(2)
10	7.20	金	9:00~10:25	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(4)
11	7.20	金	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(5)
12	7.20	金	13:00~14:25	木村みどり	総復習
13	7.21	土	10:35~12:00	木村みどり	研修直前オリエンテーション(壮行会13:00~14:00)
14	7.23	月			出発
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					HPU大学にて研修
22					英語によるグループ・プレゼンテーション
23					
24					
25					
26					
27					
28	7.30	月			帰国
29	9.29	土	9:00~10:25	木村みどり	帰国報告まとめ
30	9.29	土	10:35~12:00	木村みどり	帰国報告会

## 英語IV（アルバーノ大学）

### [英語IV] (選択科目) : アルバーノ大学

科目責任者：木村みどり

#### 【目的】

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校であるアルバーノ大学の授業や看護実習に参加し、国際交流を図る。

#### 【到達目標】

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢、文化について英語で話せる。

大項目	中項目	小項目
I. 医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	1. アルバーノ大学での授業を理解する  2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう	1) 必要な情報を英語で聞き取る 2) 自分の考えを英語で発表する 3) 日本の看護事情について話す 4) 医療トピックについてディスカッションする  1) Medical Terms 増強 2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ
II. 国際人としての視野を広げる	1. アルバーノ大学の学生と交流する	1) 日常英会話の実践 2) アルバーノ・カレッジや外国からの学生と交流を持ち、意見を交換する。

評価方法：研修前の日本での授業におけるテスト、アルバーノ大学よりの報告書、帰国報告プレゼンテーションの総合

#### 教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

#### 参考資料

行時 潔／Daniel Droukis	Experience an English Program! 語学留学に行こう	松柏社	2006
Steven Widdows, Peter Voller	CHATTERBOX	南雲堂	2006

その他、必要に応じて、プリント配布

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	6月中			木村みどり	研修参加資料準備
2	2012.7.21	土	10:35~12:00	木村みどり	スピーチの準備 (壮行会13:00~14:00)
3	8.2	木	10:35~12:00	木村みどり	Health Assessment-Community, Family, Individual
4	8.6	月	10:35~12:00	木村みどり	Nursing Theory of cutely & chronically Ill Populations
5	8.8	水	10:35~12:00	木村みどり	Physiological Mechanisms & Disease
6	8.9	木	10:35~12:00	木村みどり	Overview of Alverno College
7	8.10	金	10:35~12:00	木村みどり	Vulnerable people
8	8.17	金	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習
9	8.20	月	9:00~10:25	木村みどり	Nutrition in wellness
10	8.20	月	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習
11	8.21	火	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習
12	8.21	火	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習
13	8.22	水	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習
14	8.22	水	10:35~12:00	木村みどり	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
15				木村みどり	
16				木村みどり	
17				木村みどり	
18				木村みどり	
19				木村みどり	アルバーノ大学にて授業および実習
20				木村みどり	
21				木村みどり	
22				木村みどり	
23				木村みどり	
24				木村みどり	
25				木村みどり	
26				木村みどり	
27				木村みどり	
28				木村みどり	
29	9.29	土	9:00~10:25	木村みどり	帰国報告まとめ
30	9.29	土	10:35~12:00	木村みどり	帰国報告会

[英語IV] (選択科目) : 梨花女子大学

科目責任者: 木村みどり

【目的】

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校である梨花女子大学(韓国)の授業や看護実習に参加し、看護の学びを深めながら国際交流を図る。

【到達目標】

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢、文化について英語で話せる。

大項目	中項目	小項目
I. 医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 梨花女子大学での授業を理解する</li><li>2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1) 必要な情報を英語で聞き取る</li><li>2) 自分の考えを英語で発表する</li><li>3) 日本の看護事情について話す</li><li>4) 医療トピックについてディスカッションする</li></ol> <ol style="list-style-type: none"><li>1) Medical Terms 増強</li><li>2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ</li></ol>
II. 国際人としての視野を広げる	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 梨花女子大学の学生と交流する</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1) 日常英会話の実践</li><li>2) 梨花女子大学の学生と交流を持ち、意見を交換する。</li></ol>

評価方法: 日本での事前授業における参加態度、帰国報告プレゼンテーションの総合

教科書  
なし

参考資料  
必要に応じて、プリント配布

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2013. 2.13	水	9:00～10:25	木村みどり	Part 1: Introduction to health care
2	2.13	水	10:35～12:00	木村みどり	Health Assessment-Community, Family, Individual
3	2.18	月	13:00～14:25	木村みどり	Part 2: Nursing skills and professions
4	2.18	月	14:35～16:00	木村みどり	Nursing Theory of acutely & chronically Ill Populations
5	2.20	水	9:00～10:25	木村みどり	Part 3: In-hospital setting
6	2.20	水	10:35～12:00	木村みどり	Physiological Mechanisms & Disease
7	2.22	金	10:35～12:00	木村みどり	Part 4: Community setting
8	2.22	金	13:00～14:25	木村みどり	Vulnerable people
9	2.25	月	10:35～12:00	木村みどり	Part 5: The essence of nursing
10	2.25	月	13:00～14:25	木村みどり	Leadership in nursing
11	2.26	火	10:35～12:00	木村みどり	Part 6: The art of nursing
12	2.26	火	13:00～14:25	木村みどり	Part 7: Nursing practice
13	2.27	水	10:35～12:00	木村みどり	Part 8: Wellness
14	2.27	水	13:00～14:25	木村みどり	Nursing in Today's World
15	2.28	木	10:35～12:00	木村みどり	Nursing Informatics
16	2.28	木	13:00～14:25	木村みどり	総復習
17				木村みどり	
18				木村みどり	
19				木村みどり	
20				木村みどり	
21				木村みどり	梨花女子大学にて授業
22				木村みどり	
23				木村みどり	
24				木村みどり	
25				木村みどり	
26				木村みどり	
27				木村みどり	
28				木村みどり	
29	3.13	水	10:35～12:00	木村みどり	帰国報告まとめ
30	3.13	水	13:00～14:25	木村みどり	帰国報告会

## フランス語 I

### 〔フランス語 I〕(選択科目)

科目責任者 小出石敦子

#### 目的

コミュニケーションの実践に役立つフランス語を身につけることを目標とする。日常生活のさまざまな場面で使われるフランス語を、「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」訓練を通して、総合的な力をつけていくよう学習する。そのため会話練習、CD・DVD教材等を使った練習、手紙や物語などの短い文章の読み・書きを授業に盛り込み、またフランス語の確実な理解を助けるために、文法の説明も適宜行い、小テストや課題などで理解度を確かめていく予定である。言語は日々の繰り返しによって身につくものなので、学生諸君は、意欲的に授業に参加し、必ず復習を行うよう心がけることが肝要となる。

#### 到達目標

自己紹介ができるようになること。

自分以外の人物について紹介できるようになること。

挨拶や注文等、簡単な会話ができるようになること。

大項目	中項目	小項目
I. フランス語の発音	1. 発音の原則 2. 正確な発音	1) 母音、子音、鼻母音 2) 発音と綴り字の関係 1) リエゾン、アンシェヌマン、エリジョン
II. フランス語の基本文法	1. 品詞と文の構造	1) 名詞 2) 冠詞 3) 動詞とその活用 4) 形容詞、副詞 5) 疑問詞 6) 代名詞
III. フランス語での基本的なコミュニケーション	1. 自己紹介 2. 表現 3. 伝達	1) 国籍、職業、年齢、身分 2) 挨拶 1) 意思を伝える(好悪、感情、目的) 1) 実用的な場面での会話(食事、買い物) 2) 家族、友人、知人を紹介する

成績評価の方法：出席日数、授業参加度、試験結果、課題提出などにより総合的に評価する。

#### 教科書

田辺保子他

『やさしいサリュ—サリュ!簡略版』

駿河台出版社

2011

参考図書 \*仏和辞典は必ず用意すること。電子辞書でも以下のいずれかが入っているものを推薦する。

ディコ仏和辞典

白水社

ロワイヤル仏和中辞典

旺文社

プチ・ロワイヤル仏和辞典

旺文社

新スタンダード仏和辞典

大修館

クラウン仏和辞典

三省堂

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.18	水	13:00～14:25	小出石敦子	フランス文化とフランス語に親しもう
2	4.18	水	14:35～16:00	小出石敦子	発音と綴り、日本語になっているフランス語、挨拶など自己紹介をする(名前の言い方)
3	4.25	水	13:00～14:25	小出石敦子	自己紹介をする(国籍、職業)、主語人称代名詞
5	5.9	水	13:00～14:25	小出石敦子	動詞être、名詞・形容詞の性と数
6	5.9	水	14:35～16:00	小出石敦子	話せる言語を言う、住んでいる所を言う
7	5.23	水	13:00～14:25	小出石敦子	好みを言う、第1群規則動詞、定冠詞
8	5.23	水	14:35～16:00	小出石敦子	大学での専攻を言う、否定文
9	6.13	水	13:00～14:25	小出石敦子	これまでのまとめ
10	6.13	水	14:35～16:00	小出石敦子	映画を通してフランス文化に触れる
11	6.27	水	13:00～14:25	小出石敦子	持ち物を言う動詞avoir、名詞の性と数、不定冠詞
12	6.27	水	14:35～16:00	小出石敦子	年齢を言う、兄弟姉妹について語る
13	7.4	水	13:00～14:25	小出石敦子	食事について
14	7.4	水	14:35～16:00	小出石敦子	部分冠詞
15	7.11	水	13:00～14:25	小出石敦子	中間試験（筆記）
16	7.11	水	14:35～16:00	小出石敦子	中間試験（口頭）
17	9.19	水	13:00～14:25	小出石敦子	「何を、どれくらい」疑問の表現
18	9.19	水	14:35～16:00	小出石敦子	家族について語る、所有形容詞
19	10.3	水	13:00～14:25	小出石敦子	人・ものの描写、形容詞の性数変化
20	10.3	水	14:35～16:00	小出石敦子	「誰、どうやって」疑問の表現
21	10.24	水	13:00～14:25	小出石敦子	行く・来る、国・場所の表現
22	10.24	水	14:35～16:00	小出石敦子	前置詞+定冠詞の縮約形
23	10.31	水	13:00～14:25	小出石敦子	これまでのまとめ
24	10.31	水	14:35～16:00	小出石敦子	映画を通してフランス文化に触れる
25	11.14	水	13:00～14:25	小出石敦子	時間の言い方と数字
26	11.14	水	14:35～16:00	小出石敦子	時間の言い方と数字その2
27	11.28	水	13:00～14:25	小出石敦子	したいこと、できることを言う、助動詞
28	11.28	水	14:35～16:00	小出石敦子	したいこと、できることを言う、助動詞その2
29	12.12	水	13:00～14:25	小出石敦子	学年末試験（筆記）
30	12.12	水	14:35～16:00	小出石敦子	学年末試験（口頭）

## ドイツ語Ⅱ

### 〔ドイツ語Ⅱ〕(選択科目)

科目責任者 伊藤 満広

#### 目的

ドイツのアクチュアルな話題を取り上げながら、初級文法で得た知識を拡充する。繰り返し練習することにより、基本事項を徹底して身につける。

語学力の基礎となる発音に力を入れ、やさしい会話で積極的に意思表現できる。

#### 到達目標

ドイツ語の基本的な単語、熟語、表現を覚え簡単な会話ができるようにする。

また、辞書を使いながらある程度の文章を読む読解力を養成する。

大項目	中項目	小項目
I. 現在時制、主文構造における表現	1. 動詞の人称変化と語順 2. 基本的な格変化 3. 不規則な人称変化と助動詞構文	1) 発音 2) 規則動詞の現在人称変化／sein と haben. 1) 定冠詞と不定冠詞 2) 格の用法 3) 名詞の格変化 4) 定冠詞類と不定冠詞類 5) 名詞の複数形 6) 人称代名詞 7) 前置詞 8) 前置詞の融合形 1) 幹母音変化動詞 2) 命令形 3) 話法の助動詞 4) 未来自制 5) 非人称動詞
II. 様々な時制・態・法、および副文構造における表現	1. 動詞の三基本形、主文と副文の関係 2. 形容詞の格変化、比較変化、文と文の関係 3. 動詞の様々な表現	1) 分離動詞 2) 副文 3) 動詞の三基本形 4) 過去人称変化 5) 完了時制 6) 再帰代名詞 1) 形容詞の格変化 2) 現在分詞、過去分詞 3) 序数詞 4) 比較級 5) zu 不定詞 6) 関係代名詞 7) 指示代名詞 1) 受動態 2) 持続法

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

#### 教科書

高橋泰雄、春日正男

ドイツ語の収穫

朝日出版社

2001

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.16	月	14:35~16:00	伊藤 満広	発音
2	4.16	月	16:10~17:35	伊藤 満広	規則動詞の現在人称変化／seinとhaben
3	4.23	月	14:35~16:00	伊藤 満広	定冠詞と不定冠詞
4	4.23	月	16:10~17:35	伊藤 満広	格の用法
5	5.7	月	16:10~17:35	伊藤 満広	名詞の格変化
6	5.21	月	16:10~17:35	伊藤 満広	定冠詞類と不定冠詞類
7	6.5	火	14:35~16:00	伊藤 満広	名詞の複数形
8	6.5	火	16:10~17:35	伊藤 満広	人称代名詞
9	6.11	月	14:35~16:00	伊藤 満広	前置詞
10	6.11	月	16:10~17:35	伊藤 満広	前置詞の融合形
11	6.19	火	14:35~16:00	伊藤 満広	幹母音変化動詞
12	6.19	火	16:10~17:35	伊藤 満広	命令形
13	6.25	月	9:00~10:25	伊藤 満広	話法の助動詞
14	6.25	月	10:35~12:00	伊藤 満広	未来時制
15	7.2	月	14:35~16:00	伊藤 満広	非人称動詞
16	7.2	月	16:10~17:35	伊藤 満広	前綴りと分離動詞
17	7.10	火	13:00~14:25	伊藤 満広	副文構造
18	7.10	火	14:35~16:00	伊藤 満広	動詞の3基本形
19	9.11	火	14:35~16:00	伊藤 満広	過去人称変化
20	9.11	火	16:10~17:35	伊藤 満広	完了時制
21	9.18	火	14:35~16:00	伊藤 満広	再帰代名詞・再帰動詞
22	9.18	火	16:10~17:35	伊藤 満広	形容詞の格変化
23	10.2	火	14:35~16:00	伊藤 満広	現在分詞・過去分詞
24	10.2	火	16:10~17:35	伊藤 満広	助数詞／形容詞・副詞の比較変化
25	10.22	月	14:35~16:00	伊藤 満広	zu不定詞
26	10.22	月	16:10~17:35	伊藤 満広	関係代名詞
27	11.13	火	13:00~14:25	伊藤 満広	受動態1
28	11.13	火	14:35~16:00	伊藤 満広	受動態2
29	11.26	月	14:35~16:00	伊藤 満広	接続法
30	12.4	火	10:35~12:00	伊藤 満広	試験



各専門領域への発展

## 〔保健医療統計学〕

科目責任者 東垣内徹生

## 目的

保健医療に関する各種の統計指標や調査結果を最適に解釈、記述する手法について学ぶ。

## 到達目標

1. 保健医療に関する各種の統計指標を読む、あるいは疫学を理解するための基礎となる知識を得る.
2. 保健師の国家資格を得るために必要な統計学の知識を身につける.
3. 卒論で調査を行うために必要な統計手法について理解する.

大項目	中項目	小項目
保健医療統計学	1. 保健医療統計の概要 2. 保健医療統計学の諸指標 3. 記述統計  4. 推測統計  5. 統計手法のまとめ	1) データに対して統計手法を適用する意味 1) 指標と指標の標準化 1) 測定の尺度 2) 度数分布表とクロス集計 3) 代表値 4) 散布度 5) 分布型 6) 相関係数と散布図 1) 推測統計の考え方 2) 点推定と区間推定 3) 檢定の考え方 4) 平均値の検定 5) クロス集計表の検定 1) 統計手法の分類と整理の仕方

成績評価の方法：試験結果等により総合的に評価する。

## 教科書

福富和夫、橋本修二

保健統計・疫学 第4版

南山堂

2008

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.9.11	火	13:00～14:25	東垣内徹生	保健医療統計の概要
2	9.13	木	10:35～12:00	東垣内徹生	測定の尺度
3	9.14	金	13:00～14:25	東垣内徹生	指標
4	9.14	金	14:35～16:00	東垣内徹生	度数分布表
5	9.21	金	13:00～14:25	東垣内徹生	代表値
6	9.21	金	14:35～16:00	東垣内徹生	散布度
7	9.27	木	10:35～12:00	東垣内徹生	正規分布とその利用
8	10.11	木	13:00～14:25	東垣内徹生	信頼区間
9	10.18	木	10:35～12:00	東垣内徹生	検定の理論
10	10.18	木	13:00～14:25	東垣内徹生	平均値の検定
11	11.8	木	10:35～12:00	東垣内徹生	平均値の検定とその性質
12	11.8	木	13:00～14:25	東垣内徹生	クロス集計表の検定
13	11.15	木	10:35～12:00	東垣内徹生	相関係数と回帰分析
14	11.15	木	13:00～14:25	東垣内徹生	統計手法のまとめ
15	11.29	木	10:35～12:00	東垣内徹生	試験

## 〔情報科学演習Ⅱ〕

科目責任者：神山 暢夫  
 科目担当者：神山 暢夫、伊東 栄子

情報科学演習Ⅱは、情報科学演習Ⅰで習得したコンピュータの基礎知識に基づいて、より実践的な医療情報処理能力を獲得することを目的とする。具体的には表計算ソフトを用いてデータベースを作成し、必要とするデータの抽出、解析を行う。また、プレゼンテーションソフトを活用し、研究会、勉強会における医療情報の有効なプレゼンテーション能力を養う。

大項目	中項目	小項目
I. 看護と情報	1. 情報の管理 2. 情報の処理 3. プrezentation	1) 看護における情報収集と管理 1) データ入力 2) データ処理 3) データ解析 1) スライドの作成 2) スライドの加工 3) アニメーション

成績評価の方法：出席日数、課題提出等により総合的に評価する。

教科書  
なし

## &lt;講義スケジュール&gt;

## A グループ

1	2013. 1.24	木	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	情報科学演習Ⅱの概要
2	1.24	木	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータベースの作成
3	1.24	木	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータベースの作成
4	1.25	金	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータ解析 1
5	1.25	金	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータ解析 2
6	1.25	金	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	データのマクロ処理 1
7	1.30	水	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	スライド作成の基本操作 1
8	1.30	水	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	スライド作成の基本操作 2
9	1.30	水	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	スライドの加工と図形処理 1
10	1.31	木	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	スライドの加工と図形処理 2
11	1.31	木	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	アニメーションとプレゼンテーション 1
12	1.31	木	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	アニメーションとプレゼンテーション 2
13	2.1	金	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	課題作成
14	2.1	金	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	課題作成
15	2.1	金	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	データのマクロ処理 2、課題作成

## B グループ

1	2013.1.16	水	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	情報科学演習Ⅱの概要
2	1.16	水	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータベースの作成
3	1.16	水	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータベースの作成
4	1.17	木	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータ解析 1
5	1.17	木	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータ解析 2
6	1.17	木	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	データのマクロ処理 1
7	1.18	金	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	スライド作成の基本操作 1
8	1.18	金	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	スライド作成の基本操作 2
9	1.18	金	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	スライドの加工と図形処理 1
10	1.21	月	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	スライドの加工と図形処理 2
11	1.21	月	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	アニメーションとプレゼンテーション 1
12	1.21	月	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	アニメーションとプレゼンテーション 2
13	1.22	火	13:00～14.25	神山 暢夫 伊東 栄子	課題作成
14	1.22	火	14:35～16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	課題作成
15	1.22	火	16:10～17:35	神山 暢夫 伊東 栄子	データのマクロ処理 2、課題作成

## [キャリア発達論Ⅱ]

科目責任者：佐藤紀子

科目担当者：佐藤紀子、吉田澄恵、草柳かほる、山本夕子、見城道子、味木由佳、宮崎俊一、齋藤加代子、木林和彦、藤枝弘樹、江崎太一、柴田亮行、小田秀明、岡田みどり

### 【科目的目的】

キャリアを「生涯を通しての人の生き方」と定義し、看護学を学ぶことを選択した成人として、自己のキャリアを考え続ける基本的態度を身につける。合わせて、看護専門職者を目指すものとして、組織の中で調和しながら変革を推進し、職業を継続するための基礎的な知識を学ぶ。

**【2年次の目的】** 看護学を含めた1年間の学士課程教育の学びの過程で、自己の今までのキャリアを振り返り、将来のキャリアを意識した学びの指標を考え実行する。特に、看護専門職を目指すものとして人のライフサイクルとその発達課題を踏まえたうえで、生きること、病むこと、障害を持つこと、そして死を迎えることなどに関する自己の考えを深める。これらの目的を達成する一助として、学士課程学生同士、医学部学生との交流を通して協働についての態度をさらに養う。また、1年次に引き続き組織行動学の一部を学習する。

### 【到達目標】

1. 成人学習者である自己を認識し、学士課程2年次におけるキャリアプランを述べることができる。
2. 先人のキャリアを知ることにより、自己のキャリアを展望し述べることができる。
3. 既習科目での学習、解剖慰霊祭への参加と結びつけながら、「生きること」「考えること」について考え方述べることができる。
4. 組織行動論的理解を通じ、組織の一員としての人間の行動について説明できる。
5. 看護学部の1年生3年生との交流のための企画・実行を通して、リーダーシップ・フォローアシップについて考え、自分の意見を述べることができる。
6. 医学部2年生とのワークショップの中で、自分の考えを話すこと、他者の考えを聞くことができ、自己の考えを発展させ述べることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護職の生涯発達	1. 自己のキャリアを考える 2. 自校の特徴から考える 3. 先人のキャリアから学ぶ	1) 成人としての学習 2) 学士課程 2 年次におけるキャリア プラン 3) 【自校教育】東京女子医科大学の教育 の特徴 4) 【協働教育】吉岡弥生記念講演会への 参加
II. 死生観をはぐくむ	1. 生きることを考える 2. 死の迎え方について考え る 3. 献体—亡くなられた方か ら学ぶ	1)死生観 2)解剖慰霊祭への参加 3)死生観の表現の試み 文献講読・レポート作成・グループ 討議
III. 組織と個人	1. 組織の中の個人	1) 個人の意思決定理論 2) パワーとコンフリクト

大項目	中項目	小項目
IV. 協働の基礎	1. 学部生同士の交流 2. 医学部学生との協学	1) NHRへの参加 2) 次年度NHRの準備 1) 【協働教育】解剖慰靈祭に参加した医学部学生とのグループ討議

成績評価の方法：出席状況、課題への取り組みの態度、レポートによる。

教科書

森有正 生きることを考えること 講談社現代新書 1970

参考図書

その都度紹介

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012. 4. 17	火	13:00～14:25	佐藤 紀子他*1	ガイダンス。学士課程2年次におけるキャリアプラン
2	4. 24	火	16:10～17:35	佐藤 紀子他*1	NHRの企画・準備
3	5. 15	火	16:10～17:35	佐藤 紀子他*1	NHRの企画・準備
4	5. 22	火	13:00～14:25	佐藤 紀子他*1	吉岡弥生記念講演
5	5. 22	火	14:35～16:00	佐藤 紀子他*1	吉岡弥生記念講演
6	} 6. 1	金	9:00～17:35	佐藤 紀子他*2	} NHR(看護学部人間関係論)
7				佐藤 紀子他*2	
8	6. 12	火	13:00～14:25	吉田 澄恵	組織と個人:個人の意思決定
9	6. 22	金	10:35～12:00	佐藤 紀子	組織と個人:パワーとコンフリクト
10	9. 26	水	9:00～10:25	佐藤 紀子	生きることと考えること:死生観
11	10. 4	木	13:00～14:25	佐藤 紀子他*3	解剖慰霊祭
12	10. 4	木	14:35～16:00	佐藤 紀子他*3	解剖慰霊祭
13	10. 10	水	9:00～10:25	佐藤 紀子他*3	} 【協働教育】解剖慰霊祭ワークショップ
14	10. 10	水	10:35～12:00	佐藤 紀子他*3	
15	10. 30	火	16:10～17:35	宮崎 俊一	【自校教育】東京女子医科大学の教育の特徴

\*1 佐藤紀子、吉田澄恵、草柳かほる、山本夕子担当

\*2 佐藤紀子、吉田澄恵、見城道子、草柳かほる、山本夕子、味木由佳担当

\*3 佐藤紀子、吉田澄恵、齋藤加代子、木林和彦、藤枝弘樹、江崎太一、柴田亮行、小田秀明、岡田みどり担当



# 養護教諭一種免許課程

## [教職入門]

科目責任者 益井 明子

## 目的

「教師」という職業は、独自の専門職性を有するものである。そこで本科目では、教職を志望するものとして、教職の意義や教師の専門性、職務内容などについて理解することを目的とする。また、教師の実践の場である学校が、社会との関わりのなかでいかなる形態、構造、機能を有しているのかについて考察し、「生徒」の立場では見えなかった教師の職務に関する多面的な視座について学ぶ。

## 到達目標

教師を取り巻く状況が刻々と変化するなか、生徒の成長に大きな責任を担う存在として、教師はいかなる資質を備えるべきか、また、学び、成長し続ける存在として教師はいかにあるべきか、常に問い合わせ続ける姿勢を養うことができる。

大項目	中項目	小項目
I. 教師とは	1. 専門職としての教師	1) 教員養成課程の意義 2) 教師の職業的地位 3) 教師の専門性
II. 教師の仕事	1. 学校組織において働く教師  2. 教師の職務内容  3. 学校の社会的役割	1) 学校組織の特徴 2) 教師集団と同僚性  1) 教師の勤務実態 2) 指導とは 3) 授業をつくる教師  1) 隠れたカリキュラム 2) 学校のなかのジェンダー
III. 教師の直面する今日的課題	1. 教育問題の変化	1) 学校紛争の危機管理 2) 教師に広がる多忙感・疲労感
IV. 成長し続ける存在としての教師	1. 教師の学び	1) 反省的実践家としての教師 2) 教育改革と教職のこれから

## 成績評価の方法

期末試験、課題提出等により総合的に評価する。

## 教科書

特に指定せず、隨時必要な資料を配布する。

## 参考図書

講義内にて適宜紹介する。

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	10.20	土	9:00～10:25	益井明子	教員養成課程の意義	
2	10.20	土	10:35～12:00	益井明子	教師の職業的地位	
3	11.17	土	9:00～10:25	益井明子	教師の専門性	
4	11.17	土	10:35～12:00	益井明子	学校組織の特徴	
5	11.24	土	9:00～10:25	益井明子	教師集団と同僚性	
6	11.24	土	10:35～12:00	益井明子	教師の勤務実態	
7	12.1	土	9:00～10:25	益井明子	指導とは	
8	※一	12.1	土	10:35～12:00	益井明子	授業をつくる教師
9		12.6	木	13:00～14:25	益井明子	隠れたカリキュラム
10		12.6	木	14:35～16:00	益井明子	学校のなかのジェンダー
11		12.8	土	9:00～10:25	益井明子	学校紛争の危機管理
12		12.8	土	10:35～12:00	益井明子	教師に広がる多忙感・疲労感
13		12.15	土	9:00～10:25	益井明子	反省的実践家としての教師
14		12.15	土	10:35～12:00	益井明子	教育改革と教職のこれから
15		2013.1.12	土	10:35～12:00	益井明子	試験

※全コマ、日時の変更可能性あり。その場合は、2年生の掲示板またはポータルサイトにて周知する。

## 〔教育学概論〕

科目責任者 松嵜 英士  
 科目担当者 松嵜 英士、益井 明子

## 目的

教育現場では現在、いじめや不登校等の解決困難な問題が多数生じており、それに伴い、「保健室」の重要性が高まっている。そこで本科目では、養護教諭としてこうした問題に積極的に関わり、それを解決へと導くために必要とされる教育学の基礎知識を得ることを目的とする。

## 到達目標

教育の今日的課題について絶えず考えていく態度を養うために、教育の本質やその思想・歴史を理解できる。人間の発達に及ぼす教育の役割を理解できる。教育課程の編成や学習指導・生徒指導、学校・学級経営といった「学校」に関わる諸理論や、さらには学校制度・教育行政、社会教育・生涯教育など、教育のさまざまな領域について理解できる。

大項目	中項目	小項目
I. 教育の本質と目的	1. 教育とは何か 2. 教育の歴史と思想	1) 教育の本質とその目的 2) 教育の社会的機能 1) 近代教育制度と公教育制度の歴史 2) 日本における公教育制度の成立と展開 1) 人間の成長発達段階と教育 2) 子どもを取り巻く環境の教育機能
II. 人間の発達と教育	1. 発達に及ぼす教育の役割	
III. 教育課程	1. 教育課程の編成原理と内容	1) 教育課程編成の基準としての学習指導要領 2) 各教科、道徳および特別活動、「総合的な学習の時間」の取扱い
IV. 教育の方法	1. 教授－学習の理論と方法	1) 学習指導の意義とその類型 2) 学習指導の方法
V. 生徒指導	1. 生徒指導の内容と方法	1) 生徒指導の意義とその内容
VI. 学校経営・学級経営	1. 学校経営とは 2. 学級経営とは	1) 学校の組織と経営 1) 教授＝学習組織と経営
VII. 学校制度・教育行政	1. 学校制度改革の動向 2. 教育行政制度	1) 学校制度の発達・類型と教育の機会均等 1) 教育行政の基本的原理
VIII. 教師の役割と職務	1. 教師とは	1) 教師の資質
IX. 教育の今日的課題	1. これからの社会と教育	1) さまざまな教育改革 2) 学習社会論の登場と生涯教育

成績評価の方法：出席日数、期末試験、課題提出等により総合的に評価する。

## 教科書

特に指定せず、隨時必要な資料を配布する。

## 参考図書

田嶋 一他著

やさしい教育原理〔新版〕

有斐閣アルマ

2007

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012. 7. 17	火	10:35~12:00	益井 明子	講義の進め方、教育とは何か（教育の本質とその目的）
2	7. 17	火	13:00~14:25	益井 明子	教育の社会的機能
3	7. 20	金	9:00~10:25	益井 明子	人間の発達に及ぼす教育の役割
4	7. 20	金	10:35~12:00	益井 明子	近代教育制度と公教育制度の歴史
5	7. 23	月	9:00~10:25	益井 明子	日本における公教育制度の成立とその展開
6	7. 23	月	10:35~12:00	益井 明子	教育課程の編成原理とその内容
7	7. 24	火	9:00~10:25	松寄 英士	学習指導の意義とその類型
8	7. 24	火	10:35~12:00	松寄 英士	学習指導の方法
9	7. 25	水	9:00~10:25	松寄 英士	生徒指導の意義とその内容
10	7. 25	水	10:35~12:00	松寄 英士	生徒指導と体制作り
11	7. 27	金	9:00~10:25	益井 明子	学校経営と学級経営
12	7. 27	金	10:35~12:00	益井 明子	学校制度改革の動向
13	9. 15	土	9:00~10:25	益井 明子	教育行政の基本的原理
14	9. 15	土	10:35~12:00	益井 明子	これからの社会と教育
15	(後日周知 ※)			益井 明子	試験

※2年生の掲示板またはポータルサイトにて周知する。

## 〔教育心理学〕

科目責任者 松寄 英士

## 目的

教育現場で起こるさまざまな問題・課題に関して、心理学を中心とした実践科学の的知見に基づいて、人間を多面的に理解し、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となるよう、教育と心理との関係について理解を深めることを目指していく。

## 到達目標

教育現場において学習、理解、動機づけなどをどのように支援していくか、またその方法を理解できる。子どもの知的・社会性への発達への援助、知的能力・学力の教育評価について理解できる。発達（知的）遅滞児、障がい児、また不登校児童生徒への教育支援などの問題の考察と支援方法について理解できる。

大項目	中項目	小項目
I. 教育心理学とは	1. 教育心理学の意義・目的	1) 教育心理学の定義・課題 2) 授業過程理解の心理学的アプローチ
II. 理解と学習	1. 学習の定義・理論  2. 学習への動機づけ  3. 知識と問題解決	1) 学習の定義と理論、学習の方法  1) 学習意欲と動機づけ 2) 学びに向かう力（学習力）の構築 1) 知能、学力、知識と理解 2) 教師の学びへの働きかけ（教師力）  1) 身体的成熟と心の発達 2) 子どもの発達と人間関係
III. 発達	1. 知的発達、社会性の発達	1) 認知、パーソナリティの個人差 2) 個性を生かす授業
IV. 個性・個人差	1. 個性・個人差と授業	1) 授業理論のモデル 2) 学習活動を支援する学習環境
V. 学習指導	1. 学習活動の支援	1) 発達と教育への支援 2) さまざまな障がいをもつ児童・生徒への支援
VI. 教育支援	1. 心理的援助  2. 障がいをもつ児童・生徒への支援	1) さまざまな障がいをもつ児童・生徒の理解と支援 1) 測定・評価の意義、目的 2) 測定・評価のさまざまな方法と課題
VII. 教育における測定と評価	1. 測定と評価	

成績評価の方法：試験、課題レポート、演習への取り組み等により総合的に評価する。

## 教科書

西村純一他 編 教育心理学エッセンシャルズ ナカニシヤ出版 2006

## 参考図書

田鹿秀継	教育心理学—生きる力を身につけるために	サイエンス社	2001
大村彰道 編	教育心理学 I —発達と学習指導の心理学	東京大学出版会	1996
鹿毛雅治	教育心理学	朝倉書店	2006
青柳 肇他 編	教師のための教育心理学	福村出版	1985

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.10.10	水	14:35～16:00	松寄 英士	教育心理学の意義と目的
2	10.10	水	16:10～17:35	松寄 英士	学習の定義と理論、学習の方法
3	10.17	水	16:10～17:35	松寄 英士	学習意欲と動機づけ
4	10.23	火	16:10～17:35	松寄 英士	学びに向かう力（学習力）の構築
5	10.24	水	16:10～17:35	松寄 英士	知能、学力、知識と理解
6	10.31	水	16:10～17:35	松寄 英士	知識と問題解決への教師の働きかけ（教師力）
7	11.6	火	16:10～17:35	松寄 英士	身体的成熟と心の発達
8	11.13	火	16:10～17:35	松寄 英士	子どもの発達と人間関係
9	11.14	水	16:10～17:35	松寄 英士	子どもの個性とそれを生かす授業
10	11.20	火	16:10～17:35	松寄 英士	授業理論のモデル
11	11.28	水	10:35～12:00	松寄 英士	学習活動を支援する学習環境
12	12.4	火	16:10～17:35	松寄 英士	発達と教育への支援
13	12.7	金	13:00～14:25	松寄 英士	さまざまな障がいをもつ児童・生徒の理解と支援
14	12.7	金	14:35～16:00	松寄 英士	教育における測定と評価
15	12.14	金	13:00～14:25	松寄 英士	試験

## 〔教育課程論〕

科目責任者 角田 雅昭

## 目的

これまでの学習指導要領の変遷から、子どもの経験重視と教科内容重視というふたつの教育観の間で教育課程が揺れ動いてきたことを概観し、その背景に子ども観・「学び」観の相違が存在することを理解する。その上で、今後の教育課程のあり方について、特別支援教育や、特別活動、道徳及び健康教育も含めて総合的に検討できることを目的とする。

## 到達目標

学び観、子ども観の違いによって、教育課程が異なってくることを理解し、それらをふまえて指導計画を作成できる。

大項目	中項目	小項目
I. 教育課程とは	1. 教育課程とは	1) 教育課程の概念
II. 教育課程編成の基本的視点	1. 教育課程の歴史と現状  2. 児童・生徒の発達と教育課程  3. 特別支援教育と教育課程  4. 特別活動、道徳及び健康教育	1) 教育課程編成の意義 2) 学習指導要領の変遷 3) 現行学習指導要領の意義  1) 子ども観と教育課程 2) 学び観・発達観と教育課程 3) 教育内容「現代化」運動  1) 教育課程の構造 2) 教育課程編成の方法 3) 教科書の意義  1) 障害児教育と教育課程 2) 障害観と教育課程 3) 個別の指導計画の意義  1) 特別活動の役割 2) 道徳と理解について 3) 健康教育と教育課程
III. 教育課程編成の基本的問題	1. 教育課程の今後の動向	1) 特色ある学校づくりと教育課程 2) 多様な他者との共生
IV. これからの教育課程		

## 成績評価の方法

リアクションペーパー、レポート、演習内容、試験により総合評価する。

## 教科書

特に指定しない、必要に応じ資料を配付する。

## 参考図書

田中耕治ほか 新しい時代の教育課程（有斐閣アルマ） 有斐閣  
その他適宜紹介する。

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.7.7	土	9:00～10:25	角田 雅昭	オリエンテーション、教育課程とは何か
2	7.7	土	10:35～12:00	角田 雅昭	「学校」の変革・知識観の変化と、カリキュラムについて
3	7.17	火	14:35～16:00	角田 雅昭	教育課程の基本問題と教育改革
4	7.17	火	16:10～17:35	角田 雅昭	教育課程の歴史Ⅰ (20世紀初頭のカリキュラム改革、児童中心主義)
5	7.19	木	13:00～14:25	角田 雅昭	教育課程の歴史Ⅱ (教育内容の現代化運動とその挫折)
6	7.19	木	14:35～16:00	角田 雅昭	教育課程の歴史Ⅲ (日本の学習指導要領の変遷を中心に)
7	7.19	木	16:10～17:35	角田 雅昭	教育課程の編成原理 (教育課程編成の主体、教育内容選択基準)
8	7.21	土	10:35～12:00	角田 雅昭	子どもの発達と教育 (発達段階という考え方について)
9	7.23	月	13:00～14:25	角田 雅昭	教科書について (教科書の系統性と知識のあり方)
10	7.23	月	14:35～16:00	角田 雅昭	学習者からみた教育課程と新しい教科構成の可能性 (状況論からみた「学び」)
11	7.23	月	16:10～17:35	角田 雅昭	道徳および特別活動の内容等の取扱い (道徳および特別活動における「健康教育」の取扱いについて)
12	7.26	木	13:00～14:25	角田 雅昭	教育課程と養護教諭 (教科指導と生活指導、学校における養護教諭の役割)
13	7.26	木	14:35～16:00	角田 雅昭	特別支援教育について (支援を必要とする子どもと養護教諭の役割)
14	7.26	木	16:10～17:35	角田 雅昭	これからの教育課程 (特色ある学校づくりと教育課程)
15	7.28	土	10:35～12:00	角田 雅昭	試験

## 〔日本国憲法〕

科目責任者 西田 幸典

## 目的

日本国憲法が示す日本のあるべき姿を理解し、教員としての素養を培うことを目的とする。  
(本科目は、主として、養護教諭1種免許状を取得するための必須科目としての位置づけである。)

## 到達目標

1. 日本国憲法の基本原理を理解することができる。
2. 医療・福祉に関連する憲法問題が争われた判例について、概要・争点・私見をまとめることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 憲法とは	1. 歴史的背景 2. 明治憲法 3. 日本国憲法	1) 近代憲法、現代憲法 1) 欽定憲法など 1) 制定時の背景 2) 日本国憲法の全体像
II. 国民主権	1. 国民主権  2. 選挙 3. 象徴天皇制 4. 地方自治	1) 主権者として 2) 機関として 1) 国政選挙 1) 地位、国事行為、内閣の助言・承認 1) 地方自治の歴史、原理 2) 地方公共団体の機関と権能
III. 平和主義	1. 原理 2. 日本国憲法9条 3. 戦争放棄と自衛権 4. 國際協調	1) 自衛隊 1) 国連活動
IV. 基本的人権の保障	1. 人権尊重の原理  2. 人権の体系  3. 自由権  4. 社会権	1) 人権の歴史 2) 一般原則 3) 国民の義務 1) 類型 2) 法の下の平等 3) 新しい人権（幸福追求権） 1) 自由権の構造 2) 精神、人身、経済活動の自由 1) 社会権、受益権
V. 三権分立	1. 国会（立法権）  2. 内閣（行政権）	1) 国会の権能 2) 衆議院・参議院 3) 国會議員 4) 議院の権能 1) 議院内閣制 2) 内閣の組織、権能

## 日本国憲法

大項目	中項目	小項目
VI. 判例	3. 裁判所（司法権） 1. 最高裁判所の判例	1) 司法権の独立 2) 裁判所の組織 3) 違憲審査制 1) 医療・福祉に関する判例

成績評価の方法：レポートやグループワークの取り組みによって評価する。欠席は減点の対象とする。

### 教科書

笠井 正俊<sub>他</sub>編 岩波セレクト六法 平成24年版 岩波書店 2011

### 参考図書

伊藤正巳	憲法入門 第4版補訂版	有斐閣	2006
渋谷秀樹、赤坂正浩	憲法1 人権 第4版	有斐閣	2010
渋谷秀樹、赤坂正浩	憲法2 統治 第4版	有斐閣	2010
戸松秀典、初宿正典 編	憲法判例 第6版	有斐閣	2010
高橋和之 <sub>他</sub> 編	憲法判例百選I 第5版	有斐閣	2007
高橋和之 <sub>他</sub> 編	憲法判例百選II 第5版	有斐閣	2007
判例六法編修委員会編	模範六法 2012	三省堂	2011
判例六法編修委員会編	模範小六法 2012	三省堂	2011

## &lt;講義スケジュール&gt;

1	2012.4.28	土	9:00～10:25	西田 幸典	日本国憲法の概観
2	4.28	土	10:35～12:00	西田 幸典	憲法とは
3	5.12	土	9:00～10:25	西田 幸典	国民主権
4	5.12	土	10:35～12:00	西田 幸典	国民主権
5	5.26	土	9:00～10:25	西田 幸典	国民主権
6	5.26	土	10:35～12:00	西田 幸典	平和主義
7	6.2	土	9:00～10:25	西田 幸典	平和主義
8	6.2	土	10:35～12:00	西田 幸典	基本的人権
9	6.16	土	9:00～10:25	西田 幸典	基本的人権
10	6.16	土	10:35～12:00	西田 幸典	基本的人権
11	6.30	土	9:00～10:25	西田 幸典	基本的人権
12	6.30	土	10:35～12:00	西田 幸典	三権分立
13	7.14	土	9:00～10:25	西田 幸典	三権分立
14	7.14	土	10:35～12:00	西田 幸典	三権分立
15	7.21	土	9:00～10:25	西田 幸典	試験



## 授業担当教員一覧

## 看護学部第2学年授業担当教員

<p><b>[専任教員]</b></p> <table border="0"> <tr><td>人文社会科学系</td><td>准教授</td><td>薬理学</td></tr> <tr><td>心理学</td><td>准教授</td><td>松㟢 英士</td></tr> <tr><td>社会学</td><td>准教授</td><td>諫訪 茂樹</td></tr> <tr><td>英語</td><td>教 授</td><td>木村みどり</td></tr> <tr><td>基礎科学系</td><td>准教授</td><td></td></tr> <tr><td>生理学</td><td>准教授</td><td></td></tr> <tr><td>生物化学</td><td>准教授</td><td></td></tr> <tr><td>臨床医学系</td><td>教 授</td><td></td></tr> <tr><td>内科学</td><td>教 授</td><td>神山 暢夫</td></tr> <tr><td>外科学</td><td>准教授</td><td>伊東 栄子</td></tr> <tr><td>看護学系</td><td>教 授</td><td></td></tr> <tr><td>成人看護学</td><td>准教授</td><td></td></tr> </table> <table border="0"> <tr><td>看護職生涯発達学</td><td>授 教授</td><td>病態学・各論 I</td></tr> <tr><td>老年看護学</td><td>准 教授</td><td></td></tr> <tr><td>精神看護学</td><td>教 教授</td><td>病態学・各論 II</td></tr> <tr><td>小児看護学</td><td>准 教授</td><td></td></tr> <tr><td>母性看護学</td><td>教 教授</td><td>病態学・各論 III</td></tr> <tr><td>基礎看護学</td><td>教 教授</td><td></td></tr> <tr><td>認定看護師教育センター</td><td>教 教授</td><td>病態学・各論 IV</td></tr> </table> <table border="0"> <tr><td>キャリア発達論 II</td><td>学 教授</td><td>英語 I - 2</td></tr> <tr><td>リハビリテーション</td><td>教 教授</td><td></td></tr> </table> <table border="0"> <tr><td>生体防御機構</td><td>長 教授</td><td></td></tr> <tr><td>感染看護</td><td>教 教授</td><td></td></tr> </table>	人文社会科学系	准教授	薬理学	心理学	准教授	松㟢 英士	社会学	准教授	諫訪 茂樹	英語	教 授	木村みどり	基礎科学系	准教授		生理学	准教授		生物化学	准教授		臨床医学系	教 授		内科学	教 授	神山 暢夫	外科学	准教授	伊東 栄子	看護学系	教 授		成人看護学	准教授		看護職生涯発達学	授 教授	病態学・各論 I	老年看護学	准 教授		精神看護学	教 教授	病態学・各論 II	小児看護学	准 教授		母性看護学	教 教授	病態学・各論 III	基礎看護学	教 教授		認定看護師教育センター	教 教授	病態学・各論 IV	キャリア発達論 II	学 教授	英語 I - 2	リハビリテーション	教 教授		生体防御機構	長 教授		感染看護	教 教授		<table border="0"> <tr><td>薬理学</td><td>授 教授</td><td>丸 義朗</td></tr> <tr><td></td><td>准 教授</td><td>志賀 剛</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>平塚佐千枝</td></tr> <tr><td></td><td>助 教</td><td>塚原富士子</td></tr> <tr><td></td><td>助 教</td><td>木村 利美</td></tr> <tr><td></td><td>助 教</td><td>富田 納毅</td></tr> <tr><td></td><td>助 教</td><td>出口 敏子</td></tr> <tr><td></td><td>助 教</td><td>家口 勝昭</td></tr> <tr><td></td><td>助 教</td><td>瀧田 守親</td></tr> <tr><td></td><td>特 教</td><td>秋葉 隆</td></tr> <tr><td></td><td>教 教</td><td>谷 口敦夫</td></tr> <tr><td></td><td>准 教</td><td>中島 亜矢子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>中神 朋子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>尾形 真規子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>南家 由紀子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>清水 優子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>飯嶋 優子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>吉永 健太郎</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>須納瀬 弘</td></tr> <tr><td></td><td>教 教</td><td>高村 悅子</td></tr> <tr><td></td><td>准 教</td><td>前 昌宏</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>瀬下 明良</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>村田 泰章</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>廣澤知一郎</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>堀内友紀子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>小内友紀子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>津久井 宏行</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>坂本 明子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>大澤 真木子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>楠田 聰修</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>世川 茂真</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>永舟 真薰</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>今井 裕子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>近本 真理子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>砂原 美妃子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>清水 英雄</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>松井 耕一郎</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>高木 康男</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>牧野 正樹</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>小川 俊一</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>高木 光和</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>小川 紀子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>高木 健</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>橋本 善香</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>東谷 光代</td></tr> </table> <table border="0"> <tr><td></td><td>准 教授</td><td>山崎 康之</td></tr> <tr><td></td><td>准 教授</td><td>設楽 靖子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>伊藤 满広</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>小出 敦子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>東垣 内明子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>益井 雅昭</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>角田 幸典子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>西田 美奈子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>荒合 知章</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>吉田 琳美</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>石川 佳恵</td></tr> </table>	薬理学	授 教授	丸 義朗		准 教授	志賀 剛		講 師	平塚佐千枝		助 教	塚原富士子		助 教	木村 利美		助 教	富田 納毅		助 教	出口 敏子		助 教	家口 勝昭		助 教	瀧田 守親		特 教	秋葉 隆		教 教	谷 口敦夫		准 教	中島 亜矢子		講 師	中神 朋子		講 師	尾形 真規子		講 師	南家 由紀子		講 師	清水 優子		講 師	飯嶋 優子		講 師	吉永 健太郎		講 師	須納瀬 弘		教 教	高村 悅子		准 教	前 昌宏		講 師	瀬下 明良		講 師	村田 泰章		講 師	廣澤知一郎		講 師	堀内友紀子		講 師	小内友紀子		講 師	津久井 宏行		講 師	坂本 明子		講 師	大澤 真木子		講 師	楠田 聰修		講 師	世川 茂真		講 師	永舟 真薰		講 師	今井 裕子		講 師	近本 真理子		講 師	砂原 美妃子		講 師	清水 英雄		講 師	松井 耕一郎		講 師	高木 康男		講 師	牧野 正樹		講 師	小川 俊一		講 師	高木 光和		講 師	小川 紀子		講 師	高木 健		講 師	橋本 善香		講 師	東谷 光代		准 教授	山崎 康之		准 教授	設楽 靖子		講 師	伊藤 满広		講 師	小出 敦子		講 師	東垣 内明子		講 師	益井 雅昭		講 師	角田 幸典子		講 師	西田 美奈子		講 師	荒合 知章		講 師	吉田 琳美		講 師	石川 佳恵
人文社会科学系	准教授	薬理学																																																																																																																																																																																																																																												
心理学	准教授	松㟢 英士																																																																																																																																																																																																																																												
社会学	准教授	諫訪 茂樹																																																																																																																																																																																																																																												
英語	教 授	木村みどり																																																																																																																																																																																																																																												
基礎科学系	准教授																																																																																																																																																																																																																																													
生理学	准教授																																																																																																																																																																																																																																													
生物化学	准教授																																																																																																																																																																																																																																													
臨床医学系	教 授																																																																																																																																																																																																																																													
内科学	教 授	神山 暢夫																																																																																																																																																																																																																																												
外科学	准教授	伊東 栄子																																																																																																																																																																																																																																												
看護学系	教 授																																																																																																																																																																																																																																													
成人看護学	准教授																																																																																																																																																																																																																																													
看護職生涯発達学	授 教授	病態学・各論 I																																																																																																																																																																																																																																												
老年看護学	准 教授																																																																																																																																																																																																																																													
精神看護学	教 教授	病態学・各論 II																																																																																																																																																																																																																																												
小児看護学	准 教授																																																																																																																																																																																																																																													
母性看護学	教 教授	病態学・各論 III																																																																																																																																																																																																																																												
基礎看護学	教 教授																																																																																																																																																																																																																																													
認定看護師教育センター	教 教授	病態学・各論 IV																																																																																																																																																																																																																																												
キャリア発達論 II	学 教授	英語 I - 2																																																																																																																																																																																																																																												
リハビリテーション	教 教授																																																																																																																																																																																																																																													
生体防御機構	長 教授																																																																																																																																																																																																																																													
感染看護	教 教授																																																																																																																																																																																																																																													
薬理学	授 教授	丸 義朗																																																																																																																																																																																																																																												
	准 教授	志賀 剛																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	平塚佐千枝																																																																																																																																																																																																																																												
	助 教	塚原富士子																																																																																																																																																																																																																																												
	助 教	木村 利美																																																																																																																																																																																																																																												
	助 教	富田 納毅																																																																																																																																																																																																																																												
	助 教	出口 敏子																																																																																																																																																																																																																																												
	助 教	家口 勝昭																																																																																																																																																																																																																																												
	助 教	瀧田 守親																																																																																																																																																																																																																																												
	特 教	秋葉 隆																																																																																																																																																																																																																																												
	教 教	谷 口敦夫																																																																																																																																																																																																																																												
	准 教	中島 亜矢子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	中神 朋子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	尾形 真規子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	南家 由紀子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	清水 優子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	飯嶋 優子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	吉永 健太郎																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	須納瀬 弘																																																																																																																																																																																																																																												
	教 教	高村 悅子																																																																																																																																																																																																																																												
	准 教	前 昌宏																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	瀬下 明良																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	村田 泰章																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	廣澤知一郎																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	堀内友紀子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	小内友紀子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	津久井 宏行																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	坂本 明子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	大澤 真木子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	楠田 聰修																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	世川 茂真																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	永舟 真薰																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	今井 裕子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	近本 真理子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	砂原 美妃子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	清水 英雄																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	松井 耕一郎																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	高木 康男																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	牧野 正樹																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	小川 俊一																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	高木 光和																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	小川 紀子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	高木 健																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	橋本 善香																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	東谷 光代																																																																																																																																																																																																																																												
	准 教授	山崎 康之																																																																																																																																																																																																																																												
	准 教授	設楽 靖子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	伊藤 满広																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	小出 敦子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	東垣 内明子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	益井 雅昭																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	角田 幸典子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	西田 美奈子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	荒合 知章																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	吉田 琳美																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	石川 佳恵																																																																																																																																																																																																																																												
<p><b>[兼任教員]</b></p> <table border="0"> <tr><td>キャリア発達論 II</td><td>学 教授</td><td>人間生活と経済</td></tr> <tr><td>リハビリテーション</td><td>教 教授</td><td>英語 I - 2</td></tr> </table> <table border="0"> <tr><td>生体防御機構</td><td>長 教授</td><td>ドイツ語 II</td></tr> <tr><td>感染看護</td><td>教 教授</td><td>フランス語 I</td></tr> </table>	キャリア発達論 II	学 教授	人間生活と経済	リハビリテーション	教 教授	英語 I - 2	生体防御機構	長 教授	ドイツ語 II	感染看護	教 教授	フランス語 I	<table border="0"> <tr><td>英語 I - 2</td><td>講 師</td><td>山崎 康之</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>設楽 靖子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>伊藤 满広</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>小出 敦子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>東垣 内明子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>益井 雅昭</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>角田 幸典子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>西田 美奈子</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>荒合 知章</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>吉田 琳美</td></tr> <tr><td></td><td>講 師</td><td>石川 佳恵</td></tr> </table>	英語 I - 2	講 師	山崎 康之		講 師	設楽 靖子		講 師	伊藤 满広		講 師	小出 敦子		講 師	東垣 内明子		講 師	益井 雅昭		講 師	角田 幸典子		講 師	西田 美奈子		講 師	荒合 知章		講 師	吉田 琳美		講 師	石川 佳恵																																																																																																																																																																																																
キャリア発達論 II	学 教授	人間生活と経済																																																																																																																																																																																																																																												
リハビリテーション	教 教授	英語 I - 2																																																																																																																																																																																																																																												
生体防御機構	長 教授	ドイツ語 II																																																																																																																																																																																																																																												
感染看護	教 教授	フランス語 I																																																																																																																																																																																																																																												
英語 I - 2	講 師	山崎 康之																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	設楽 靖子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	伊藤 满広																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	小出 敦子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	東垣 内明子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	益井 雅昭																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	角田 幸典子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	西田 美奈子																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	荒合 知章																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	吉田 琳美																																																																																																																																																																																																																																												
	講 師	石川 佳恵																																																																																																																																																																																																																																												

[医学部・看護学部協働教育 担当教員]

遺伝子医療センター 教授 斎藤加代子  
法医学 教授 木林和彦  
解剖学 教授 藤枝弘樹  
解剖学・発生生物学 教授 江崎太一  
第一病理学 教授 柴田亮行  
第二病理学 教授 小田秀明  
化学 教授 岡田みどり